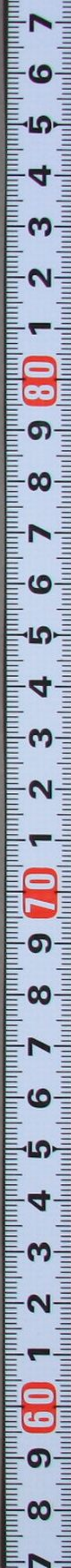
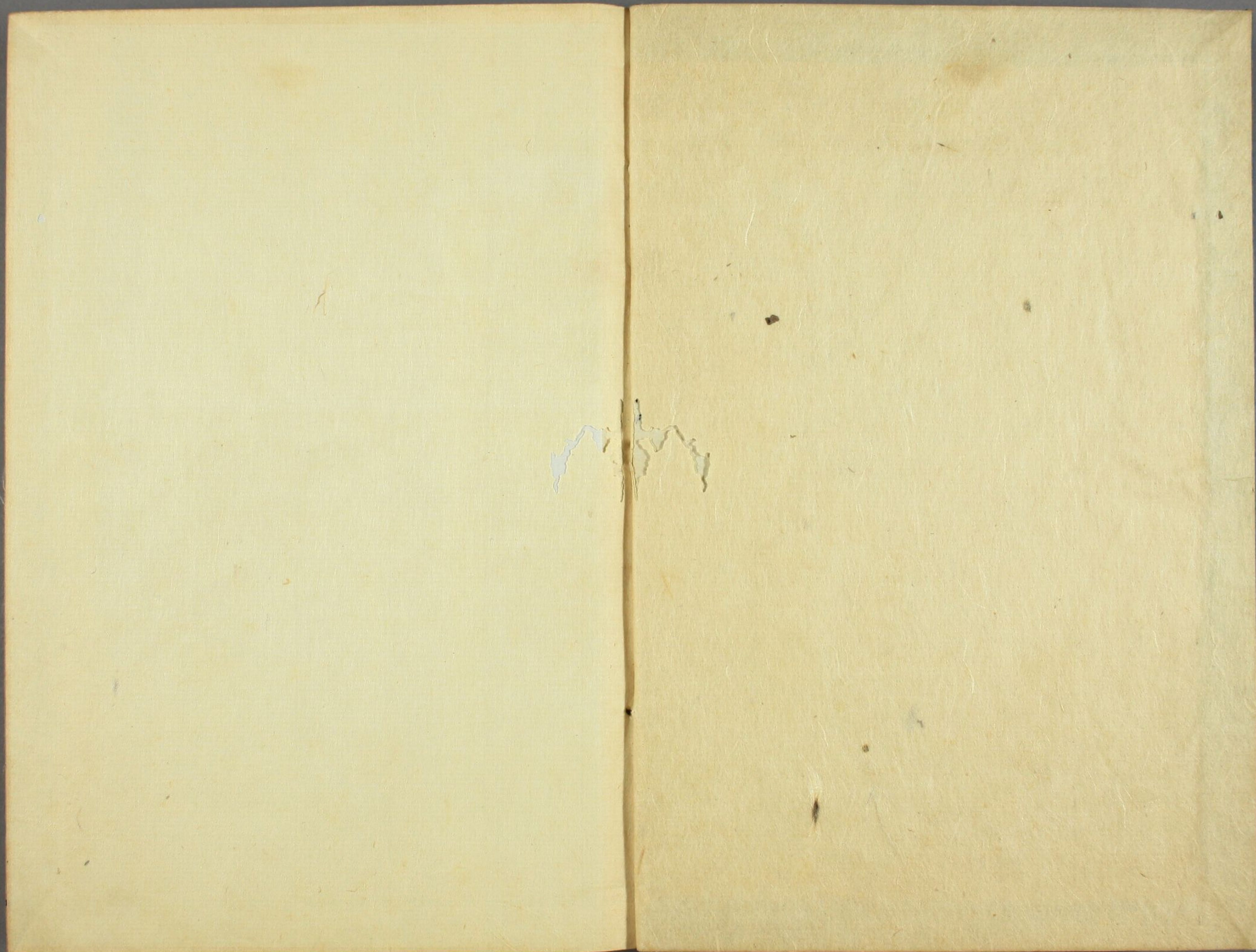




尾張名所圖會 前編

五





常津知村陽
秋永興七

尾張名所圖會卷之五

目錄 愛智郡

中村	八幡社	油江天神社	常泉寺
太閤屋敷	秀吉公お抄の方と婚禮の図	木下家定	
木下勝俊	妙行寺	加藤清正宅址	土江天神
定徳寺	日比津勝定	覚圓寺	凌雲寺
萱津東宿	米野村	柳街道	願成寺
東籬園	高塚	長良村	隱齋屋敷
杉原長房	岩塚驛	七社明神社	同田祭の図
吉田守氏宅址	願興寺	四女子村	一揚庄
中郷下司行直	常樂寺	高畠村	荒子觀音寺
前大納言利家公	高野社	下一色城址	一色川
高牟神社	芳珠寺	物部神社	物部郷



實敏僧都出生の地	太郎塚	川原神社	檀溪
香積院	八事村	八事興正寺	般若若臺の図
寄木天道社	音聞山	中根山	同萩見の図
観音寺	島田古城	東山の春興	島田地藏寺
熊坂厩跡	毛替地藏靈驗の図	猫洞池	名産松茸
上社古城	柴田勝家	蓮菜谷	桃巖寺
末森古城	猪子石	平針驛	牧大池
月見坂の図	蓮教寺	平針驛	平針古城
針名神社	赤池村	竜淵寺	梅森古城
寶泉寺	磨砂	白山社	竹野山
岩崎瀧	妙仙寺	岩崎城址	川尻肥後守宅址
景行天皇社	富士社	佛ヶ根	長湫古戰場
岩作村	石作神社	富士権現社	安昌寺

御床机石	首塚	岩木	山口村
山口神社	本泉寺	物見岩	海上洞
汐見坂山	竜谷寺	清安寺	祐福寺
御器所村	龍興寺	八幡社	御所屋敷
天瑞寺大政所	七本松	佐久間盛政宅址	同勝之
澤菴漬	善昌寺	高田村	海上寺
牛卷潭	高田重家旧宅	大喜古城	大喜寺
地藏塚	地藏池	津賀田社	龍泉寺
師長公謫居地	師高塚	劍塚	浴地藏
仙人塚	黄龍寺	白毫寺	佐久間信盛城址
熊野社	蛇毒神社	愛知塚	戸部豊政
星官	伊奈突智翁社	神興塚	星崎古城
星崎	笠覆寺	笠寺縁起の図	天白川

徳願塚	山口盛幸城址	成田氏城址	櫻村
櫻田	野並里	古鳴海	鳴海瀉古覽
上野	娘ヶ茶屋	鳴海山	片葉葎
融傳清水	鳴海驛	成海神社	八幡宮
如意寺	花井	根古屋城址	万福寺
浄泉寺	瑞泉寺	成海長者宅址	丹下砦
中嶋砦	善照寺砦	扇川	二位殿塚
細根山	桶狭間古戰場	同合戦の園	千人塚
田樂ヶ窪	両村古驛	二村山	子安清水
沓掛城址	鎌倉古道	境川舊渡	

中村

和名抄に愛智郡中村と見え文和三年四月廿三日熱田御神領
 目録に愛智郡上中村畠二十二町八反云々と見えたり

豊臣秀

吉公小田原征伐の時々に御一宿ありては中村ハ我出生
 此地ハ百姓ども作り取られたるに仁王と異名と見え
 早川隆景に凌ぜさせをひけるが間に仁王と異名と見え
 ど有る我幼年の時々に草と刈るが彼仁王我より年少
 長しかりし所いさひては強づるを仰ぐ其を恨今に忘
 れど仁王は首切て後とせんし仰ぐれば仁王いまだ存
 してありしも偽りしとて病死し子もなきなり小川砦
 けしハさうばとてせよとて中村一帯百姓小下されたる其のら
 朝鮮征伐肥前の名護屋に浄在陣の時介村ハ百姓どもハ
 浄河に委りしに中村乃者ハ一人もあらずなりハ公怒り
 て又召しつけしに祖父も治小見えたり

一帯の所如と永代百姓に
 下されしにあり

後撰集正記にハ浄
 河にありて中村

常泉寺
妙行寺
太閤屋敷
清正屋敷

物茂卿
大閣堂
常泉寺
庫裡
大閣手
種の終
庫裡
玄關
本堂
鐘樓
大黒
中山梅軒
掌中一握萬山河
又夫當年顏色多



香煙

豊沛空留數弓地
大風歌愛野春歌

石取重好
滝つとに
をらん
輕乃
ひとろし
あゝのろれ
かゝふまゝ
歩ゆ
よる



八幡社

上中村の堀の内なり天長宗匠光山長田寺これとす弘治元年乙卯豊臣秀吉これ造営天正十八年庚寅十二月如後清正の事所より拜殿ハ慶長三年戊戌清正の母の建立寛文二年壬寅山下市正文政又重修り例祭正月十七日御氏もこの式なり

油江天神社

日村の東二町にあり本國帳に徒三位油江天神といふなり今山人他天神といふ

太閤山常泉寺

日村にあり日蓮宗菅津村妙勝寺末元和九年十月十日圓位院日補の廟基こけ地秀吉公此誕生の地なり山号とせ境内に太閤寺蹟とす一木を今廢して太閤堂とす此の寺なり

秀吉公画像

容貌古雅下集古十種も出せり又古作の木像あり太閤吉野山花見記一卷天野信景此寄附和年刻を源光政主の真蹟として奇代の跡書なり今所空也公の用ひ給ひ一盃これ古墨多し毎年八月廿日開祭ありて法人羣聚す

扁額

太閤堂に掲ぐ大額として百年外のおうまが法華共にんを更にも名号と扱す何人の作なりと云ふなり法人の目に留りありと云ふに記してゆくこれと博くす尾城西南有里日中村博陸豊臣公懸弧之地也後人為建蘭者於其所差相傳寺前之狗骨

尋著英雄曾所躑孤終翁鬱帶風煙襟懷何屑漢高
大恩寵自無楚項偏不學誰知軍旅事文王且問渭
濱賢并吞日域三韓國神武此非地上傳

太閤屋敷

常泉寺に前關白從一位太政大臣豊臣秀吉公ハ豊澄小羽柴荒前守豊臣秀吉天文六年丁酉に生ま後ハ關白に

果^の里^不に於て尾張國豊智郡中村と云ふて民の家はつう五六十年

アヤハらん郷れわやの民の子は父母の名も誰ハらん一族

りどもあつたりと記し難波創業録にも秀吉ハ尾張國豊智郡

中村の人なり其本姓と不知幼名ハ日吉と云母育て父と云原

母着に日輪とのむとん天文六丁酉の歳出生とん松永貞

徳が戴恩記に秀吉公いとて我尾張の民間よりおられ草々

すハちうとれども争もさしはゆふ但我母着き時内裏れ

みぐ一所の下女をうけけり玉躰にちづきをりて

わり其夜れ夏にいくふ百の涉板若伊勢より播磨とさく

すさるもさく天上と飛ゆとんて日と懐胎ぬきとつと

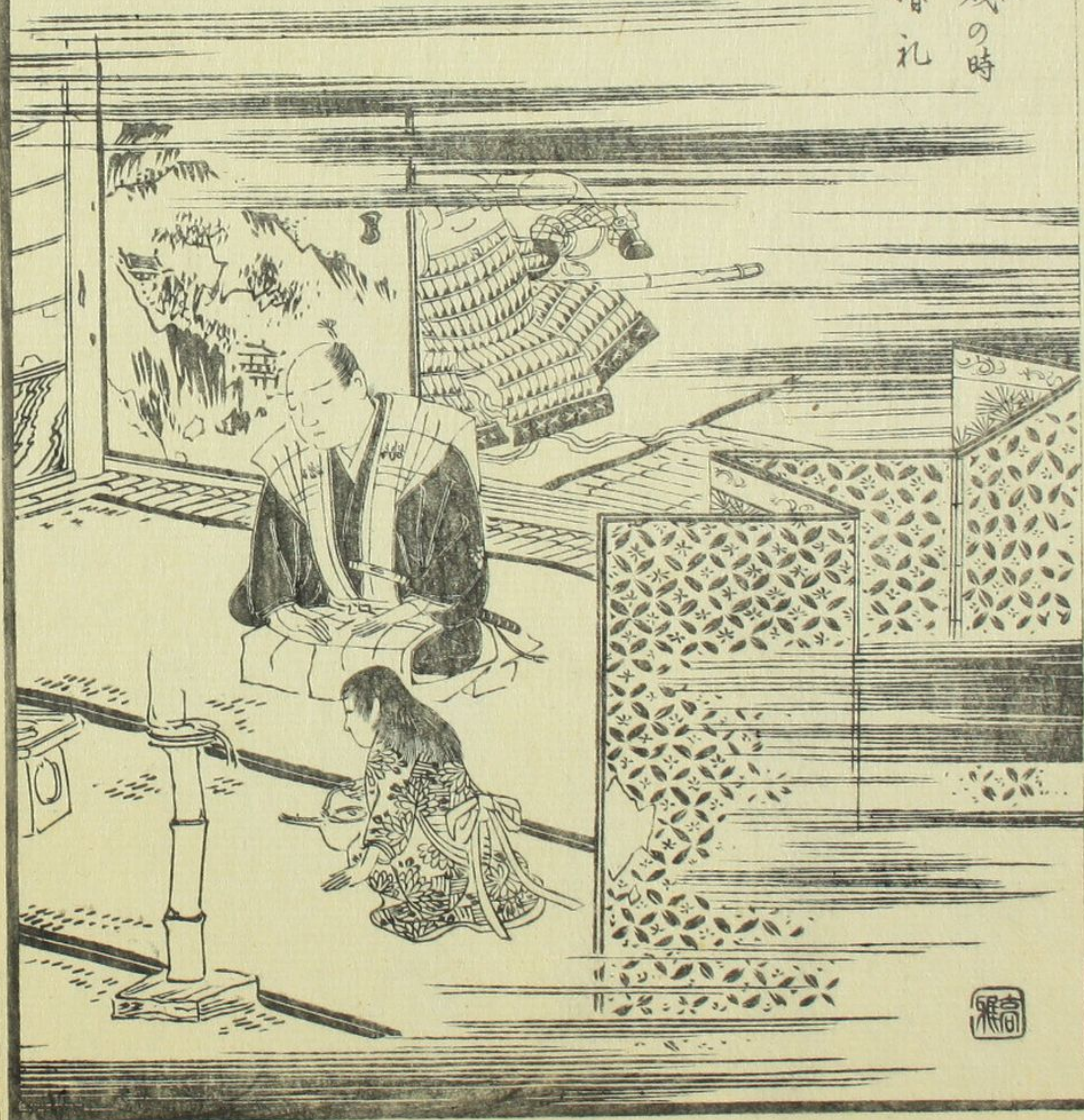
見まはとの時の帝後崇良天皇此流うらん太閤記祖

父あはとさくめ実派どもに父ハ信長と此同羽荒河保中村の

任人ささくつとるハ母公此後の夫なりと知べ公卿補任小平秀

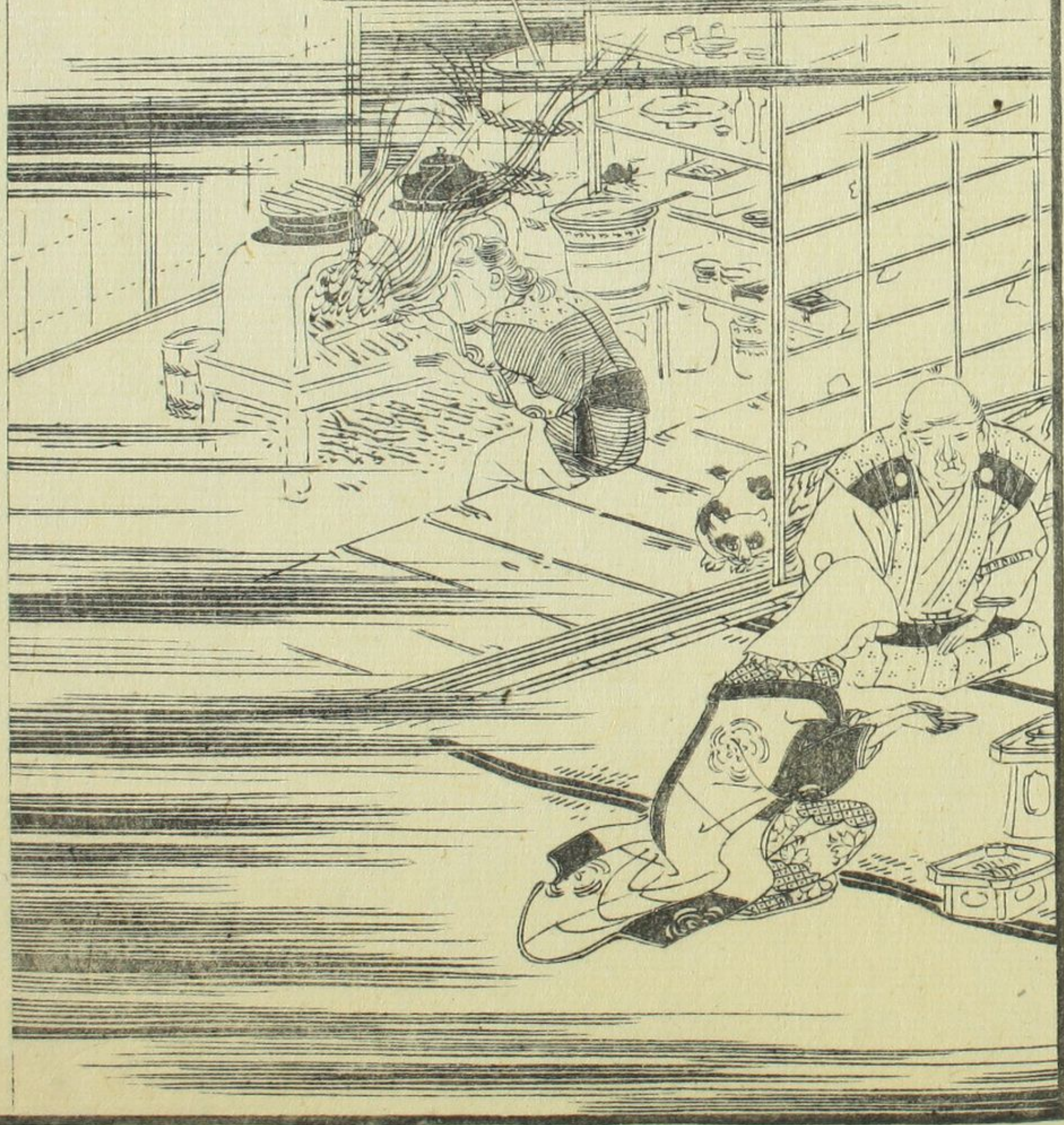
秀吉公負賤の時
お祇の方と婚れ
の図

祖父お法に少野
又お山女房に法
さけら小竹ハ利
登者なり我舞
申して娘お祇と
を十二と渡り
けもバ女房ハ小
竹がぬにハ伯母
なり一後娘と
とて夫婦や
とりり婚す
北支所とて申ハ



黒高

はお祇ののりま
お祇祝言此
時の上着ハ信
長ニ左軍長と
あまれ
萌黄と横柄
の木綿の
うりもれと
お祇とつぎ
今世婚れ
の
あ
歩る
とて
お名



鐘下旬四日遣とわくは日蓮等の像ハ秀吉公書簡天細川晴元書簡天
集古十種載りて管く人の知らぬ猫釜古瀬戸条入堯の前片鎌鐘已上四種ハかま鱈口歳法華堂大
法寺常什曼陀羅元和元年孟冬月中旬僧日蓮の弟子として清正死
と法あり曼陀羅鮮征伐の時彼地を據りて住しつゝ生その俗出家一世に
覆日遙とつひて名なき僧け外救多のれどふとと畧也

清正像贊
勇若虺虺虎妙騁兵機百戰百勝受封于肥取韓入哈
迅疾如飛緋甲犁勒儼然其威生掬王子奏凱還歸
明人落膽聲溢九圍

加藤肥後守清正宅常泉寺北西の方に舊地あり肥後守清正ハ大織冠の末孫
中納言忠家十一代の裔孫加藤四郎頼方當村に任せし其
裔孫浮正忠家清忠の二男なりて永祿五年六月廿四日
に誕生幼名虎之助以り力量智勇拔羣少し
て志も太閭の外戚の親にり志津ヶ嶽先鋒の名
より登庸也と天正十三年の秋叙爵主計改に記じ
同十六年同五月肥後國二十万石と賜りて是より五年涉一統

の後紀は四一系と揚子五十一万五千石と叙知し然本城を
して英名と海内にもく凡は人の生質廉直して智
勇備り救済の我切武畧れ不多き中文源のり
免朝鮮征伐の先陣して彼地は後子太子及び后妃從臣
と虜比類を勇威と異國一封を我
日本後代をこれ面目あり事ハ徵志録兩朝平壤録征韓偉畧及び極
正意ハ朝鮮征伐記等此法其源とんく
上下の階ハ百姓も新し桶小候と入人れ前に先亮
若もに海道端に居けは老人ハおく達者
ともとりと宜い為軍を百姓にハ是ハ誰子彼誰が
孫とともとりと河とけ冷ひてらどもとりと念比
小仰られ浪子一枚が毎度佳例とてかし冷ひりをハ百姓
とも感涙と流してゆりとんえりと上年泰陰浪石牌との比に
建て其行状と勝を其文と

集慶山凌雲寺

福系地村にあり隆濟宗系妙心寺末天文五年高村の滋之
津田豐彦が法名凌雲寺殿泰翁凌公に創建せし南溟紹化
和尚と開山とす即凌雲寺殿此位牌あり又信長も幼年此寺ありて
子ありしなり

阿弥陀堂 觀音堂 地藏堂

境内に

東宿

同村北枝にありむすうの萱津沢のひびき宿ありて萱津の
木宿ありてむすう川の西とて今ハ海東郡にづけ已
むすうの東宿の宿とされむすうの人ありて里よりくすうりにのむす
ありてむすう市の日にむすうありてむすうの地をのたむすうにむす
くねありてむすうのむすうありてむすうのむすうありてむすうのむす
ありてむすうあり

花のぬきまのむすうの流るるむすう

米野村

今上下二村あり文和三年四月廿三日安田神領目録に愛智郡薦野郷
むすうが古名ありてむすうとありてむすうをむすうとせむすうとせむすうとせ
秘宜町ありてむすうのむすうとありてむすうのむすうとありてむすうのむすうとあり
むすうハ一柳庄へむすうとありてむすうのむすうとありてむすうのむすうとあり

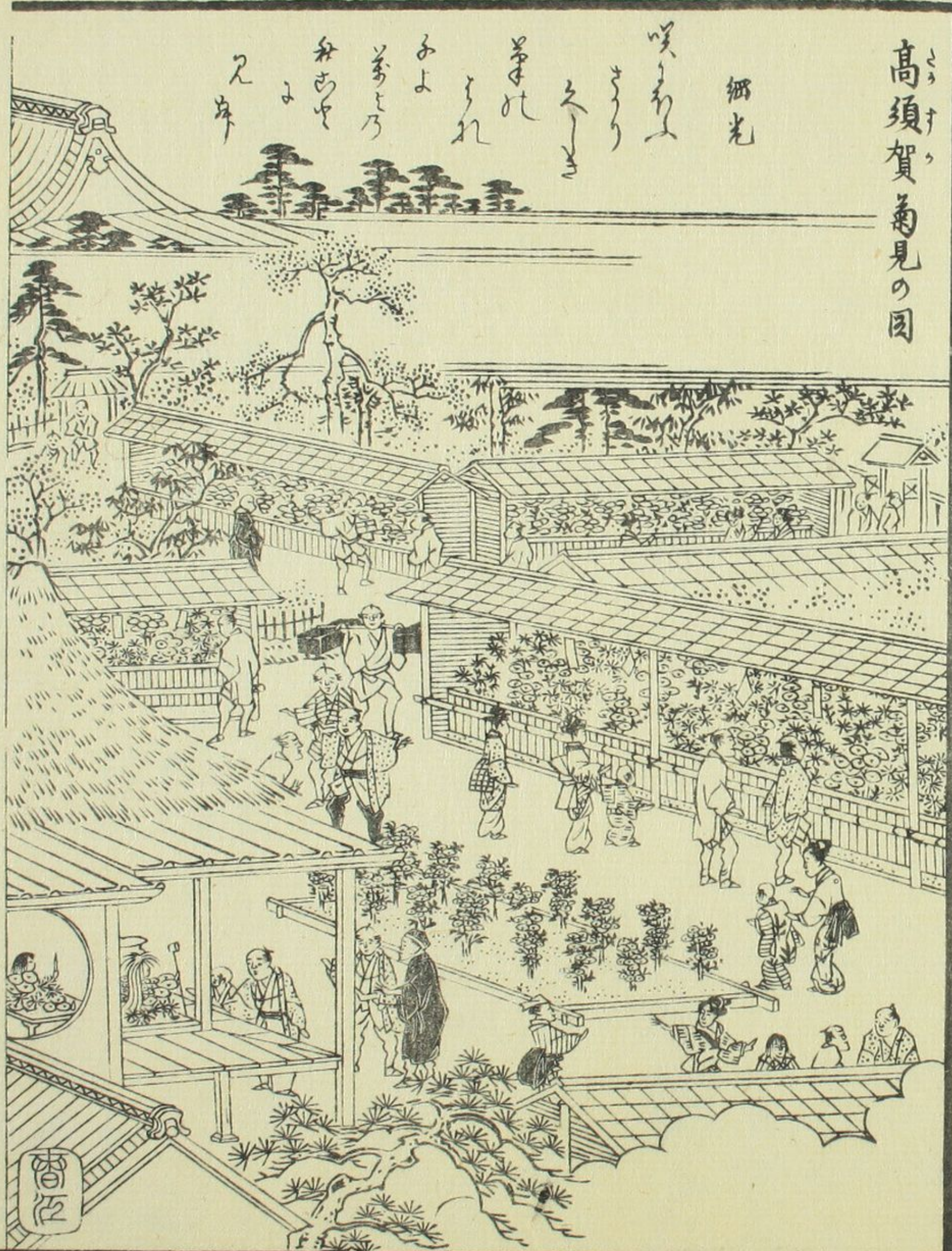
柳街道

とありてむすうありてむすうありてむすうありてむすうありてむすうありてむすうあり

高須賀山願成就寺

むすう村にあり天台宗野田村密院末今成就寺と
通稱して成就寺と有るむすうハ聖武天皇の勅願天平
四年行基井の関基天永年中修盛海の中興也古刹あり名古屋真福寺
所産の古写本理趣釈口决抄の奥書に於尾及愛智郡高須賀大乗坊
書寫了貞治三年四月十四日と見え大乗坊ハ此寺の旧号なり本尊
りて寺ありてむすうありてむすうありてむすうありてむすうありてむすうあり

高須賀菊見の園



細光

咲

さ

さ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

北東八行基井の作堂中此金剛童子ハ
弘法大師此寺作りて吳像なり 稻荷社 堀内ニ
八劍官 辨天祠 外

東籬園 田村基所老の例う農家とて墓と植ふる三百余種樹十間の花園に
植液す暮秋のころ在入地とつねに羣とて美哉す

高塚 田村の南にある古墳なり 准人の墓なりや傳説ハ一御名の古墳ハ
例として大須賀横須賀梅須賀など啓

長良村 貞治三年に百廿一理趣教口決抄の奥書に愛
智郡作卿とつねハ以里みてふき地なり

隱齋屋敷 鳥吉村 尾花の士副田与信廣ノ吉成とて人なりて
荆簀一隱齋と稱し鳥森村に閑居して後りてと後尻

小見え一旧跡今隱齋屋敷隱齋富塚と稱す

杉原伯耆守平長房 田村の人 祖父物語に木下藤吉各勢の系
より事ありてゆり美濃國めて七千石の知行と賜りけるが

俄大名にありて家入なきに迷惑して伯母算七勢に與りて
清須にまんとや商ひて居けると呼寄せ七千石のうちに七百

石とせ末く河經大才に成りりとも十ふ一とせんといふ

なりりるは小杉原伯耆とゆけるハハ七勢に與りけるなりと

ありりりるは其伯耆はなほひて太閤天下一統といひける

とるが但馬國豊岡の城三万石と依り慶長五年の乱と

長房 御當家に志と通じり本依りりるや安法とて

岩塚驛 東海道佐佐木より勢田詠りり水改此馬つぎ文和三年勢田神
領目録に愛智郡岩基郷とありハありて基ハ墓の深字ハ

白湯集 朝發名護屋 大田錦城

日輝 金尾躍金龍 回顧城頭千樹 松樓檜高擊 御嶽

雪依 稀桂土望蓮奉

東行活説

七社明神社 岩塚村 本社 日本武 攝社 八劍官 高座官 大福田祠 入て換

田の七神と祀るに七社明神と稱す 末社 若宮八幡祠 天神祠 大日祠 弁財天祠 三狐神祠 熊野祠

白山祠 當社 日本武尊五十音山の意神と退治せんと勢田よ

と彼山よむりり道け所と皆く慰ひ給ひり旧地りて其時

御腰とかけしり岩として本社のおれに半埋して存す又

其例小大の塚あり而所岩塚の称是より起るとり○例

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

祭 正月十七日ありて田祭といふ俗に種すき祭又きぬとさまよふ云甚古雅なりとあり

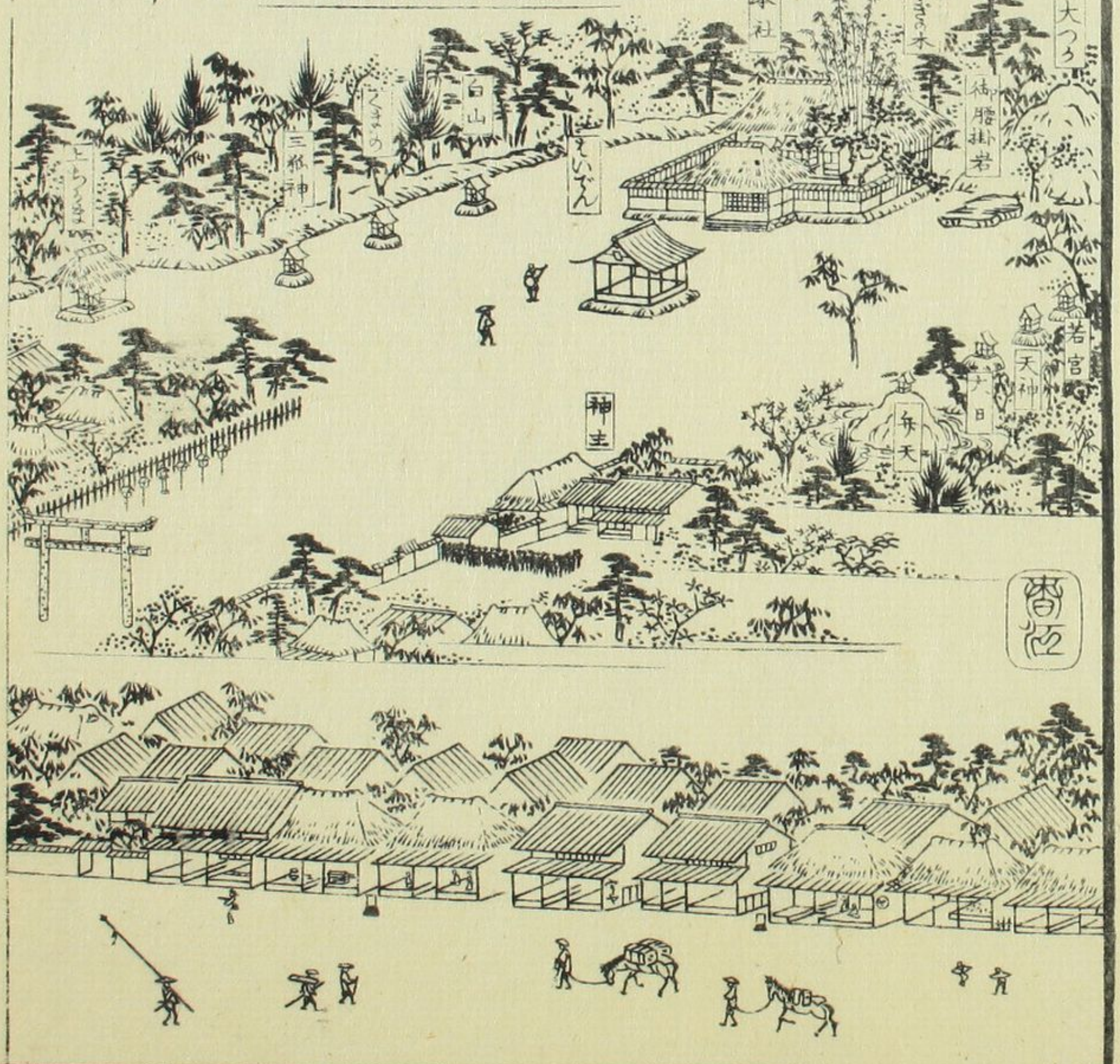
吉田守氏宅址

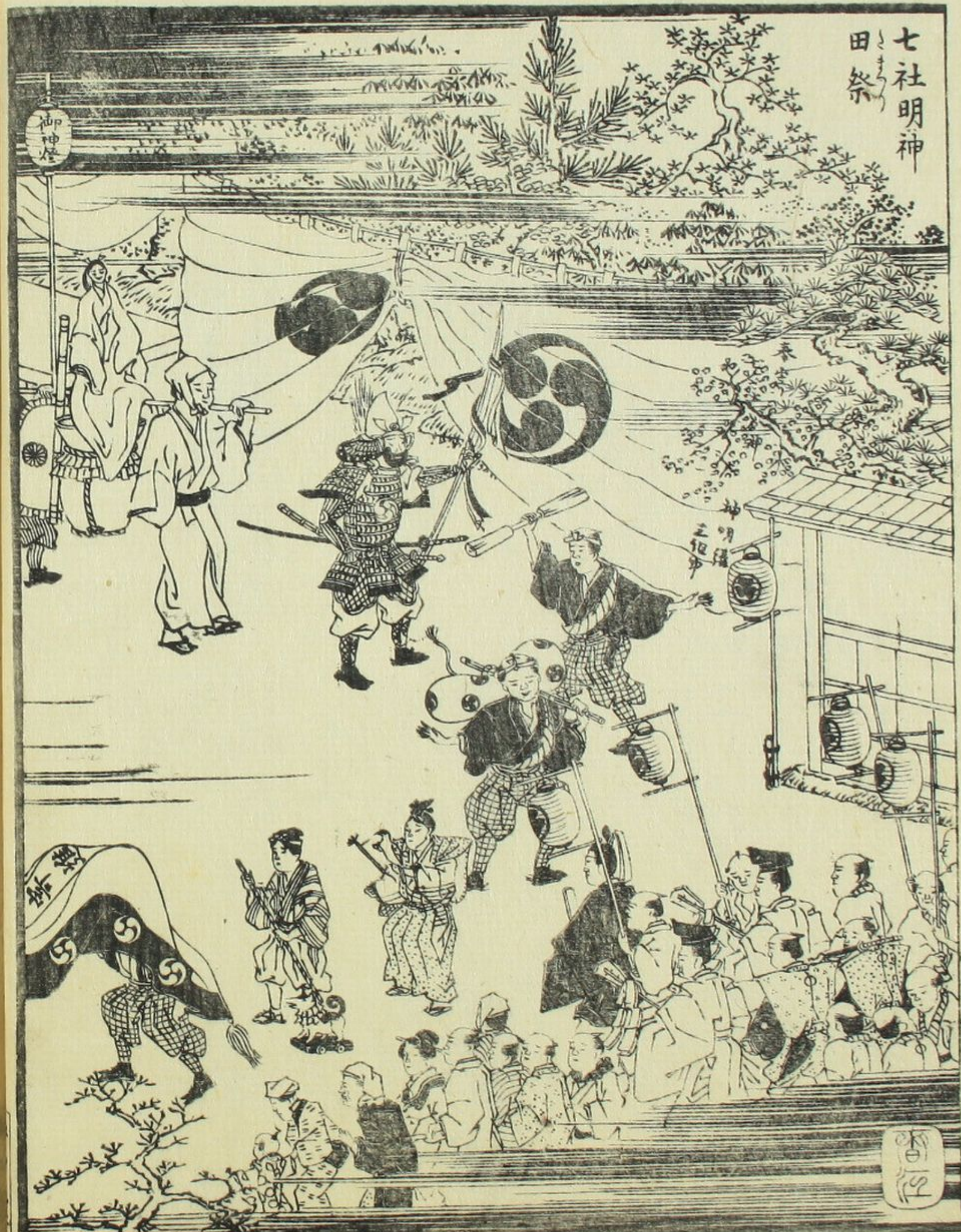
岩塚の城に吉田内記守氏入道長英ハ斯波家の一族なり武衛城
月十二日信長と伊勢大河内の合戦に大手の長坂を討死し其弟及以孫三人と長
英は討死す其長五半清波の城に福清正則 神君は伊勢にて金鐘子下りして
石田三成謀反す以正則定て信州少輔方人して 神君と捨て登る一是吉田見丹
家と母貞すき内室より急ぎ三河迄と出逢ひ正則と討死清波の城と討つて 神君
の侍侍清波と侍んと水野和泉守忠重に所領もろとバ法に合せしむるに旧切の者ど加り
ひ報兵七百人中延保一お侍るに書にお達し正則 神君方れ先陣して上りる上水野忠

岩塚驛

七社明神社

當社の神木ハ
竹相のて本社
のまにらりりり
三抱余又地より
二るをよたうろろ
ありくに教十か
れ竹生かき小う
菘のやーむま
竹もせりてま
枝葉祭養せむる
寄せハ代よんせ
莫に青村しり





重し不返に如賀井強八所がめに擲死し吉田足戸が子とて大にたぐりて後
寺之の志をせしめし中妻のけしは後中秋田庄内とよみのと計らひ足戸も後
の族に於て我くハ津分國に醫居の傳人となりて今度の津大事に一奉奉と結交し
正則對面より其の志のりハ為く及ぶと其の志を説きりてやて二人と捕へて
獄籠せしり其の志のりハ為く及ぶと其の志を説きりてやて二人と捕へて
石田に与カセバ討果すき支度なりといふに通をせり去りて去りて去りて
たといふ情とありて正則 神居(實に忠節と云ふ)吉田足戸が志と云ふべき
かあり正則勇猛の良將なりといふは教不仁の玉のり多かりしが一統の
作付くより津分自ら拓く正則
哭害とありて

鬼頭山願興寺

牛之村にあり浄土真宗五派三派本所寺村本院寺あり古後によりて
天左宗より一が世々にいりて正法に基所堂一寺のこより是今
の尾改町 本尊 阿弥陀

四女子村

九州の守護大橋地所平貞誠平家後裔の伝由ふの後東大夫高春が扶おに
ありけりおのりに頼朝の派金にりて弟と三浦依元を弟景連に下りて見真野五郎
母より二女と依元木三郎を弟入道西念に下りて見小三郎盛季が母の三女と女
宗頼四女と大友四郎大夫経家に賜りて一彼女子も出生の地と存世四女子村と
いふ海合記及び大橋家譜に見えり彼片端里に豊饒の人七人の女子と七所に死
て一女子より七女子までの村名のこよりと云ふ
信託といふはつるが所と云ふは定りて

一楊庄

此の村は廣く一楊の庄のこよりして本郷村ハ則一楊のこより東渡に是久
十年三月廿三日中將家依有殊神宿願 太神宮御領六箇國所被止地頭職
其所云尾張國一楊御厨云云と見え玉葉及び
神鳳抄等にも 太神宮の御厨れいにあり

中郷下司行直

中郷村のこより玉葉に建暦元年六月廿八日未刺謝藏人兵部太輔家宣未
下宣直事云云祭主御言上大神官司祿宜等註進本宮使権祿宜荒木田
近朝申馬尾張國一楊御厨中郷下司行直并後見寛養法師等彼行直与真時資財相論問
任次第不知首為致沙汰罷向在地出立處所從并百姓八十餘人不論是非從馬引落割
烏帽子破損狩衣打破面良及種々耻辱古今無双狼藉事云云と見え玉葉古言本
傳字多く文義よくいりて之は争論百八十八人真時に於換て下司行直及
び寛養法師等と馬よりいり
狼藉及びいり

如意山常樂寺寶珠院

同村にあり真言宗名古大須真福寺末元ハ泰隆和尚
開基此伽藍よりハ荒廢して今ハ隆光院
と掌 本尊 茶師め末弘法大師の作又不動の天像あり

高畠村

此の村ハ一系源國重良公の庄園の地より桃華葉葉に尾張國高畠庄家門由緒
之地也畠山徳本禪門時付家門了此又依有要川賣与尾州廣徳寺云云高畠
庄者買得之仁萬一令得替者致訴訟可致知行云云文明十二年卯月上為庄大將寛
倍任筆注置也と見え東鑑にも建久三年十二月十四日一條前黄門書状卷着以亡室遺
跡廿箇所讓補男女子息云云尾張
國高畠庄器所松枝領とあり

浄海山觀音寺圓龍院

荒子村にあり天台宗 天平元年越の大徳泰
野田村密院末

澄和尚の開基四十二年開山僧自性建之永禄八年法全

運の中興して尾張四觀音の一寺なり元禄年中信因空

南ふ来寓り時救千れ佛像と彫刻なり抑因空師ハ佛

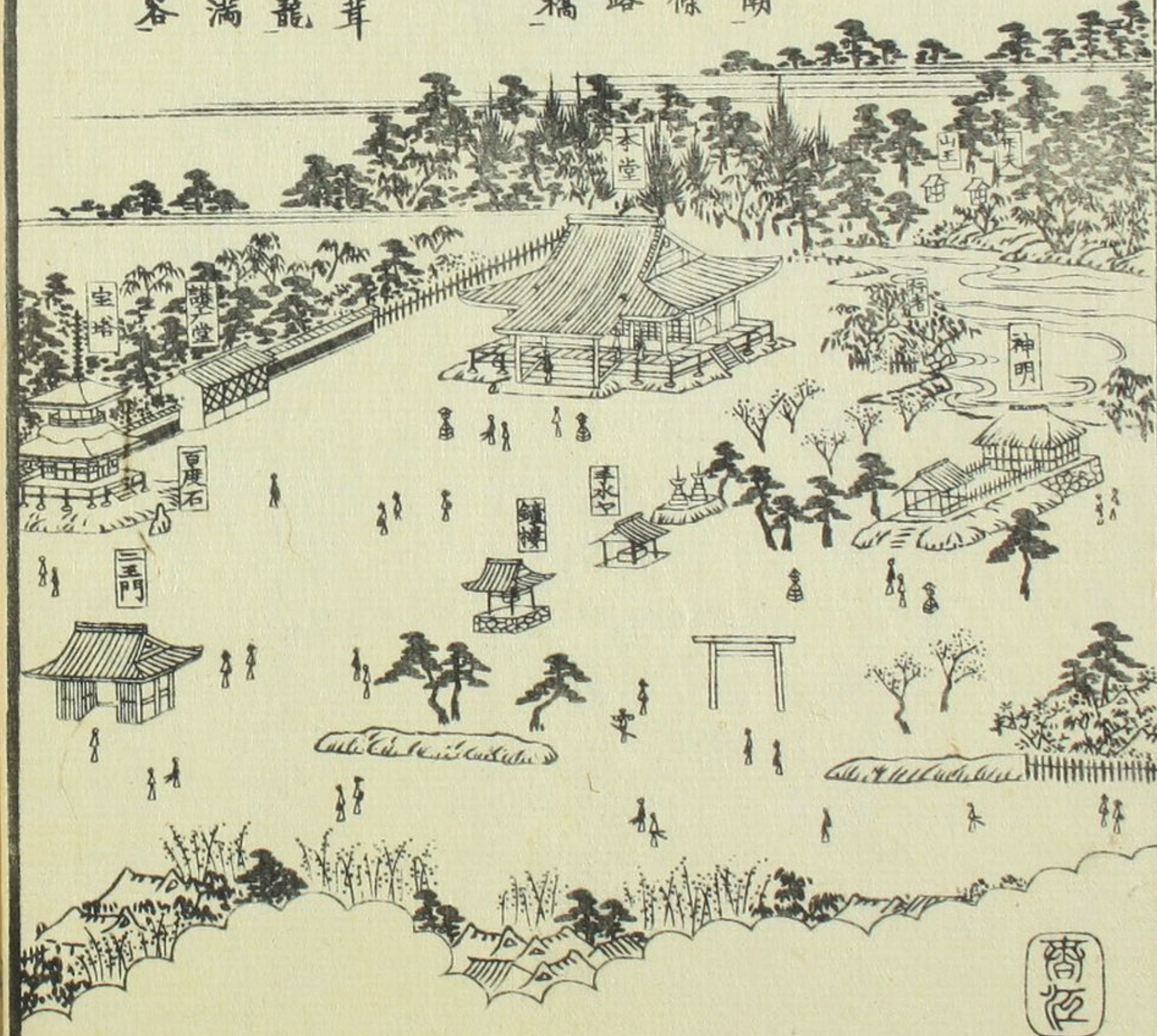
荒子
觀音寺

津金胤臣

春雨聲如接海潮
觀音實刹一菁條
紫藤為架天台路
疑是雲霞垂石橋

紀世德

藤花深架紫蒙茸
池上蟠根起卧龍
香刹看來瑞雲滿
補陀高興絕塵容



香印

溝口藍光

縷絡曼延雨露饒夏
初春晚景堪描此中
知有未迎聖統屋紫
雲凝不消

弘子

待是了

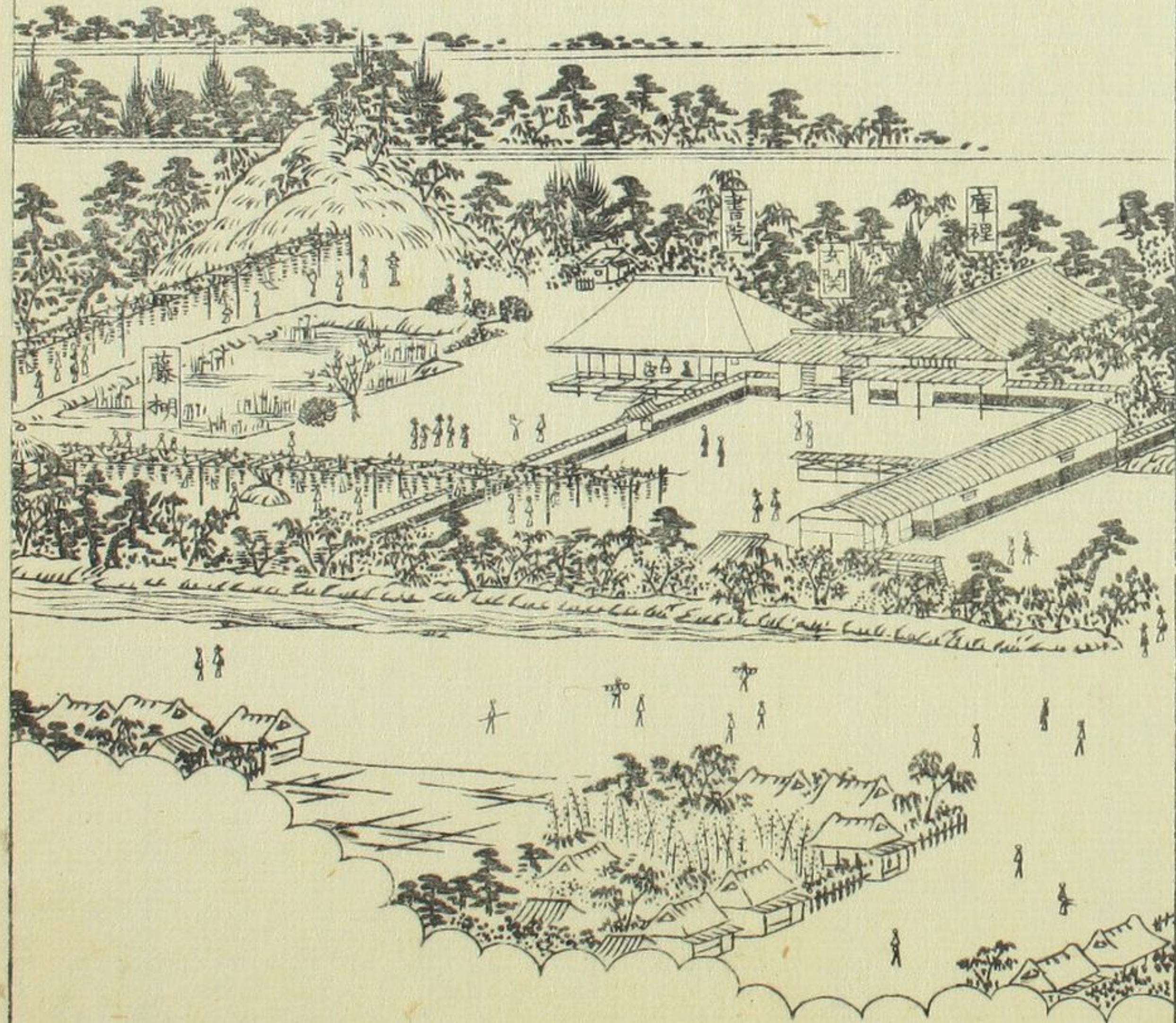
雲之見也

涉伴乃

しりぬ色に

しけ

香る



高牟神社
物部神社



かたきや
美うら

沼苔に

法水系

茂龍

ひきくぬい下二色に漢撰と業と者八百余ありて日毎に府下に運備せし其數
と燧て石反と製す又こ舟後一乃て西の方海東海西の二郡へ通ふ是と下二色の
後とこふ

高牟神社

古井村

成勢天皇の清宇れ法たうら 延喜式に高牟

神社本國帳に従三位高牟天神とゆへは社して佐に古井八

幡と称と

本社

祭神高牟皇產靈尊 清和天皇の勅ありて 延喜天皇と合

正辨ハ取に系多し非像之反に舟出八幡とも
稱す寛永十一年山下大和氏傳後と加へり

例祭 九月十五日 打撲り

神宝

舟等より書りし
とひ修へる大船

金竜山芳珠寺

日村小川に傳承系東部妙心寺末より法お家より寺号も芳珠寺と
号す大地よりか敷なれ兵火にかり荒廢せりと天和二年九月傳取

現任良室とと徑管一竟に徹せり一梵園くうらぬ
うれば多法の人幸に絶つる 祝靈話おれ

本尊

地蔵并小師等
の作りて灵佛

物部神社

俗に石井堂といふ建中寺れ東も車道の東にあり自然に地よりわら一巨
石の上に社とたてり 延喜式に愛智郡物部神社本國帳に従三位物

部天神といひありり 祭神宇麻志麻知命 古社ハ荒蕪衰廢り
と元禄年中 國君祠と重修し石牌と立させしを由り

物部郷

和名類聚抄に愛智郡物部といひはらとの地よりわら今定り

實敏僧都出生地

文徳實録に齊衡三年九月癸卯大僧都傳燈大法師位實敏
卒俗稱物部氏尾張國愛智郡人也云云と凡元亨教書

に教實敏姓物部氏尾州愛智郡人母夢室中建三層塔竟而有孕延曆七年生日有重瞳耳孔相通年十三從伯父中安法師入京云云兼和八年於大極殿講宸勝王經帝賞辨捷擢僧都齊衡三年九月卒年六十九云云と記せしむる物部氏云々

太郎塚 古井村にあり古井太郎といふ者あり性怯弱なり一軍軍事ありて撥兵と乞ふ人ありは兵と出たりありて戦に人と

川原神社 川名村にあり延喜式に愛智郡川原神社本國帳に

從三位川原天神といはれ社あり今神明社と稱し伊勢國

度會郡川原神社と曰神あり境内に菘多き菘反れ文ハ

新樹のこもり小おかりて繁く森林青紫とまどり矣小

壯觀の一勝地なり ○末社山神祠若宮祠辨財天祠等あり

檀溪 川名川の下流なり風流ありけと十五軒とよま地より妙豊寺山部道也

味岡山香積院 日村にあり曹洞宗寺也城田龍洞寺末久享四年

本尊 古伝像也 靈宝一葉觀音画像 永平和尚像也



川原天神

葉さうり

お殿

は やま

我亮

香燈

檀溪

士朗

枇杷園句集

茶の けり



香印

般若基

安永年中香後院... 般若基の例... 謝菴

一切経蔵

般若基の例... 謝菴... 謝菴

八事村

康正二年... 八事村に... 八事云々

八事山興正律寺遍照院

八事村に... 興正律寺... 遍照院

能満寺の例... 高野山... 西山... 东山... 有縁... 石塔婆

般若臺

般若臺山居

僧雲卧

川名山頂勢
連天物外閑
居絕世綠夜
聽鹿鳴唯靜坐
松風殘月思蕭然

自題謝菴

丹羽嘉言



謝菴閑寂晝
如夜、如夢、
時偶如覺日、
清閑以寂滅養
浩然之氣樂在其
中但未能免筆墨
業障聊書所苦以
遺知音云

登香積院

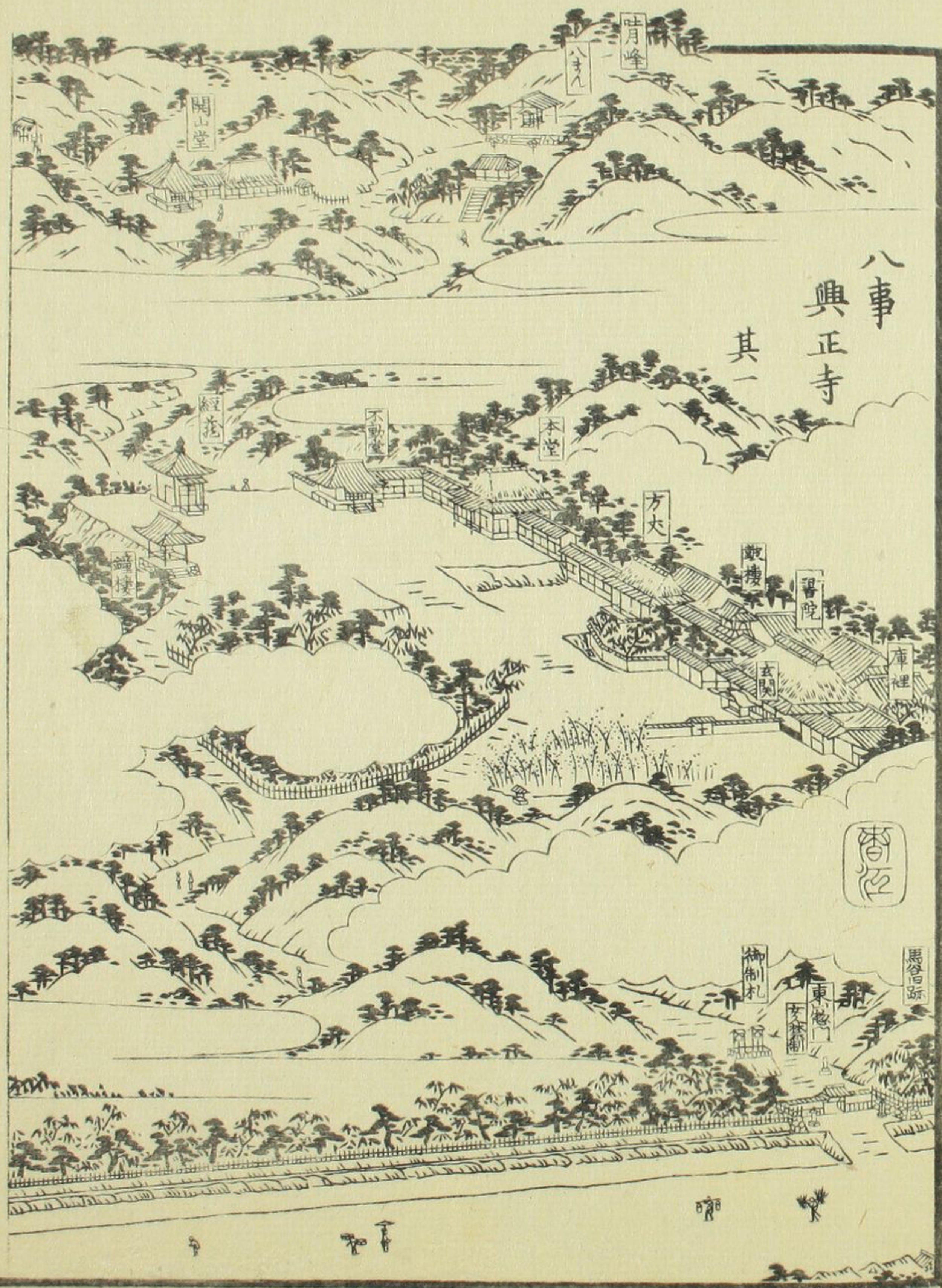
國枝守義

杖山遠隔
曳杖登香刹花開五葉濃
風前青靄亂檐外碧峰重
僧對半輪月鶴眠千歲
松深林春未老坐聽度
疎鐘

香積院



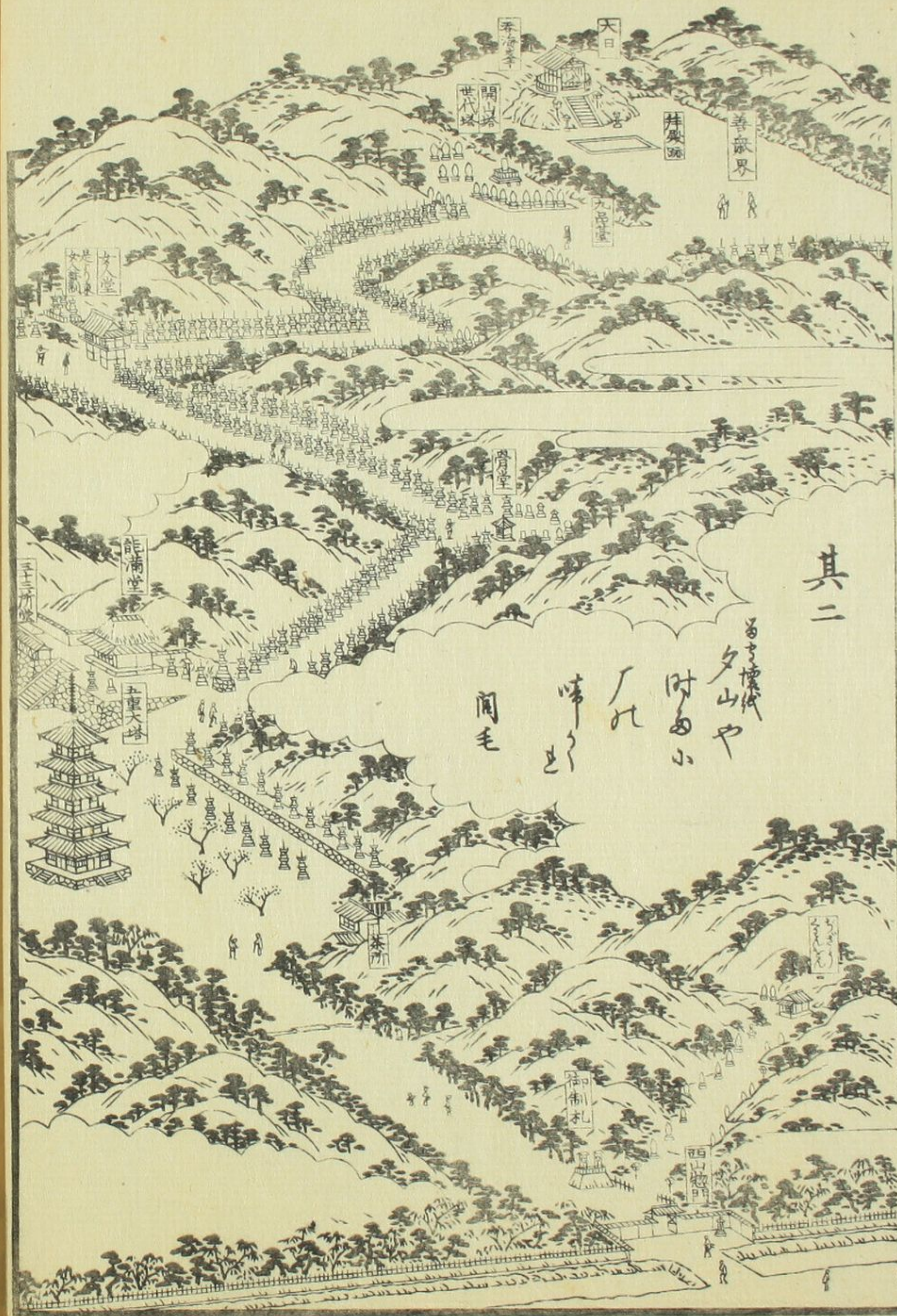
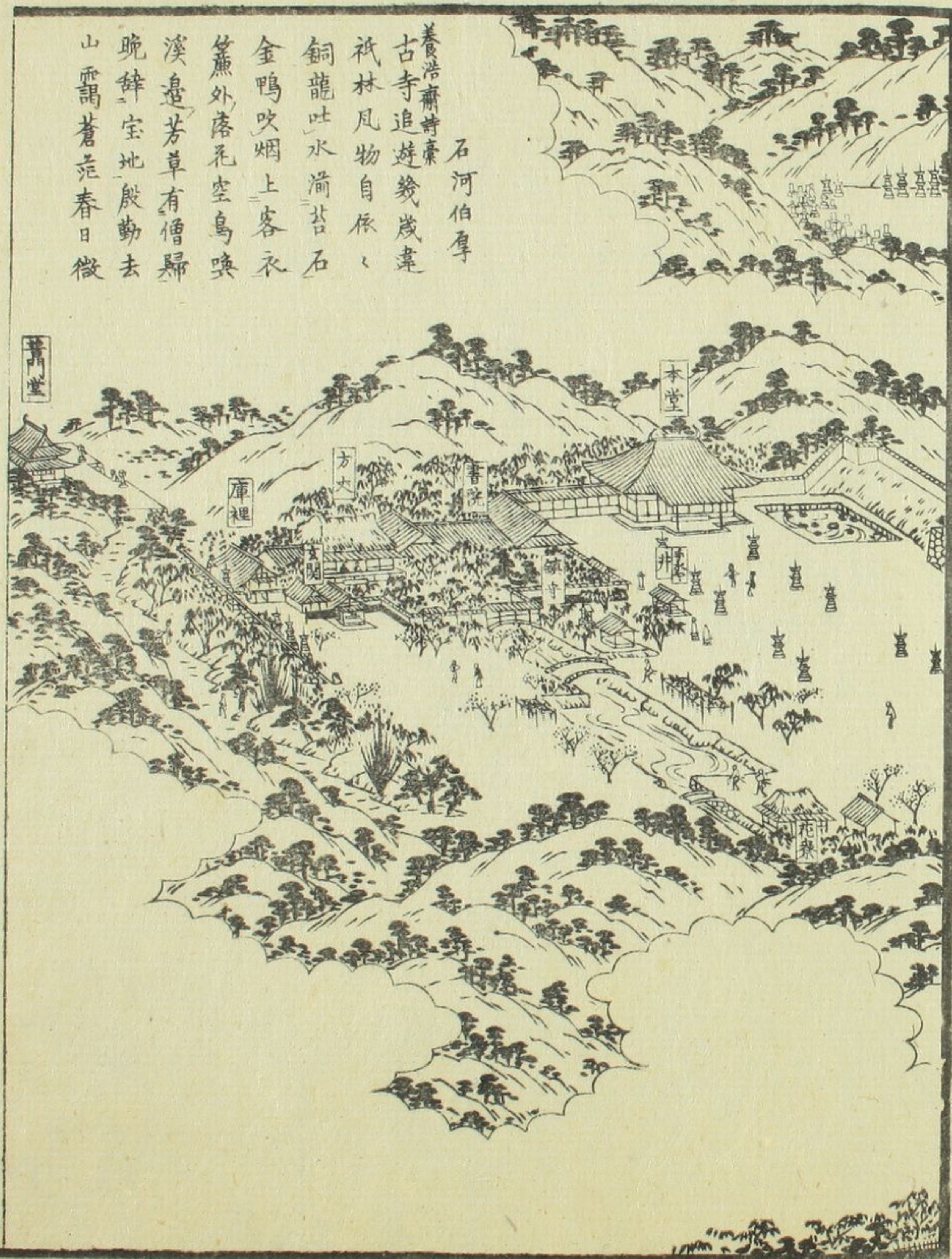
香



八事 興正寺 其一

ありたへ山と登りて女人をわたり即ち東山北入口之是より女人の
 手話と禁ば女人堂より半町程東に九品臺と稱して九品
 佛の石像あり此山にありて岡山塔ありけ山と善衆界
 とよみある大日如来居まほしうこの山と吞海峯と
 号し眺をよむるなり又東下りて岡山堂あり其東に信
 守八幡宮の社ありけ所と吐月峯と号し以月の源をり
 夫より東山の本堂ありあつ委し一圓と見て忽し一〇惣本
 尊 大日如来の河像境内山頂に安置し
長一丈二尺産石の下五間四方なり 東山本尊 馬頭
観音 西山本尊 正
観音
 寺寶 釋迦如来楞嚴會上説相 思恭
の著 釈迦大日薬師の
 三尊 赤柵檀
淨厨子の鉄刀木 迦羅木虚空藏菩薩 枝珊瑚珠 大枝十
二本小
 枝十 五本 碼碯石香盆 靈照女 古法眼
元信著 揚柳観音 明の戴
文進著 羅漢画 每
尊
 尊 白衣観音 北殿司
の著 魚藍観音 即非淨
師の著 五百羅漢水と後
 圓 思恭
の著 鑑真和尚竺布廿五條の袈裟 泉及大鳥山
より伝來 弘法大師

石河伯厚
 養浩齋詩
 古寺追遊幾歲
 祇林凡物自依
 銅龍吐水滴苔石
 金鴨吹烟上客衣
 簾外落花空鳥喚
 溪邊芳草有僧歸
 晚鐘空地殷勤去
 山靄蒼茫春日微



其二

夕山也
 時由小
 山此
 味
 間毛



東山の春興

香實

幾擔行厨
幾瓢酒人
結隊入東山
東山滿地花
開處未了看
花醉倒還



陳李琳

見立天氣克風
行寄木山毛氈
布芝生酒樽置
樹間敲三絃始
躍戲藝者忘還
蹴押野山興可
隣開帳開

無孔苗

花衣

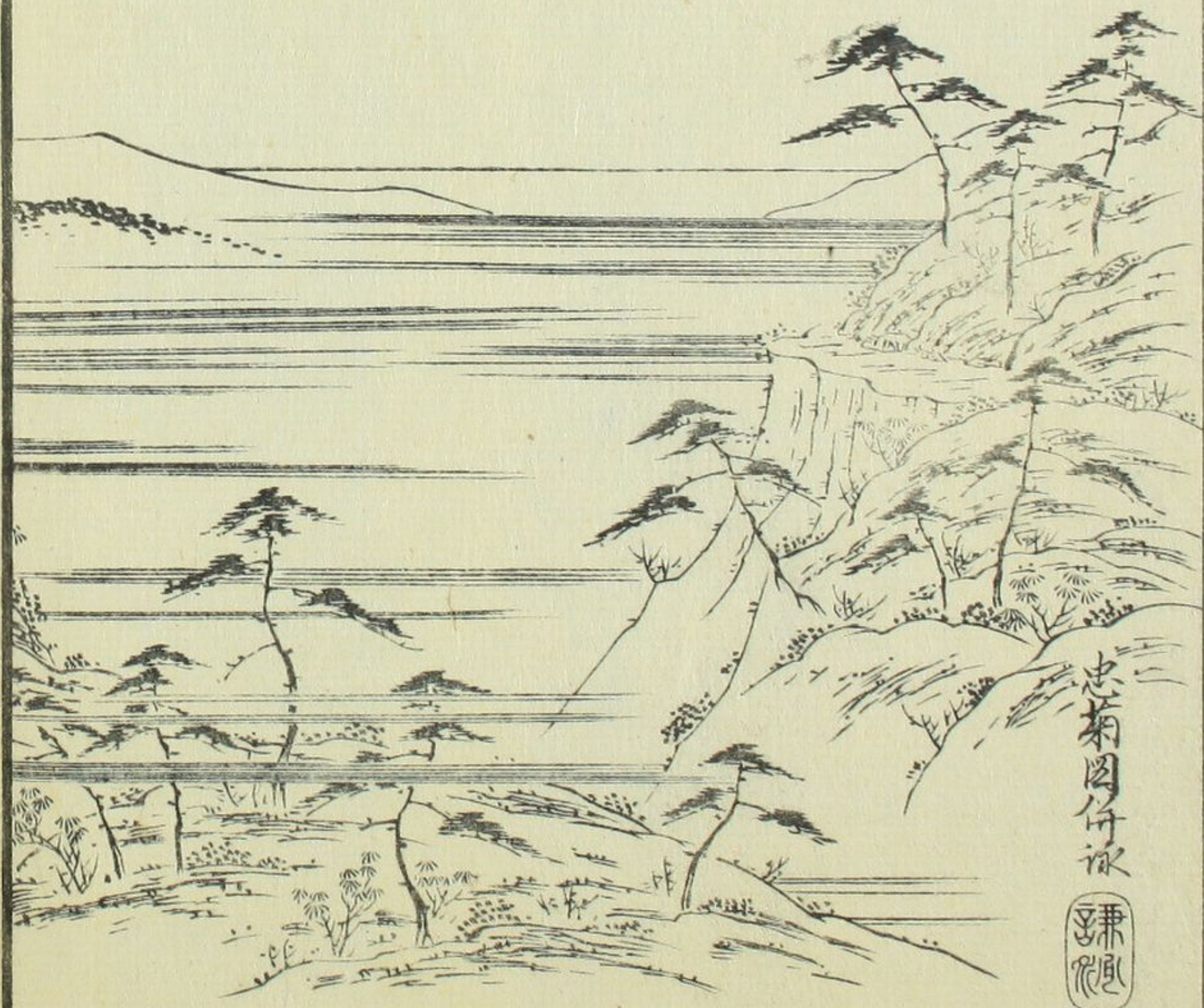
泥もけしけ
紅裏に
足さやう
けよび
山



音聞山

姑射城東一古
丘于今尚見石
林幽海風時送
潮音得引難松
濤到枕頭

曹菴



忠菊圖何詠
謙

秀き此山の時

名くおろ

まがたなり

まゝ来て

おけ

拒圖

流りに

写し

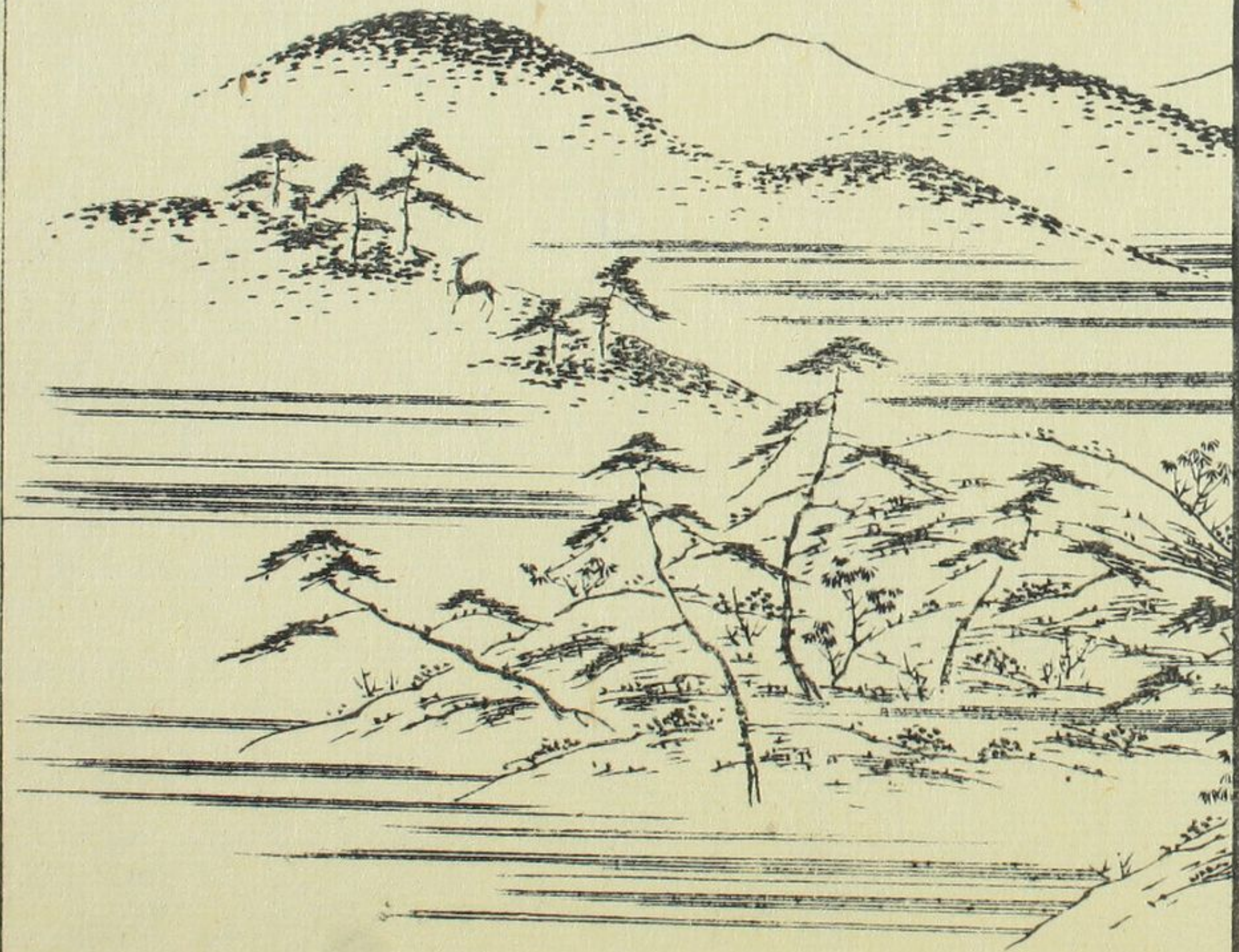
流乃

秀き

山の名

まて

ん



玉松



定まらぬ
まはるる
の
あし

中島
根村
の池
畔の秋



月見坂

乾堂

屈曲溪山路高低
數里來拳頭攀月
阪臨眺夕陽閑

正龍

さゆけーな

秋の

あふいの

月見坂

さき峰とくて



香江

つろ

いこうハ

野水

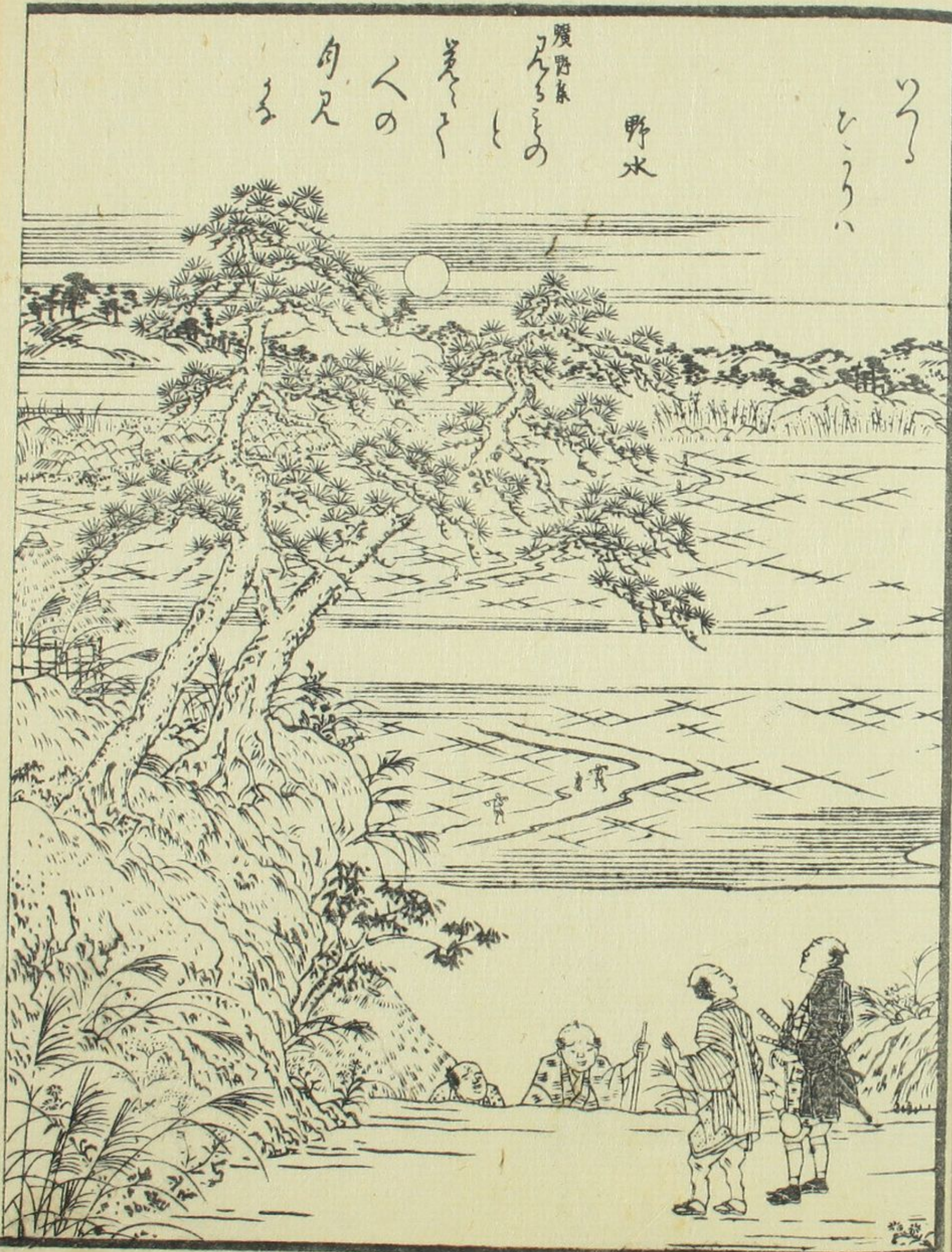
巖野水
つんちの

まきく

くの

月見

ま



猪子石
蓬莱谷

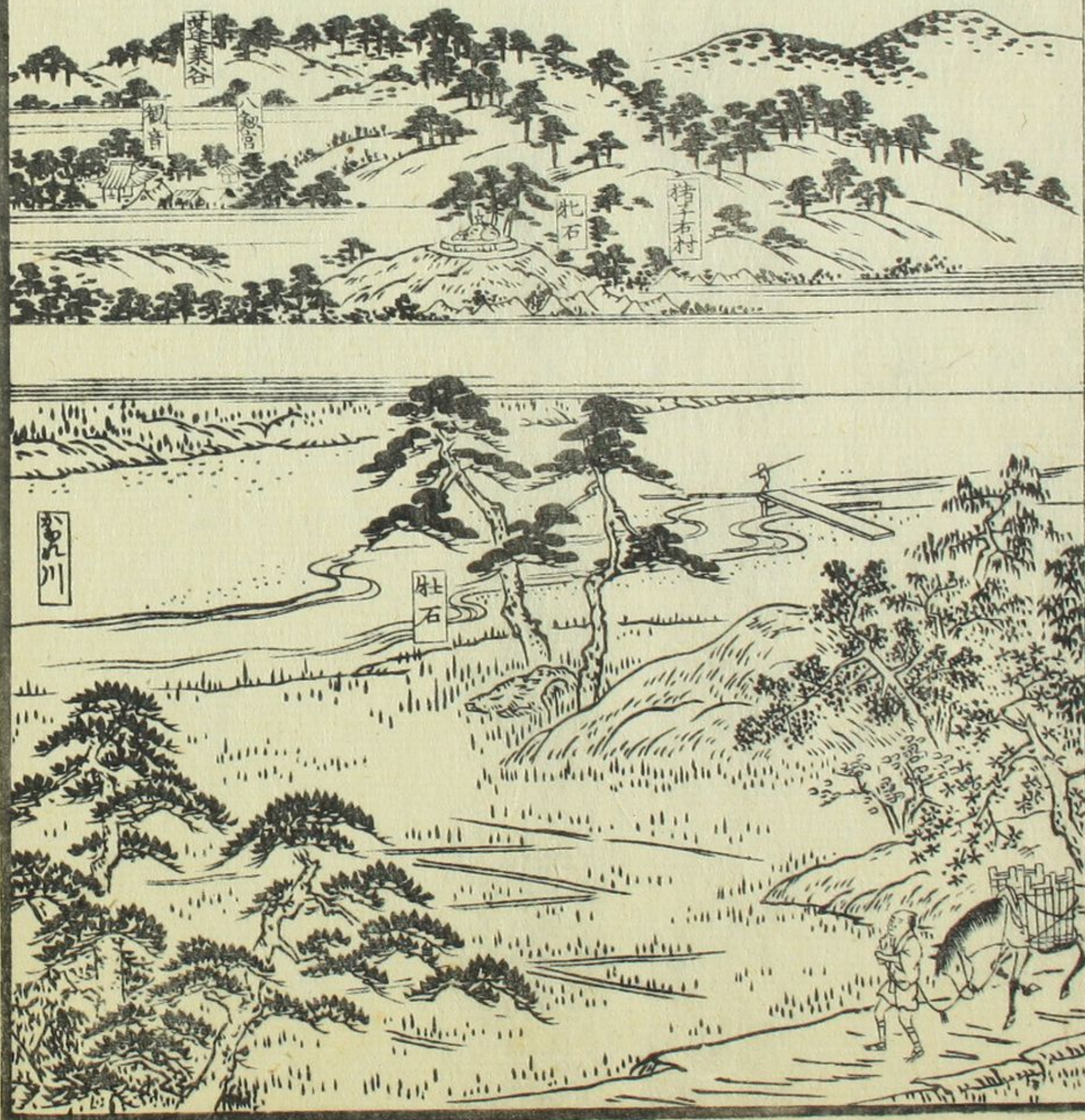
蟬あぐや

まのり

いし

小石川

存古



赤池村

神鳳抄に尾張國赤池とありて
旧き 太井官の御厨あり

蟠住山龍洲寺

赤池村にあり曹洞宗岩崎妙仙寺末天正二年丹羽軍刀
の建まうり 古所に地を削りて寺号し

梅森古城

梅森村北の方にあり 松平三茂高祖の居城あり 三茂は古村眺景寺の
傳に古村に松平三茂三茂三茂の末子道西天文七年いさ中興して

代々血脈未断して伝はるるなり又
古村に松平助成の居城あり

竹流山寶泉寺

竹流村にあり曹洞宗岩崎妙仙寺末天文四年丹羽和泉寺氏從
善提の爲に建まは境内に氏從の石牌ありて宝泉寺殿龍潭道

成太禪定門折戸城上城主丹羽和泉守源氏從明應六丁巳八月六日卒
同村西邊と云所にい人の城址あり氏從清和源氏一色冷所龍氏の五代平三郎氏
明也丹羽和泉丹羽庄に末住して始て丹羽氏と稱し氏明四世孫氏從より

の城と築て居たり男子と多くて本朝武林傳に見えり

磨砂

竹流村の山より磨砂の白砂として磨室洞室と云く
あり土人これと云いし中一程の長さあり

白山權現社

古に村にあり大永三年九月十日丹羽義統が氏從より
今に退治さるや若狭岩崎松枝村の生土神として奉りて

竹野山

岩崎村西邊にありいさりの山なりて樹木多し
竹野山の西邊に坊山のありていさりの山なりて樹木多し

岩崎瀧

竹野山の西邊に坊山のありていさりの山なりて樹木多し
森面の名ハ龍虎十侯して實に人の耳目と爲り

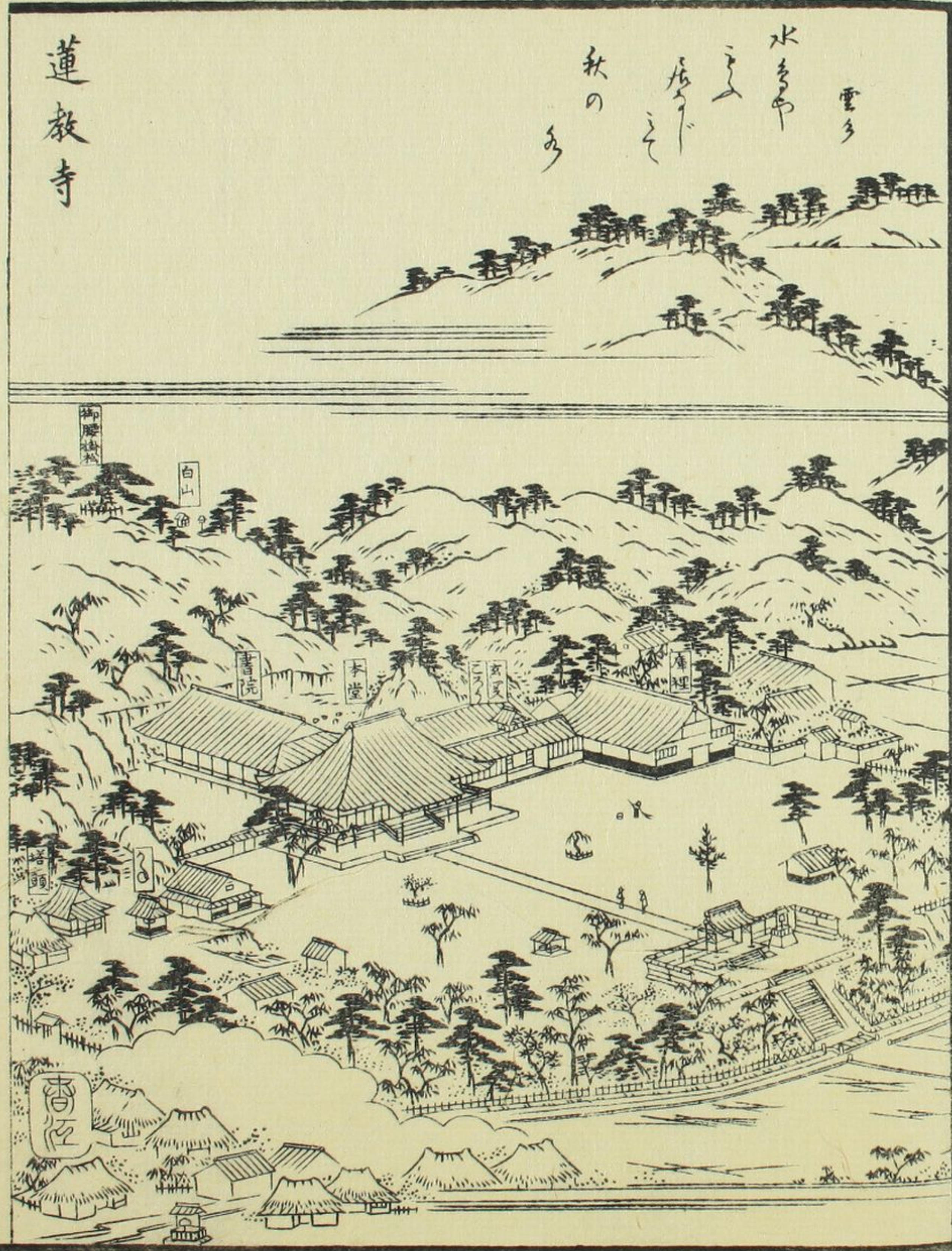
大椿山妙仙寺

旧村にあり曹洞宗岩崎妙仙寺末永正元年丹羽義統が氏從の
建まうり 旧号万年山長松寺といひて永禄七年今に改む

仙寺ハ氏從の法名大椿院ハ其室の法号なり
寺室に西條助助氏次のおり大元の陰なり

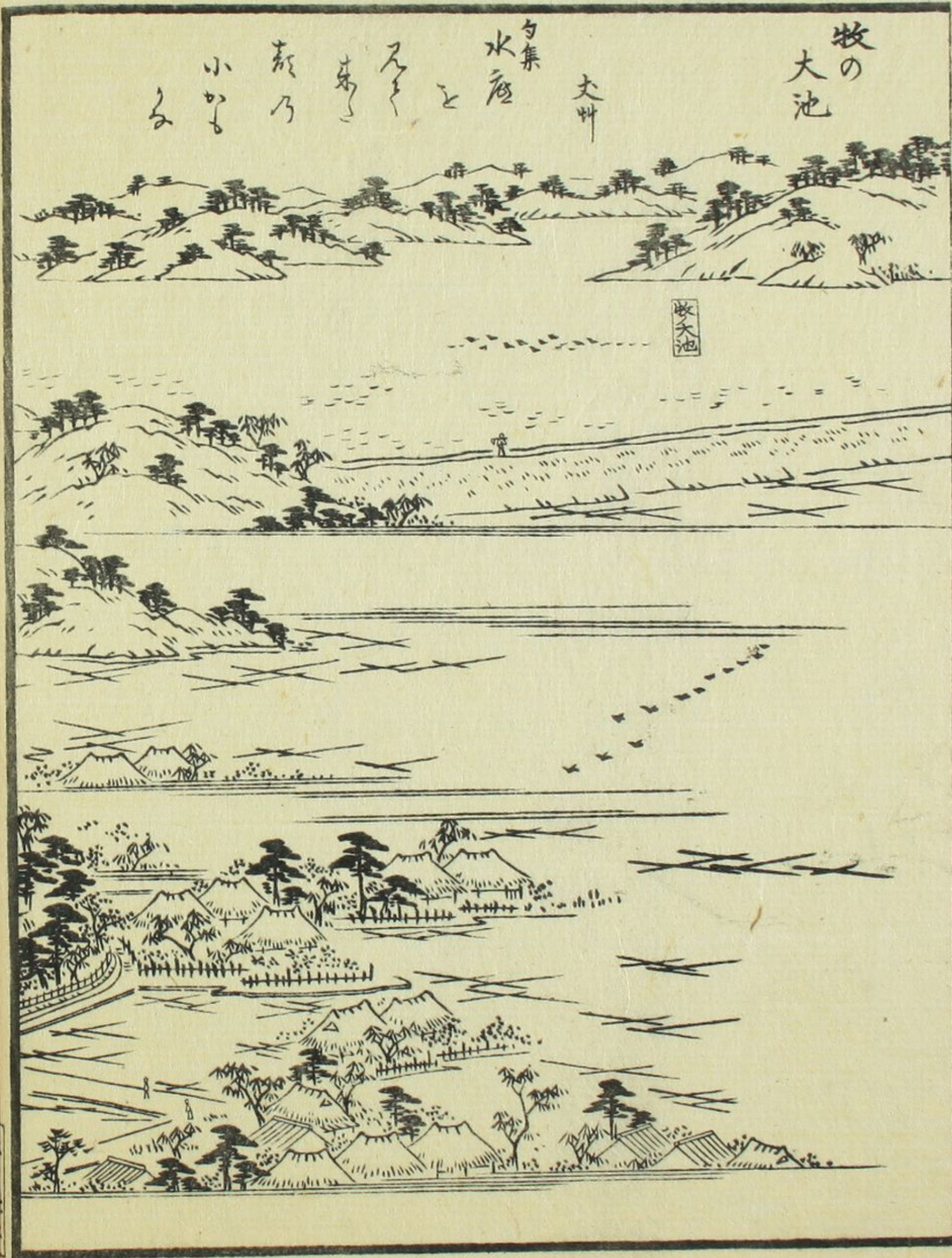
蓮教寺

水多
重多
秋の
多



牧の大池

夕集
水底
大州
乃
小
多



長湫古戰場

長久手村小なり其地甚廣く若作若傍ふれ故村にさうり陣備の旧地

戦死首塚の古跡ホミ箇所多くしてハ記ハシケルハ

尾張の星湫の城之岡田長門寺岡岡川安賀の城之沙井田

宮丸の三士いそに豊臣秀吉云に荷擔一之君一對一逆意

のきささしわさし或人告さバ信雄云ま憤正天正十二年

三月三日彼三臣と伊勢の長湫れ城中に石より不意に誅

戮せしむり事記信雄秀吉のあふ不岐とさし

終に合戦小及び秀吉云大軍なりとも大神君信雄

云よ涉加勢ありく豊臣家れ兵大よ決少池田信輝入道勝

入其子紀伊守之助及び其弟表武藏守長一等戦死の地

つり忌諱甚多けは止むるをゆと好く是と略と

辛卯十二月高府の世臣人見赤林のあふ後來池田父子表三士の戦死の地れ事跡と失

つり子と患へ共小謀りて三士のいかに名を及び戦死之地と彫り三つの石標と

長湫懐古

赤林信獅

於戲英武維雄維神麾毛據敵天下帰仁

憶昔長湫競六師技山覆世擁旌旗彎弓楚將走斜

月朔鏃漢軍報威時白骨風寒雲影暗青松歲盡暮

烟岳到來今日何看慶空有荒墳鳥雀悲

義旆飄來日其鋒不可爭一戰斬三將千載夷威名

山鬱々兮水泠々松風猶作凱歌聲

岩作村

和名抄に山田郡石作と云ハ

石作神社

岩作村にあり今神明社と稱延喜神名式に山田郡石作神社本國

例祭 九月十二日 石作連の祖神より流免の年月定るうハ後花園天皇の正和年中に重修す

富士権現社

岡村小なり文祿年中津井助(後)の管建りて社伊勢越前伊豆白山

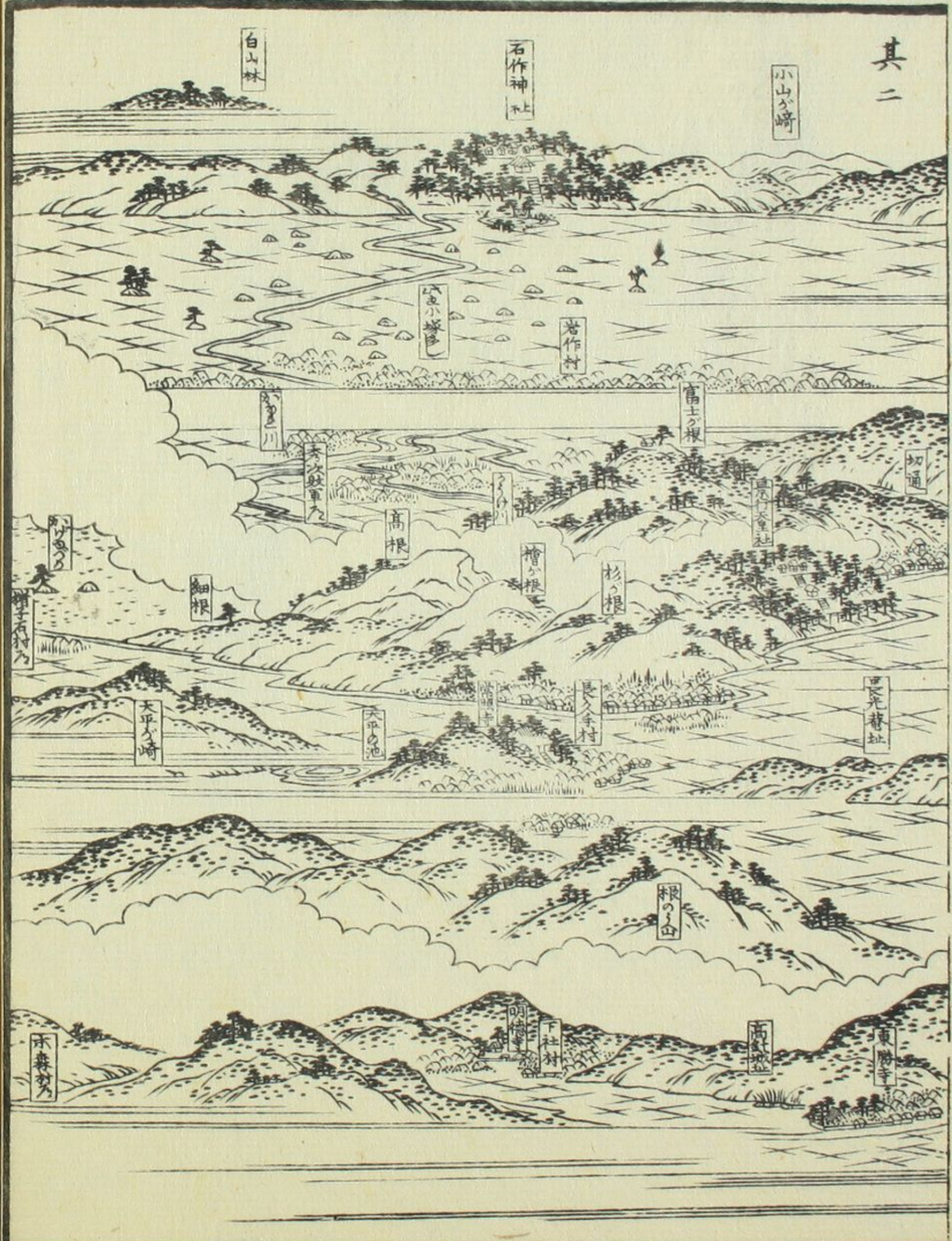
久岳山安昌寺

岡村にあり曹洞宗 天正十三年丹羽勘助氏次建立す

了山号りて色金山といひ後今れ号に改む南山といひ

色嶺峩々として老松蒼鬱あり前に香流川源く

清く泉莫る山林の古禪刹之〇觀音堂 古物ありて世にや



正月五日里童あつまつて
田舎祭しつくとみ

御床机石

目村色根の絶頂にあり方四尺余の大石なりそえは伊陣の所 神君沖腰
とわけ多し古跡も室永四年福富院成り建一石の碑あり銘に徳風
偃草紫極轉星

首塚

安昌寺北門前にあり雲山和尚我活小惻隱の余り氏姓と海軍士卒の首と若
作の里人と共にあきりつて是と埋り自ら法号と後けりひけり是と首塚
とて存せしに福富院成り碑と建て小治一首と勅をさす云泥牛争角

岩木

岩傍村岩作村のちあひま日井 本草より石炭はあつて凡そ地に
入るより五六石ありては物あり其質石より柔うに土より堅く木

より似て氷ありぬに土佐岩木と通称をよむ色黒く日と経く乾
く内ハ驛積あり徑り或ハ五十間百石もこの際限と知るさるしり
て長短小玉てハ更に量りかき幹の中に花開きくもこれゆき
実と結ぶ民家は是と薪に代へ炭小豆と炊爨に供を柳、真
氣われハ府下小豆と用ひど灰に埋めく炭小換ふは長くたりの
り他田炭に十倍より真信長加伊和備後赤の諸民に比較を差

色嶺
御床机石
安昌寺

三軒簡齋

白雲擁樹似旌旗想昔
將軍此駐師數尺石床安
不動長馬萬世太平基

席上次韻以贈 當寺現住 竺子

我將面縛樹降旗文雅
場中有此師欲向暮
前伸一讚樂尺
君子國家基

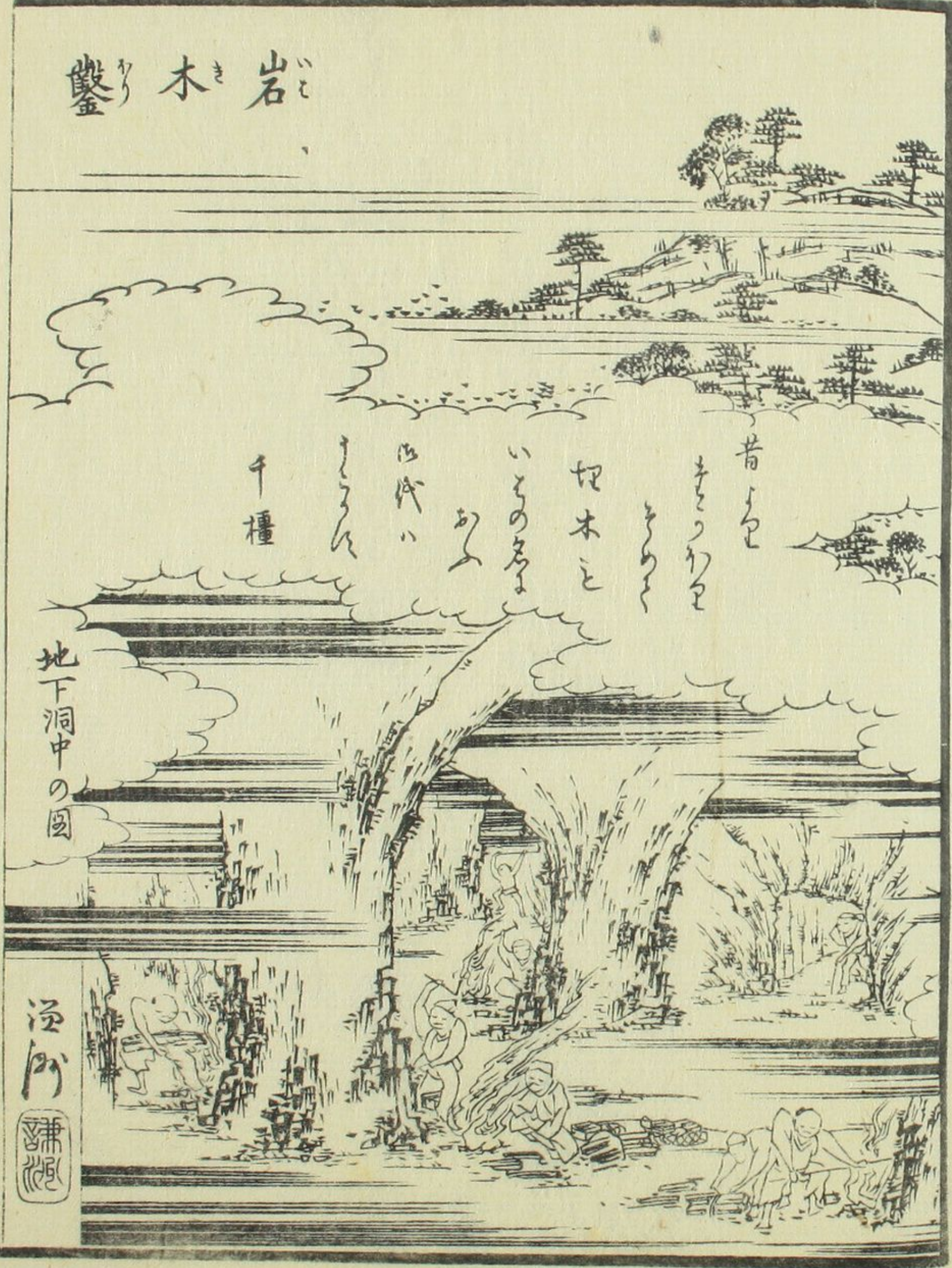


とくどくも大田小異或ハ小田大異なりて皆其名と異にせり只
瓶前のフマズミ瓶前のハイミのミ糖用共にけ岩本にゆく似たり
本草啟蒙に諸君の是に教むるとのど多く奉て只け岩本と
扶桑本との名目と蘭山が博識りて何の左に誤りせりや

山口村

南郡のうら赤川の隅三河境の里して和名抄に山田郡山口と見えより毎年九月九日
因沙田折戸北巻岩作下巻作岩作北巻作赤河赤地諸和合優尔本祐福と部田本郷
岩寄ハ十八村に三つありて河原岩寄伊保堂殿具伴より横投津社ハ馬と鞍をのりたりと
より都りたりと勢田大津へりたりとてりたりと西乞の所とつらへきと大雅命横投のハ小雅命大雅
この皇見うれば其因小なり且ハ赤河のゆを横投ハ秋なりと里人の話と但今このゆハ合名といひ
て組合の本末ハ元祿頃よりとてきてはきたり者夜に場なりとて夫々の村内ハ馬と走らる
若き者ハ川へ入り水とわびとて居たりとて探ありとて武ハかかたりとて探ありとて武ハかかたりと
忽ちあやまらとて居たりとて大に悲し九月九日ハ赤河のゆを横投ハ秋なりと里人の話と但今このゆハ合名といひ
即ち村毎のお合ハハ双方より数多の洗地とすてお同く次すに村の境とを戻り同様にせり
つらかけ声とすたりとて純るう洗地とすてお同く次すに村の境とを戻り同様にせり
赤河のゆに洗地おとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
おて二折に洗地おとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
花やに拾ひておとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
洗地刀及び板石もはさやとておとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
ちがハカカとて是とておとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
長刀とハ板石とておとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を
洗地刀及び板石もはさやとておとせハハわりと半纏とを次々に持陰を刀或ハハ深瀬をとてまきのゆ道を

岩き木り鑿

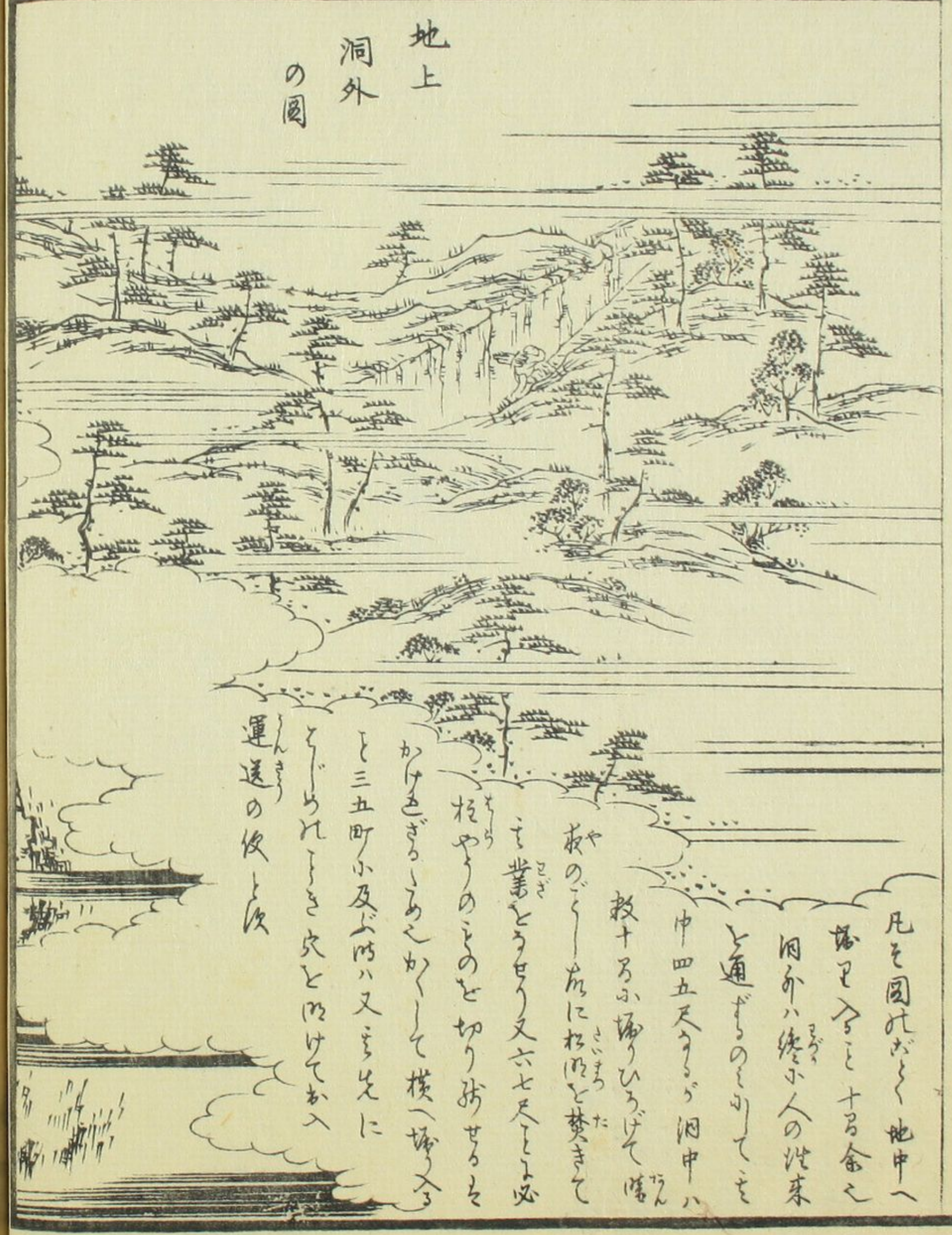


昔より
きつり
切木と
いとの多
は代ハ
千櫃

地下洞中の図

江戸
謙徳

地上
洞外
の図



凡そ園地はくち地中へ
掘り合ふと十石余の
洞外ハ終小人の地味
と通ずるのりしてそ
中四五尺うら洞中ハ
数十石の場ひろげて
板のうらに板を焚きて
土業とうら又六七尺と必
柱やうのものを切りおさる
かけさざらふこかくして横へ場入
と三五町小及大のハ又さ先に
とけられとさ穴とめけてか入
運送の役と後

物見岩の絶頂ハ四々
 脚りゆてあふ及び
 美三の山くも波濤れ
 ゆく所の陶畑空に
 又名古をの倉樽と習
 犬山兼名刈屋を傍
 峯母の城をとりくに
 香と臨むさくをま
 勢田此海面とよに
 取と斗りゆてま
 風来をよぐまに
 名區とよに



山口神社
 物見岩
 本泉寺

物見岩

海上洞

夕暮や

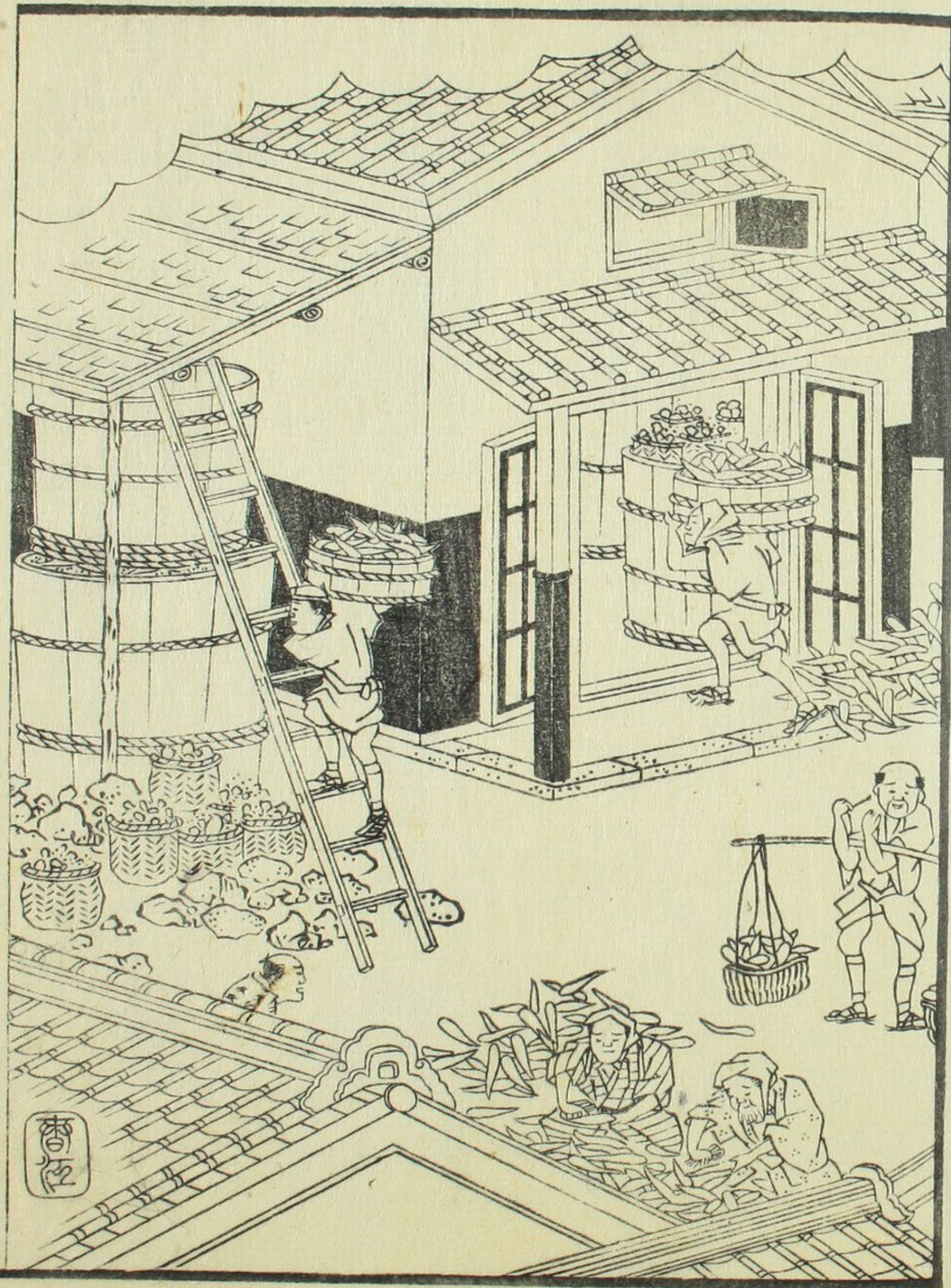
清らき山

秋うらみ

巴都



商印



沢庵漬

御所村及び此の村の村人にて是
を製す年中日こゝろは惣夫買
とりて厨下に貯ふる事にては

大根と東白と糸
して宮重方傾

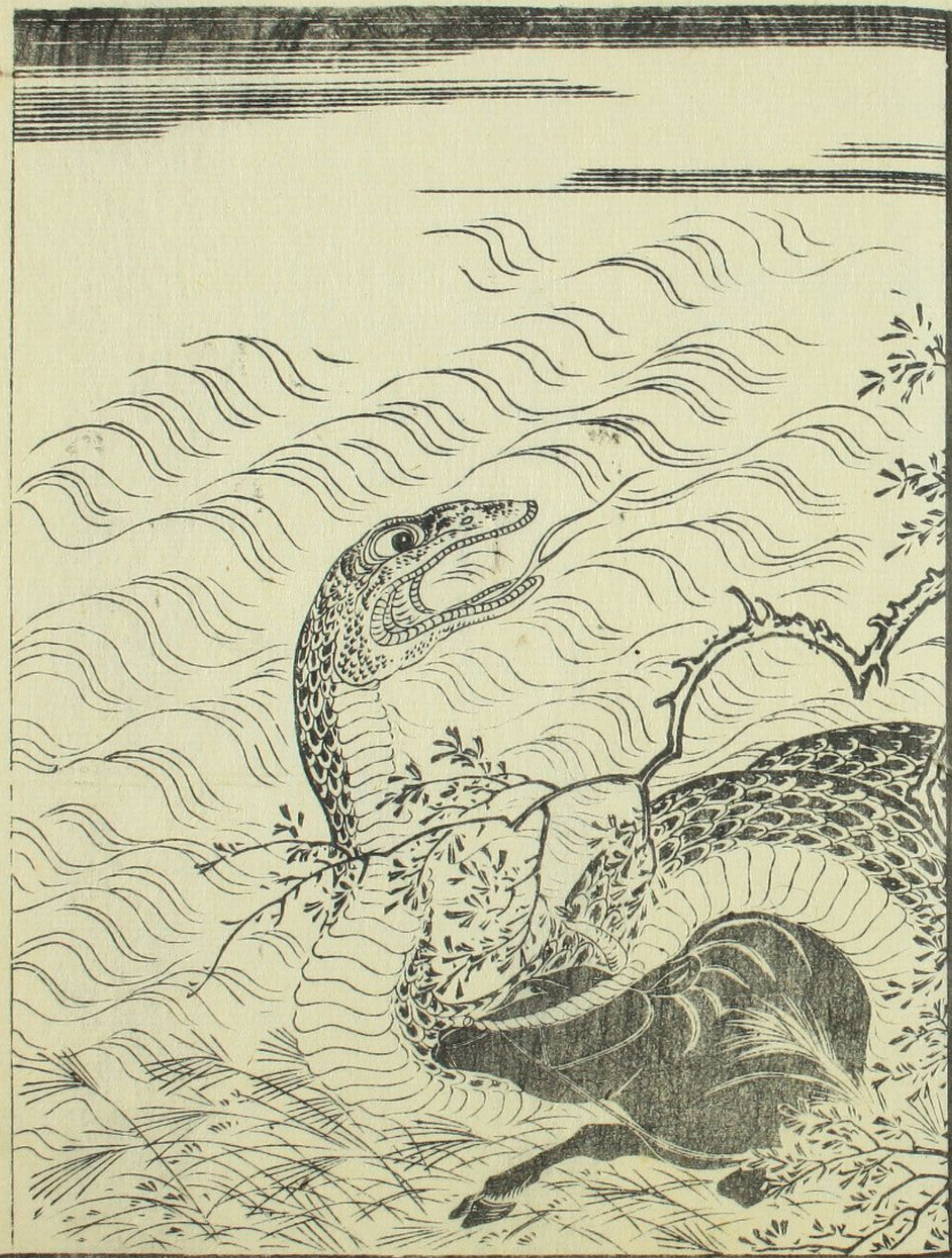
文小別程と
凡そ煮くそ

十月の末より
翌年の正月

此の日の仕
込の大造と

う図と
又く知
る

香



地藏池

北井戸田村にありむらじ他とわたり北地蔵の像とあり

津賀田社

因村にあり二徳天皇と登り橋に若宮八幡と稱す本國帳にのり後三位

四年社と福金にふりまう今持て園下宮とすしひゆれどまうり後法承五

其地蔵の地とすハ地蔵の聖觀音境内ありすに主所の攝社八幡祠原大夫祠

神明祠諏訪祠も神主龜井氏の源義純に倣ひ六郎重清の人名して高孫と

別人うへし一之守とすこれと龜井の御社とす

龜井山龍泉寺

北井戸田村のり曹折南寺ハ行基井の開基して真

言宗此伽藍の道場とす若荒廢せしむる妙泉和者と改宗の

開山と曲泉和尚との中興の開山といふとす今に連綿とす

本尊

某師ゆ承を佐太子の清作日本三某師のて折州四天王寺三州風來と

迦文珠普賢

師長公画像師長公記二古

寫大般若經

龜井水境内にあり教範の池と稱す

重清の宅

近年府下音楽者流亦ありて師長これ神廟と創建す

太政大臣師長公謫居の地

原平盛衰記云妙音院太政大臣

師長も冬何ふて披衣なりて其の尾張國井戸田へ流罪

とて却とふれりいりる此ハ霜月女泉及ぶ半りとは皆白州此

時の重清も川原よりついで照月岐に流罪に二子里外古人心

想像法の衣と最御一玄祖小尾法の井戸田小看珍入保乞の昔

と西海七依の細小遷されて愛別離甚れ怨と合し治兼の今ハ

東関尾浪國へ流罪れ怨憎會甚の悲と合し心づる人ハ

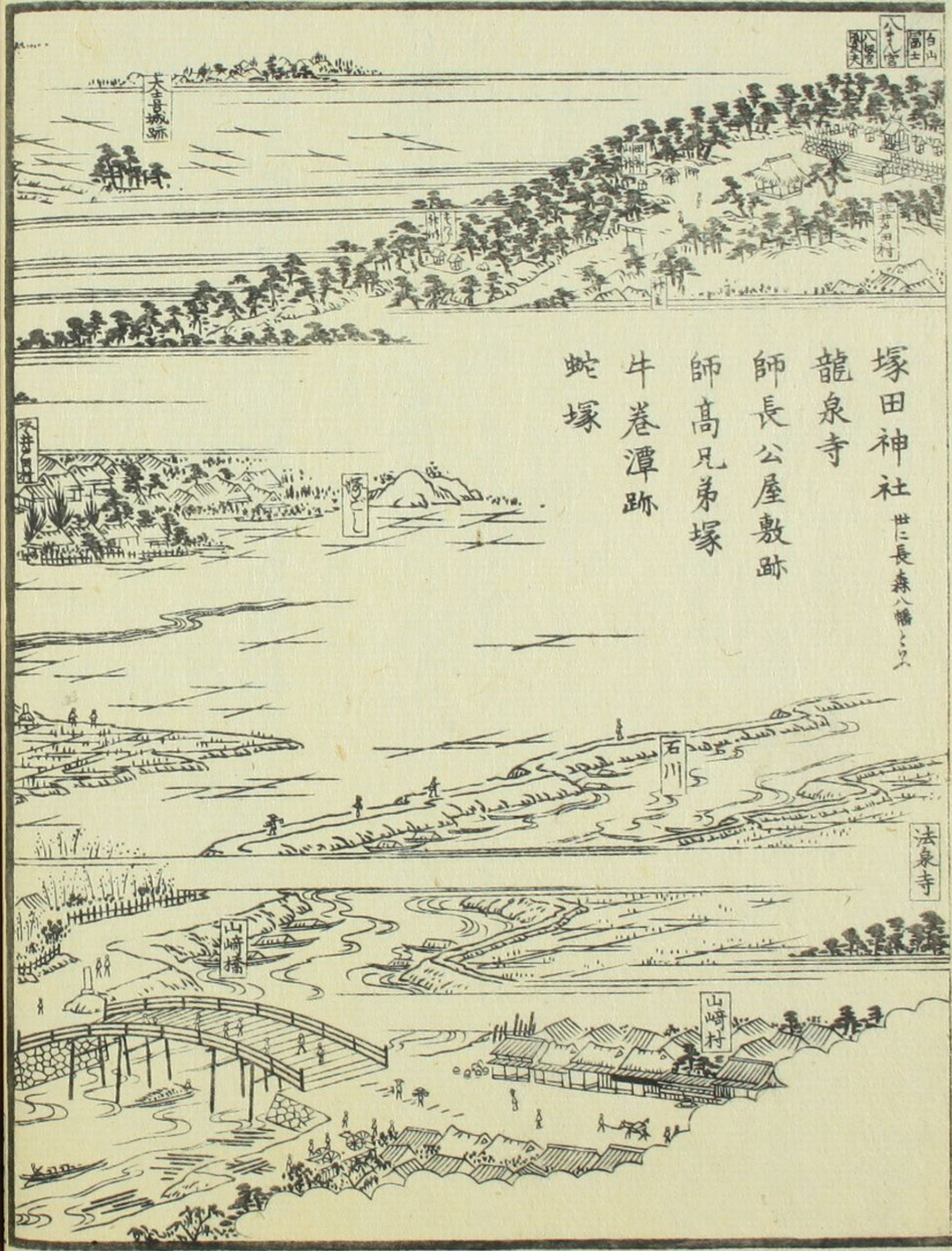
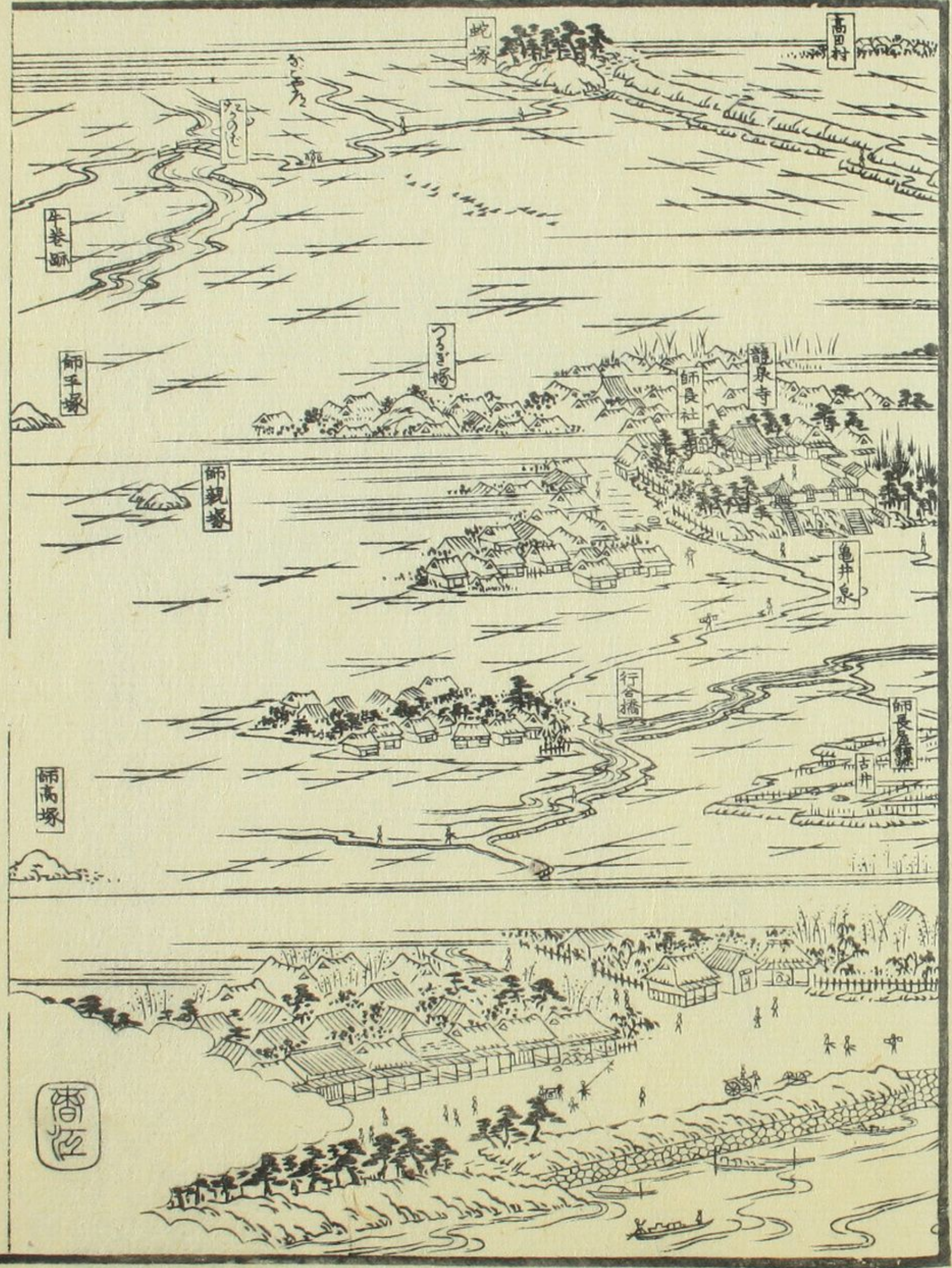
皆罪うして移りしうとハ大臣波唐れ左子ハ賓客白樂天乃

元和十五年の杖九江都の司馬より左遷せしと得湯の江の側小

松災よりいりる古きより思慮く吟海沿浪遠よまをんして

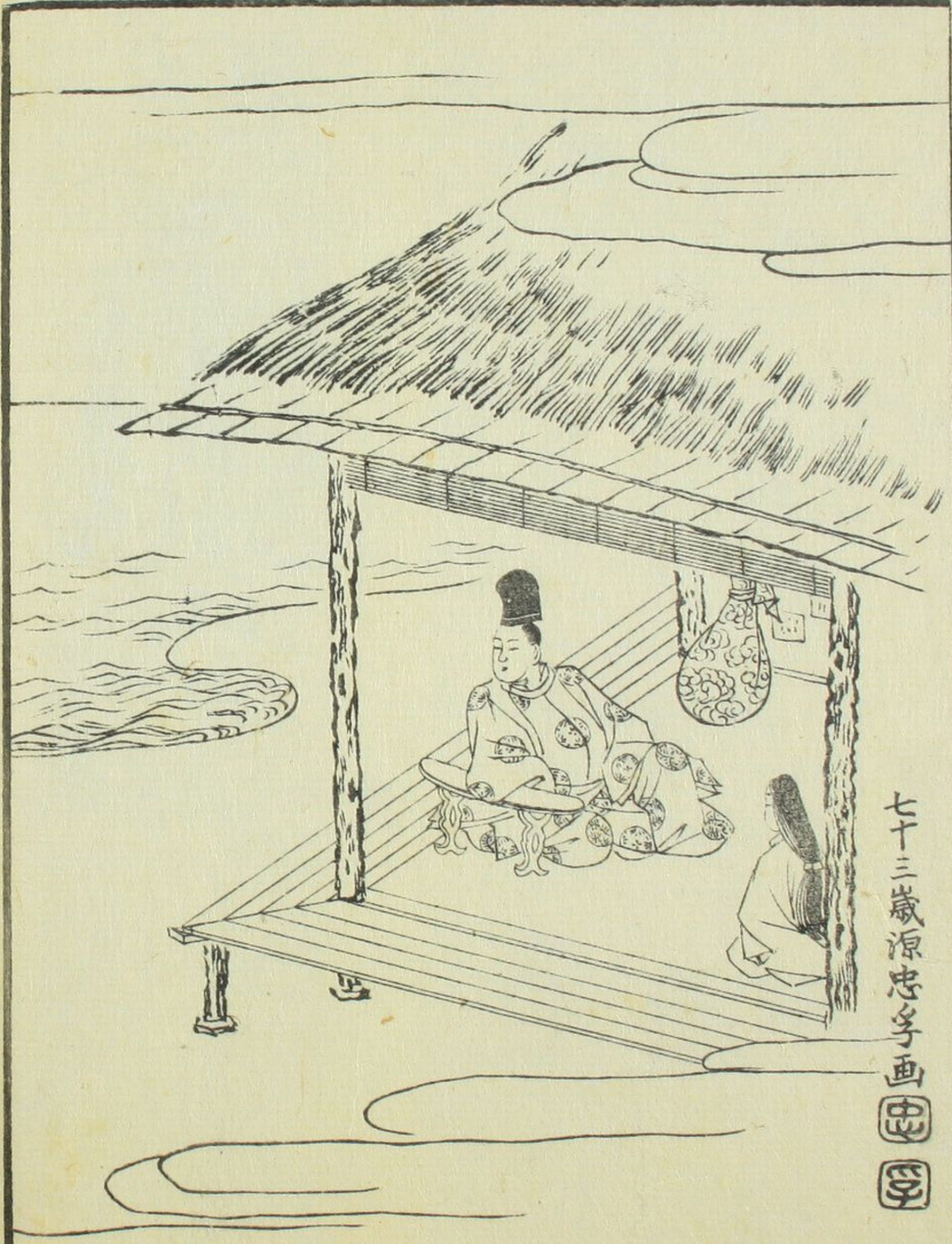
常ハ朗月とす浦吹風と嘯きけ流色と深し和歌と縁し

て等閑に日を送りしりて式夜南小中三宮熱田の社と縁し



師長公謫居の図

廿五時選
松風里外聽溪歌
秋色新添寒水波
君儻非逢寥落日
爭知東海月明多
猪飼為春



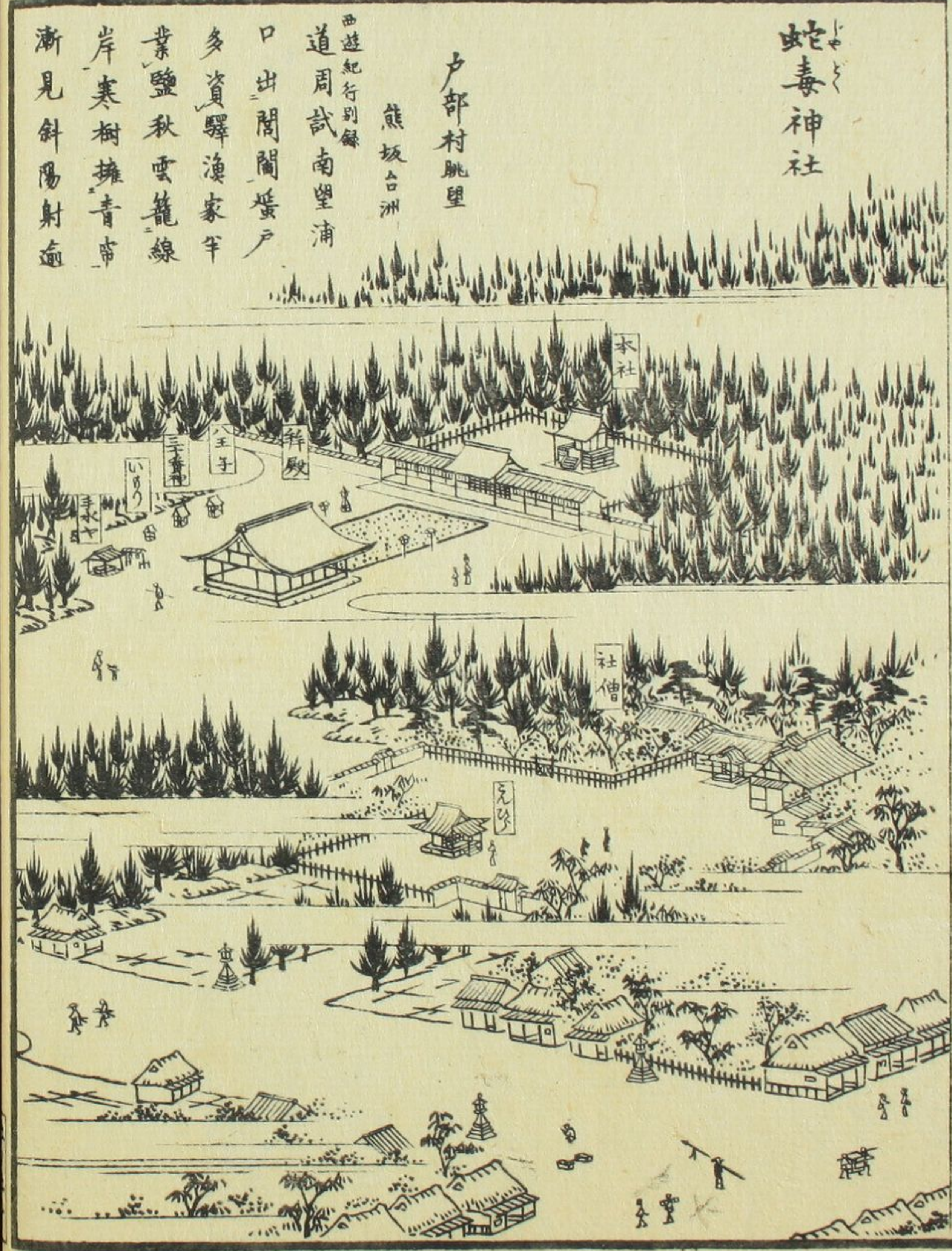
七十三歳源忠孝画

蛇毒神社

戸部村眺望

熊坂台洲

西遊紀行別録
道周試南望浦
口出間閻蜃戸
多資驛漁家半
業鹽秋雲籠線
岸寒樹擁青甍
漸見斜陽射逾



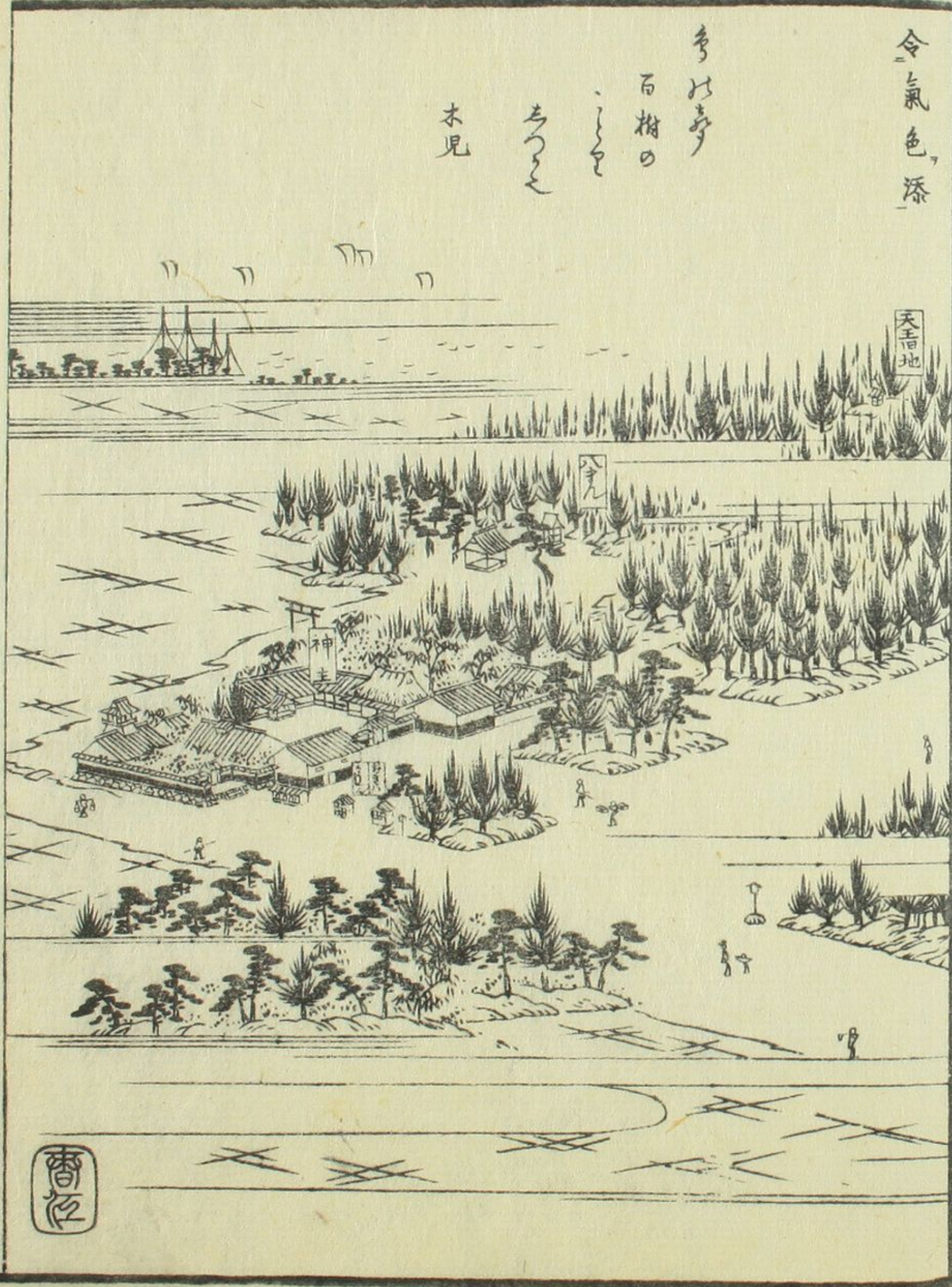
令氣色添

多水亭

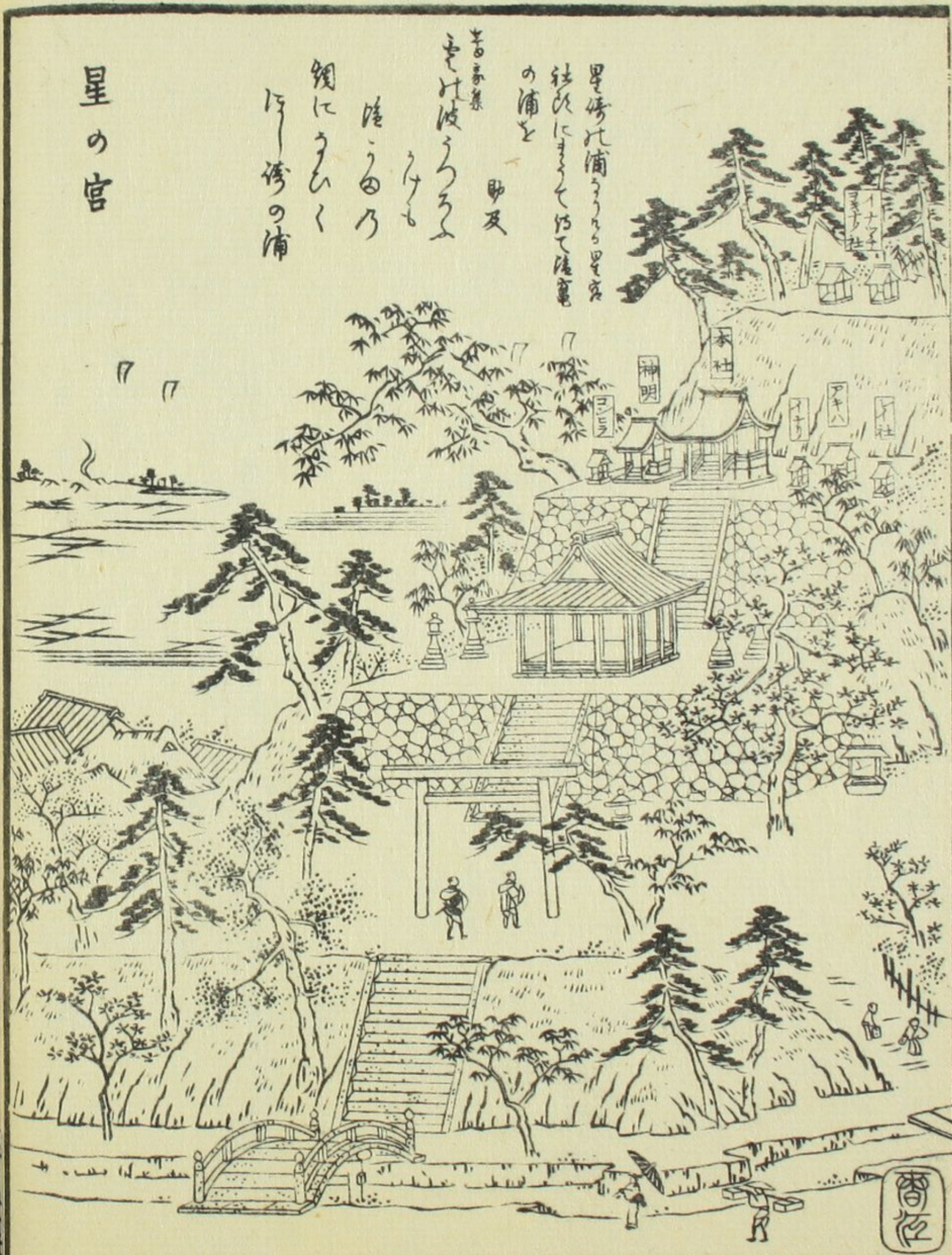
百樹の

木見

木見



香



星の宮

星の宮集
 星修比浦うらら星を
 社にまゝてつて星電
 の浦と
 卯及
 星の宮集
 星は波うらら
 うらら
 星の宮集
 星は波うらら
 うらら
 星の宮集
 星は波うらら
 うらら

星の宮集

星の宮集

大年

伊奈突智翁社

同村にあり南村地之津より伊奈突智翁社にあり

神輿塚

同村にあり

星崎古城

同村のち田子屋より所にあり

星崎の古城

名産前濱塩

同所の海産也

星崎

星崎の古城

星崎の古城

仲実朝臣

星崎の古城

参議雅經

星崎の古城

治大綱

星崎の古城

亮孝

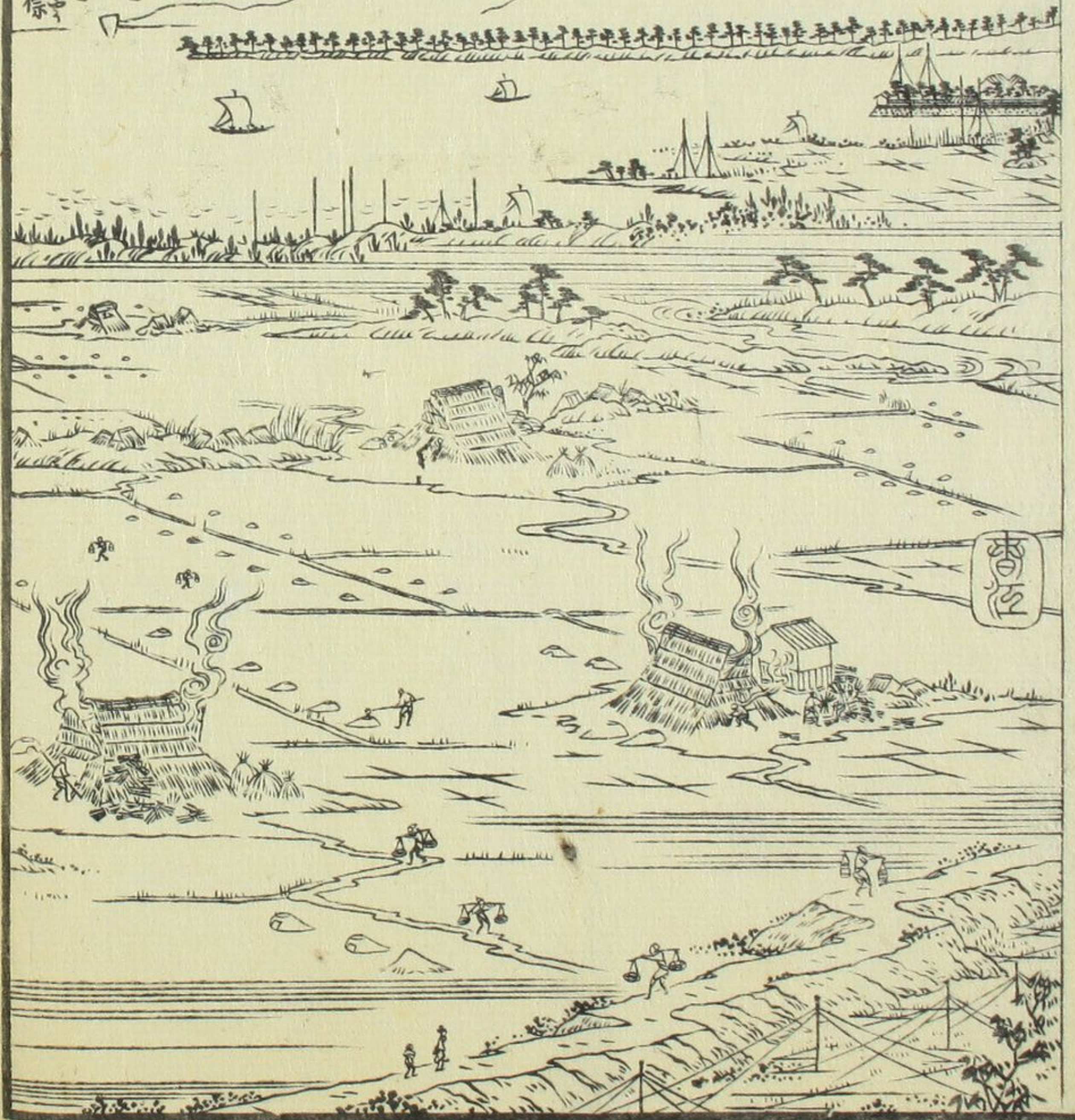
星崎の古城

入道道永

文治九年五月
 七日七首決合

星崎

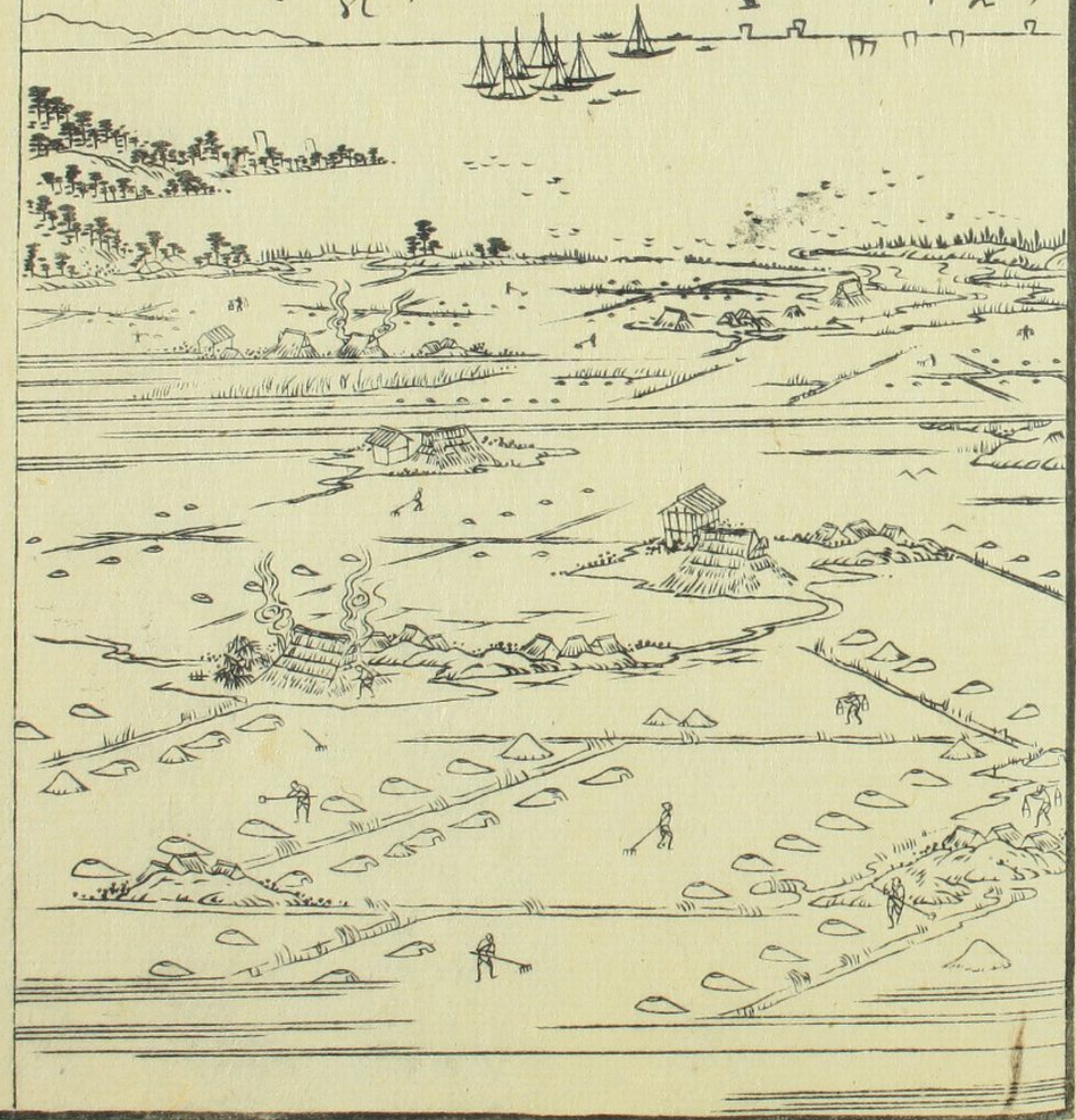
船が砂とらり
先堆と國の
とく小山の形と
りきと里民
陸尾らもいハ陸
くともいハ波
伊勢あけに富
士の山のくうと
あけしに似る
くうと波まふ
の秘りともせと
是うくうとく
天地信系教
とくまき一はまの
とくまにまの
かきやまのまの



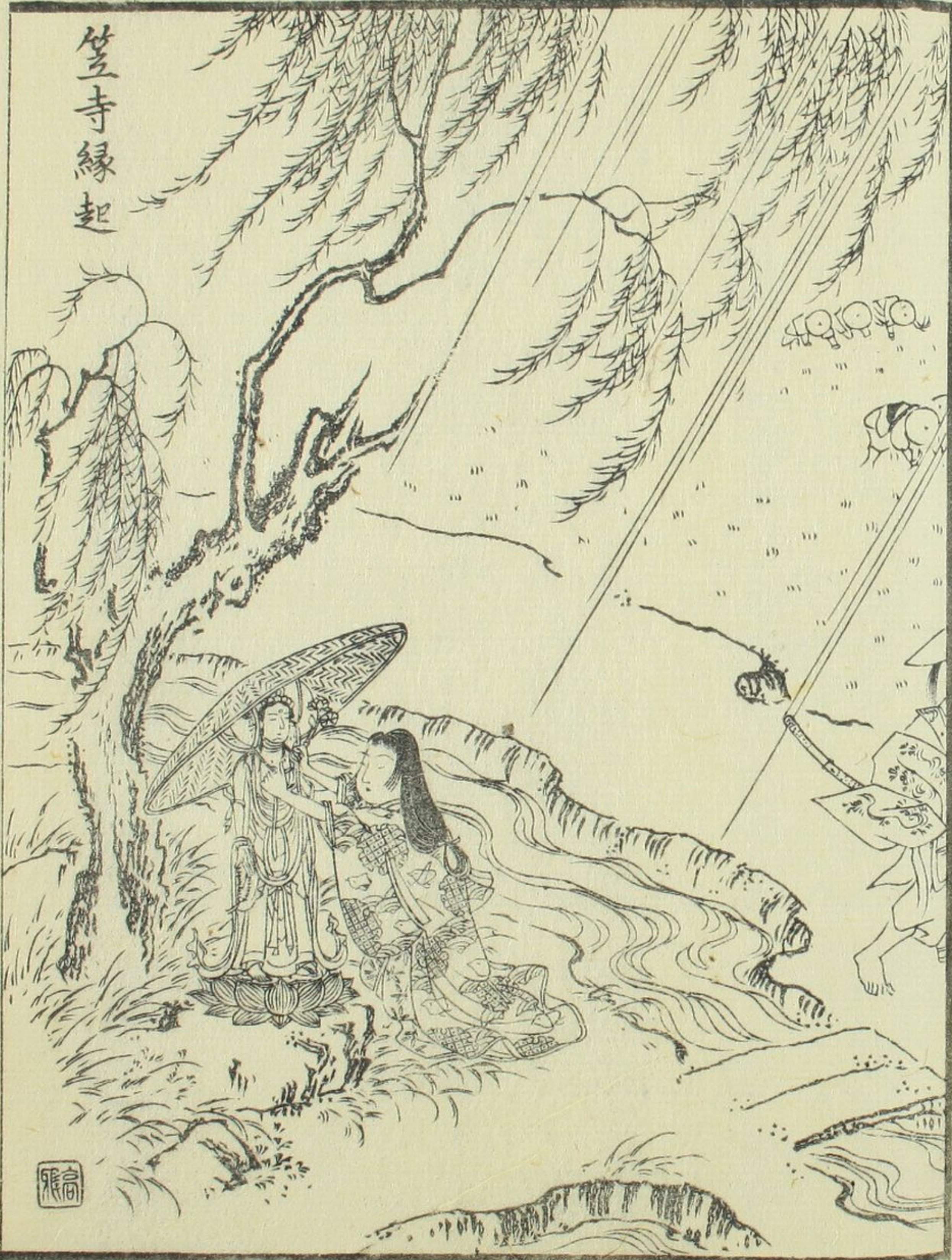
野と陸尾と名づけ
くもは候うと見
くあひよと
うま

前権中納言持量

あふくも
まきとあひ
り
里の名とハ
くもさり
くれ
白梵菴
星崎や里ハ
くもさり
くもさり
くもさり
くもさり



笠寺縁起



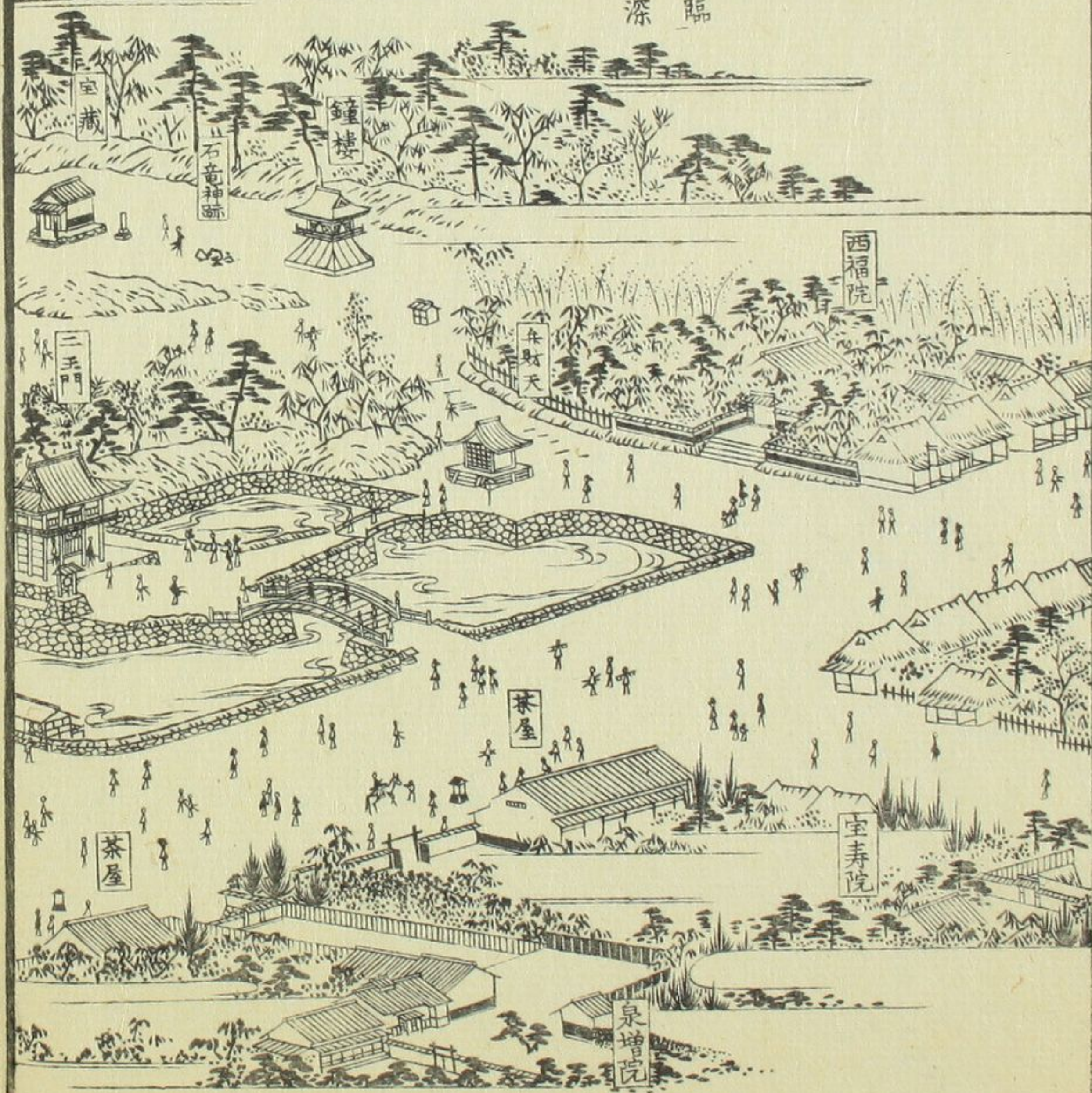


津に紫昌の吳地（なまきり）と多き寺の田島契田の神依
 に混（ま）トけま沙門阿願（あがん）及び念阿弥陀佛 宣揚門院の皇后に
 して嘉禎四年十二月との傍（まが）げさるるりとまの解（げ）状とまり
 しく（く）天（てん）香（かう）くも 勅裁（ちうさい）と蒙（まう）と曆仁元年十一月の教が布（ふ）心に依
 せ堂宇と再興（さいきう）し社役院設と免許（めんぎょ）とまは地荒ゆら
 教を禁断（きんたんと）ホとも令（しん）どとせ給へし其嘉禎の解文曆仁の院
 廳（ちやう）の清（きよ）下（げ）文多教通今に況（けい）まて寺の吳宝（ごほう）と
 教（きやう）後（ご）少（せう）も裁（さい）せり 本尊（ほんぞん） 十一面 鐘樓（しゆろう）
 希代（きだい）の古塚（こづか）之 廿三日阿願（あがん） 靈寶（りやうほう）繪（え）笠（かさ） 延喜年中 鶉（うずら）生法螺（しやうぽうら） 大塔宮（だいたくみや） 同傳來の書翰（しゆわん）
 松虫（しょうむし）の鈴 大定錢 四國石 紫磨黃金の如意輪觀音（にぎぎんねんくわんおん） 弘法大師（こうぼうだいし）所
 地藏菩薩（ぢざうぼさつ） 弘法大師（こうぼうだいし）作 出山釋迦如來（しゆざんじやくぢやくわい） 牧漢（ぼくわん）の
 十二院（じふにゐん）ありし今東光院泉塔院西福院 天神祠（あまのこゝろ） 東光院（とうこうゐん）にありし
 急雪院（きやくせつゐん）宝壽院（ほうじゆゐん）西方院（しやうぱうゐん）の古坊（こぼう）の（ま）まり 近江蒲生郡菅田神社（おんゑ ぼうじゆ ぐすたにんじや）神主左近將監
 半（はん）と入（い）道（だう）小雲（せううん）の西坊（しやうぼう）にて 法（ほう）あり 近江蒲生郡菅田神社（おんゑ ぼうじゆ ぐすたにんじや）神主左近將監
 藤原安長曆應三年庚辰八月八日 應永八年辛巳八月十一日 在大風懸高木枝不思議

其二

新川

新川集
 高楼百尺縱登臨
 畫裡江山矚目深
 野水總藏蓮
 葉舫松風自
 和海潮音雲
 開紺殿迎紅
 旭雨霽蒼苔
 遍綠陰更見
 莊嚴踰異日
 天林遂不讓
 祇林



佐野紹益

尾張八景

中真閣

松

入おれ

林

山

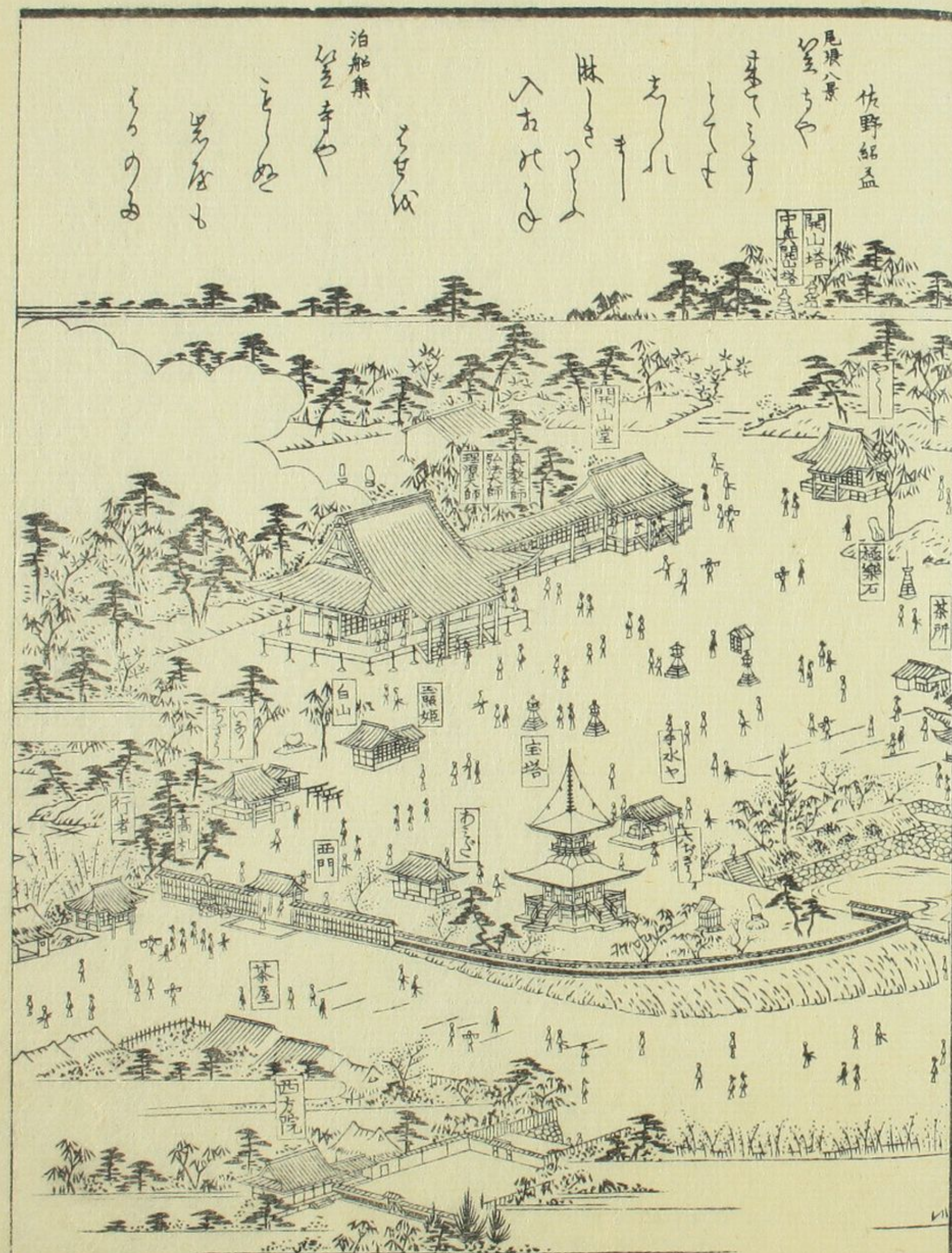
泊船集

山寺

山

山

山



也と見えたり小雲ハ秀次公生害の時立ふ
此神像ハ秀吉公より賜りしとぞ

天白川 田村の東にあり水源塩田村より八事島田中根野並橋寺教村とてに流
是南西の方里傍の村と流して海に注ぐ所はに橋あり天白橋と云ふ
徳願塚 田村の南海邊の傍にありむし聖寺の民家火災ありしが其行脚の徳信僧
うその里中に休息してありしが火に焼かれしが其徳信僧とて其行脚の徳信僧
て其に所せしが其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧
兼きて居りしと云ふ徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧
むし聖廟寺の親者面影に復されしと云ふ徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧とて其徳信僧

山口修理進盛幸城址 田村の南にあり寺跡とてあり大内周防持分多羅持盛の
男子と傳へし見山に盛幸の寺とて其子孫の城とてあり又田村の内平場とて所ふ山に
氏の城跡と傳へし山口氏の傳へし衆世系源とて其書にありのせてはありし
城とてあり洋字とて其記源世の作とて其書にありのせてはありし

成田氏城址 新田村の南にあり寺跡とてあり成田氏の家傳とてあり其書にありのせてはありし
又惣見記の天文二十二年四月赤塚合戦の條に山口九郎二平が足輕大将成田孫六
成田助四郎とて又その名をいふとて其氏族の人の在りしとて其書にありのせてはありし
西の切とて其山に山口氏の家傳とてあり其書にありのせてはありし今曹洞宗
大雲山聖王寺の境内とて其の氏家に其の古井ものあり

櫻村 和名抄及び文和三三年安田村林原目録本の古書に
愛智郡作良とて其の郷名あり
教訓の記ありやわるとて其の村名あり其の古書にありのせてはありし
冷泉村の古書にありのせてはありし

櫻田 櫻村の田圃別万葉集にあり櫻田とて櫻馬樂にあり其の古書にありのせてはありし
其の古書にありのせてはありし

ありて今地名の跡とてあり

山風の吹かると櫻田乃苗代水と流せきつ 光明寺
入道抄改

年魚市とて夜もめし櫻田のふむけの風と流せきつ 櫻田公朝

赤川田にたり晴るる櫻人さへもやきりしとて 櫻田公朝

又後日なみのきりしとて其の古書にありのせてはありし 加茂貞衡

秋まじり新ぬ掃糸よありしとて其の古書にありのせてはありし 花井足雅

あちちと櫻の田面ふみのつてききるをききけとて 川村正雄

とて其の古書にありのせてはありし 市見隆彦

野並里 今の野並村是村のうら島の名に並ねとて其の古書にありのせてはありし

古鳴海 鳴海川の北にあり村とて古鳴海とて和名類聚抄に愛智郡成海とて其の古書にありのせてはありし

井直牛養七 右人尾張國愛知郡成海郷戸主荒田井直益磨戸口とて其の古書にありのせてはありし
海の文字を用い東澄に鳴海明月記に鳴身とも見えたりありしとて其の古書にありのせてはありし
千とて其の古書にありのせてはありし

櫻田の古覽

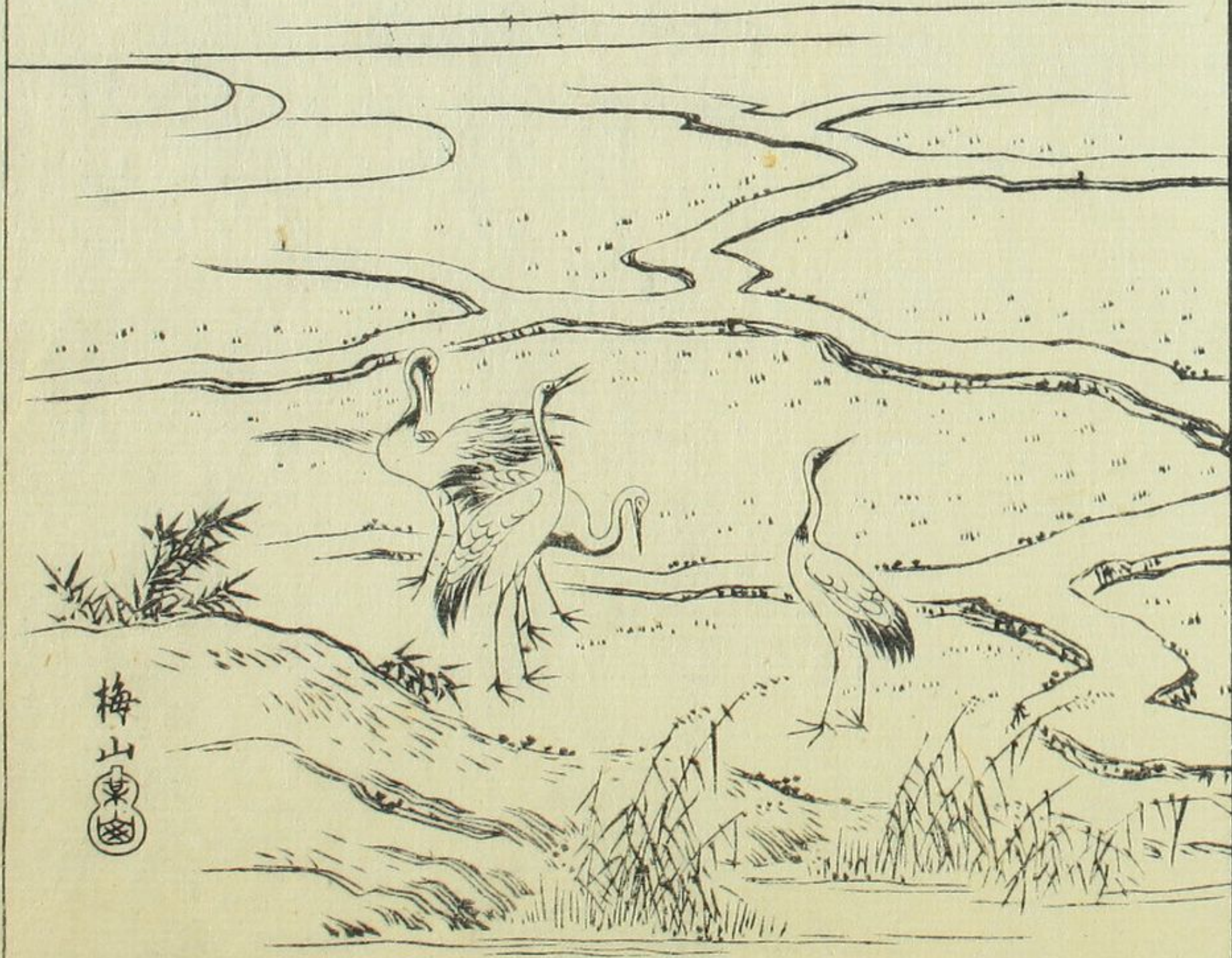


高市連黒人

萬葉
櫻田部鶴鳴渡年魚市方
監于二家良進鶴鳴渡

櫻人

催馬樂
佐久良比止曾乃不祢知
知女之末川太乎止末知
川久禮留美天加戸利古
牟也曾与也安須加戸利
古年也曾与也古止於古
曾安須止毛以波女於知
加太爾川末佐雷世那奈
禮波安須毛佐祢古之也
曾与也佐須毛佐祢古之
也曾与也



梅山(東窗)



鳴海瀉古覽

私正之

あ

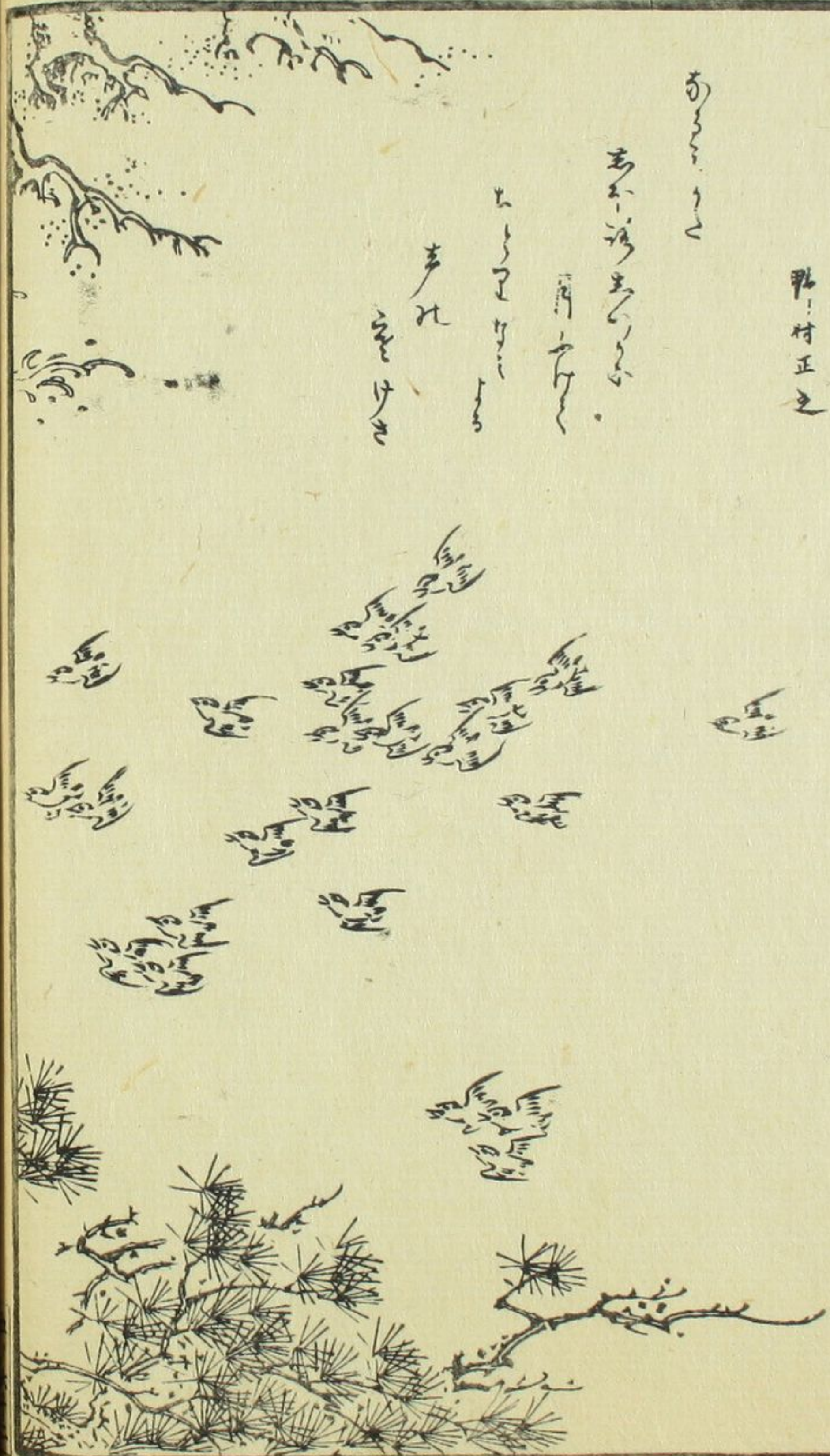
あ

あ

あ

あ

あ



明日香井初集 歩くくとして 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
未後後徒

家集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
為家集

千五百番歌合 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
若木隆信集

松の世に今ハ 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
具親集

堀川百首 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
顯季集

白河歌七百首 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
侍従中納言

龜山殿七百首 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
有忠

千首初歌 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
為尹

旅千首初歌 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
為大納言

久安百首 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
尾道院

室治百首 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
後二任

松葉集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
朝長

名年 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
法中

今撰初集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
法橋頭取

淡沢集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
お大政大上

新和歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
浄意法師女

臨永初歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
平春時

玄玉初歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
貞盛法師

養和初歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
法中道惠

應永三年 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
沙汰無見

李長集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
宗良親王

草庵集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
杉河法師

雪玉集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
実隆

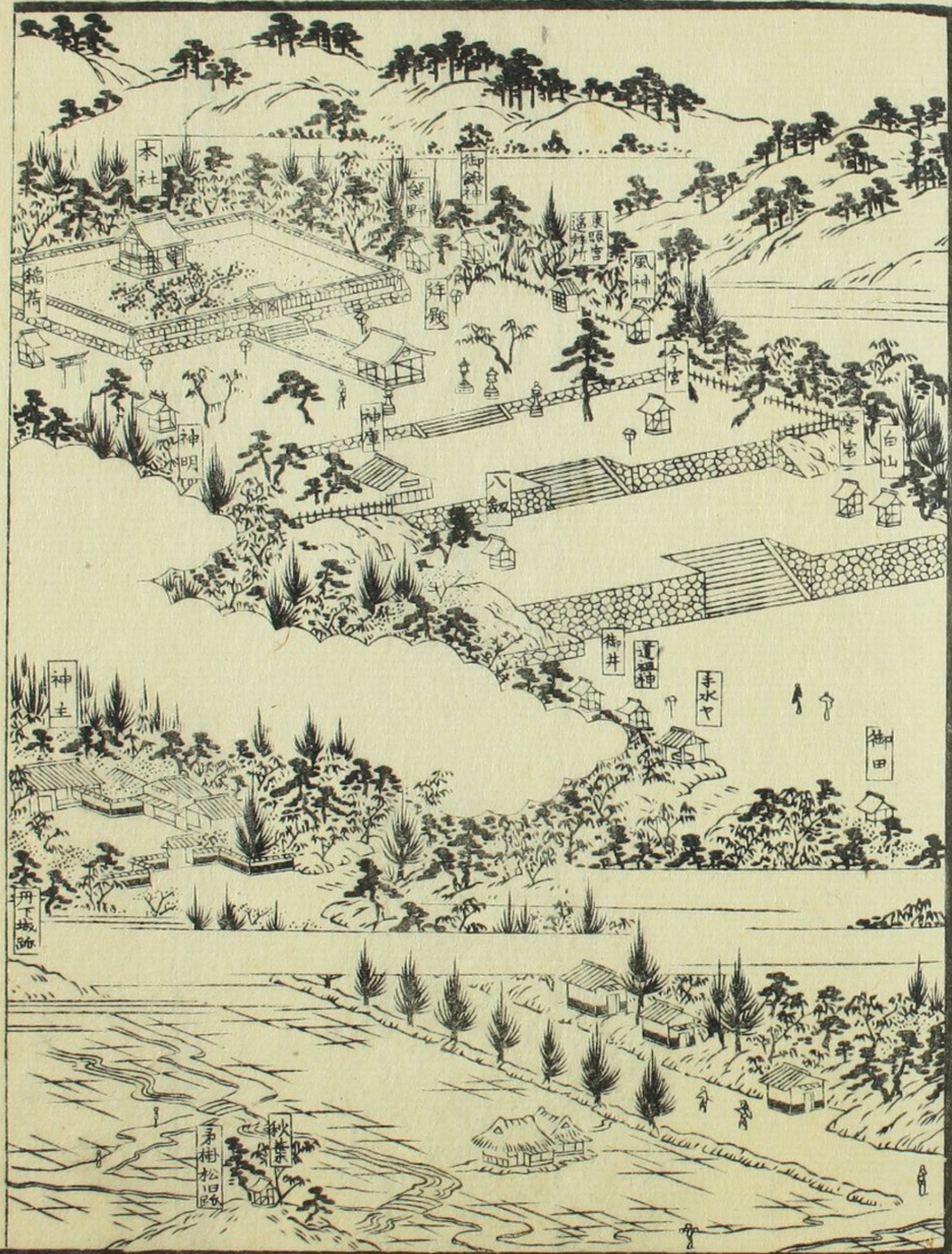
西原集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
後水尾院御製

勅撰千首初歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
為廣

茶葉初歌集 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
大納言

浦波のまじりたる夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
大納言

陸平れま初月にもつけき 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく 夕の夕にゆく
大納言



成海神社

當社神主
保秀

坂美多氏

くらきひ

まき

天の下

あつり

ひらみの

みと

け非



香

海天神と云ふ事今東宮大明神と号す社傳に 天武天皇朱鳥

元年六月瀧産 日本武尊と系する事古の社伝ハ廢して

弘治三年信長より寄附す天正十七年山口長次郎寄附す

文書の少き事 ○例祭 六月廿一日神樂と扇川の橋より神樂所へ遷す

舟渡の神事日本武尊東征のとき川を渡りしに舟に神鏡を奉りて

八面 南面は妻系伝中より 古額一面 小野道凡奉 東宮日月歩 矛掛松

八幡宮 神社と稱すハ 東宮大明神の別宮なり 例祭 八月十五日神樂

祠官 文野 鬼山と号す一ヶ 康平二年尾張守元命朝臣此家臣為家系

堂と号す地蔵の大像と安坐せりと應安五年長母寺の無任

頭護山如意寺 詔中お示町にあり 南古と号す 詔所の小高系にありて青

國師中興一應永四年今此家小なり 瑞泉寺に号す尾張

地蔵のうらとて 和分により 海寺是なり

詔所に地蔵が多びて通入る方て板敷のり多に長月廿四日の板敷に

一と云き卒於此の方とて 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

たされたりと彼地蔵をいひしをいひて 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

たして小人にすまれしをいひて 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

の伽藍と號し周上に十八辨の地蔵と女を 中寺に丈六の地蔵の大像と造り

女を 詔所の地蔵と稱すハ 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

は地蔵毎年四月廿四日家前に輪を 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

俗に地蔵と稱す又山日里人集りて 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

地蔵の利益にす 彼鬼と退治す 瑞泉寺にありて 瑞泉寺にありて

花井 詔中花井町にあり 妻系伝中居伝あり 詔所の北に瑞樹

根古屋城址 詔中にあり 往在安永傳中 宗範居城址 後廢城より 永源

又正徳伝中 詔所の北に瑞樹 詔中にあり 詔中にあり 詔中にあり

瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す

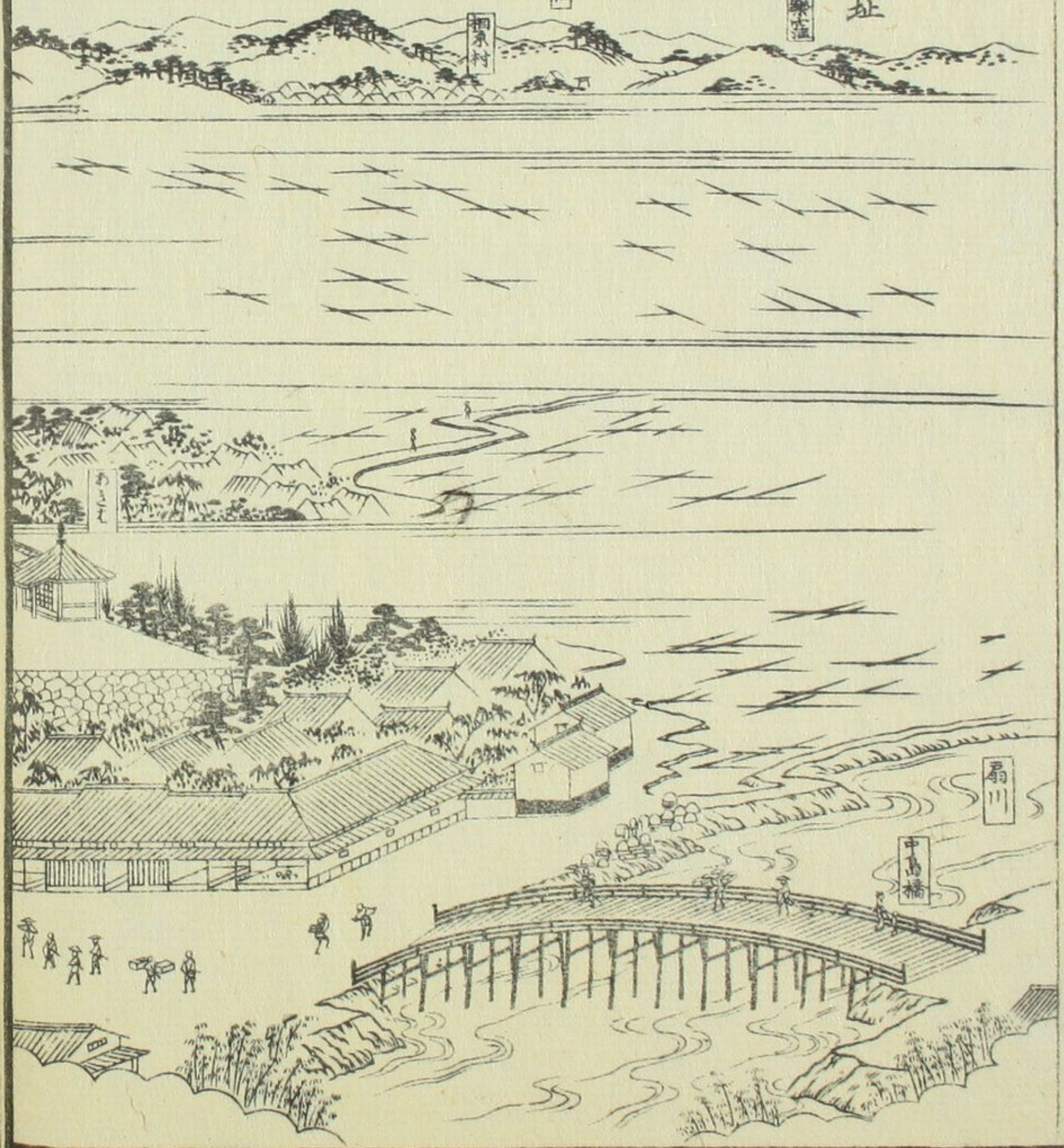
瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す

瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す

瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す 瑞樹と號す

瑞泉寺
成海長者宅址
善照寺砦

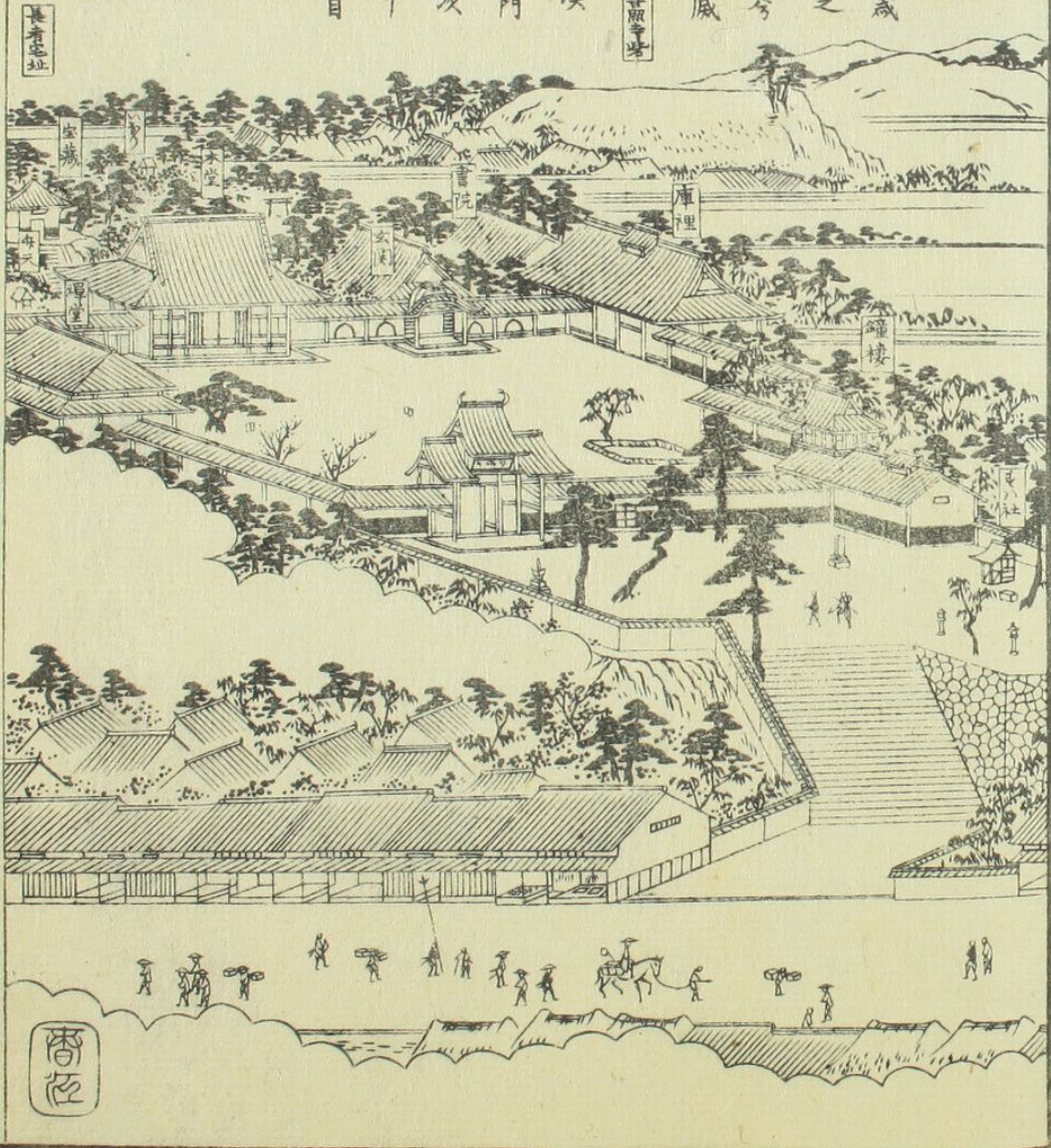
淺井園南
紺宇經年烟
樹深秋未葉
落無由尋上
方應有殘僧
在莫入禪龕
為悟心



僧蓮純

混々瑞泉千歲
不絶汲之浴之
心垢頓潔貪兮
不生法兮不滅

石川黃漢
石壇疊々寺門
懸佛殿僧房次
第連知得山中
無俗涿蟠龍自
古此標禪



善照寺砦

四聖臺 同上

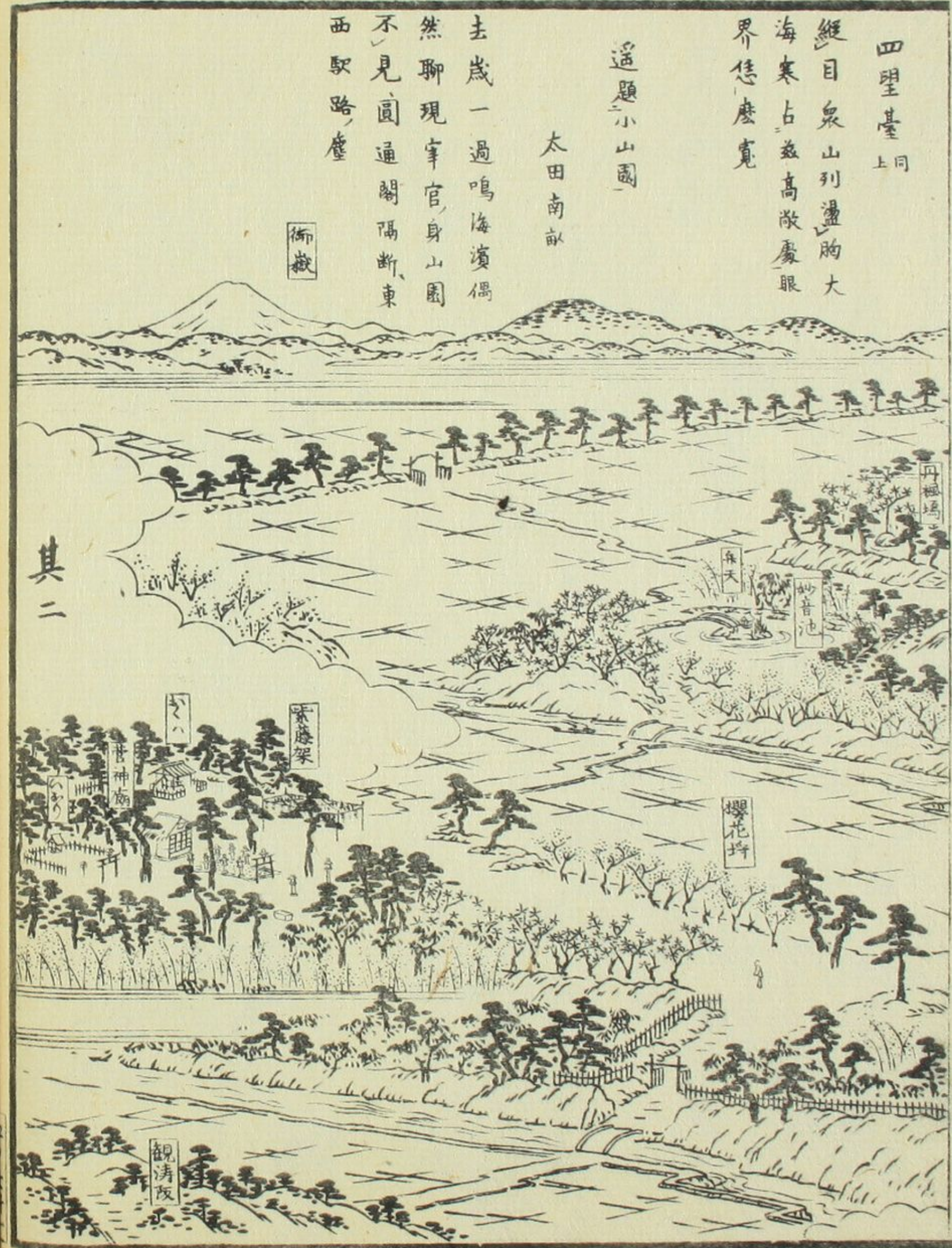
經目泉山列邊胸大
海寒占茲高敞慶眼
界恁麼寬

遙題小山園

太田南畝

去歲一過鳴海濱偶
然聊現宰官身山園
不見圓通關隔斷東
西駁路塵

御藏



其二

永正元年平部より今地ふりて瑞祥寺といひて正徳

三年今の寺号に改む あまに傳中ちの佐牌ありて佐名勇弘院殿魚庭
隣松大居士と云ふ一應永正五年の年号なりと云ふ

本尊 釈迦の木像 山門額 暹華筆の三 本堂額 龍蟠山の三字ハ
明人心敬手

成海長者成高宅址 瑞泉寺の西にあり延長年中の人といひ傳へ
坐寺古縁記に成海長者といひて是なり

丹下岩 坂の北にあり永正二年三月今川義元高師一攻とんとて傳へ
佐と云ふ所に較す所の要害と稱水甘茅刀山口海老と云ふ松植を其を
てこの岩と云ふといはれ

中嶋岩 騎中嶋川の也にあり因り中嶋川と云ふ所とてこの岩
に入ると今民家の裏に推川の墓といふ小き塚あり

善照寺岩 瑞泉寺の北にあり今古松古七株あり
おとどろき伝ふる伝系をい入と云ふ

扇川 上ハ平手新田及びお原村より下ハ扇川と云ふ所をいふ
扇川に傳へる中嶋橋といふこれ扇川といふ也

二位殿塚 成海村の西にあり最人の塚といふをいふと碑を讀むと
宗教大方より成海塚といふと傳へられ成海と云ふと傳へられ
其の由来をいふと成海と云ふと傳へられ成海と云ふと傳へられ
に成海といふと傳へられ成海と云ふと傳へられ成海と云ふと傳へられ
と云ふと傳へられ成海と云ふと傳へられ成海と云ふと傳へられ

細根山 写山の内りて
一名小山園といふ 當驛下郷氏の別荘なり其久并照菴知足

の絶言より山中に十四景有りて四時れあり之りかど頗出彼
らに委しきり人蕉中和尚の書より小山園記小澤より小省
きぬ志るも十四景の標目ハ園上小宛てそ大概とるるに足り
写所下氏別小千代倉と家号と及先知是標也電世三世にも芭蕉の門人より
翁東西遊歴の時ハ此味も必以家に寄寓ありて所并の築里も亦に依はるる
及及び星橋の冷此自画買置化志流も教多ありと條の秀文を代の雅客詞林の教
章と家に輯むされハ在との文人教士一見とをひてそにいつらう一変に翁小由緒
あり名義と稱すべし又兼堂とて存りしに翁に宛らるるのりしに
名なき奇品つら色又兼中和尚の兼堂記小澤委しけはるる小果一ぬ

桶狭間古戦場

有木村と高合村の街邊より一町余南の方北平山小古ねりに在る
是處の古守伝はるるに敗死せし旧蹟之有和八年のそ写所の下々氏以西にセフの標石と
是て義元及び信長下血戦勇死の地と信人の伝へるる又文化已の兼堂府の儒官春島
碑文と撰りて石に勒し戦場の中央に立とるる文未だ
録して以て戦記小澤土人此地と云んで形狭るるも稱す
今川義元四万五千

大軍と引率し永禄三年五月十七日南郡皆懸に到着翌十八日
の夜大軍の標へ兵糧と入ると翌十九日ハ徳川九根のあ城と攻めと
なり評定の自信を云すなり十九日僅三子小澤より軍兵と
率して志原小澤須と歩をち先う葵田の大宮へと進めりて

誓とり敢文とせらるるが神明の威感著きそまでののみハ葵田の

系にこそ名増と奉止はるるに界ぬ
信長と葵田とサミウウウ
我元我死までのり更ハ信

角て信長卿をせむふ交に白澤二御旗の先
しとてたし奉り

少とて飛けはるる思ふ候のハ折る潮満く
思ふ候のハ折る潮満く

馬の通ひもつらけれは是の赤う細道と経く
信長に今川我
元我志尾と界

せし時織田信長と葵田の宮に詣りて
夫れは春枝のてあり松原と併り井田は山崎
より世並にうを古写ゆとてを子か松原と併り桶狭間へ入て勝利
と云ふいしとてハ葵田

若くは勢とも相具善照寺の東山の美
葵田に併りおぼろ

少く勢と掲けふ所く三子計小足もと勢ハ五千餘騎と軍
少く勢と掲けふ所く三子計小足もと勢ハ五千餘騎と軍

のりも敢とさうこふとせき奉棄の内つら皆心安く思
のりも敢とさうこふとせき奉棄の内つら皆心安く思

とて兵の勇氣と励しよふ信長軍人正千秋四郎ハ御旗の
とて兵の勇氣と励しよふ信長軍人正千秋四郎ハ御旗の

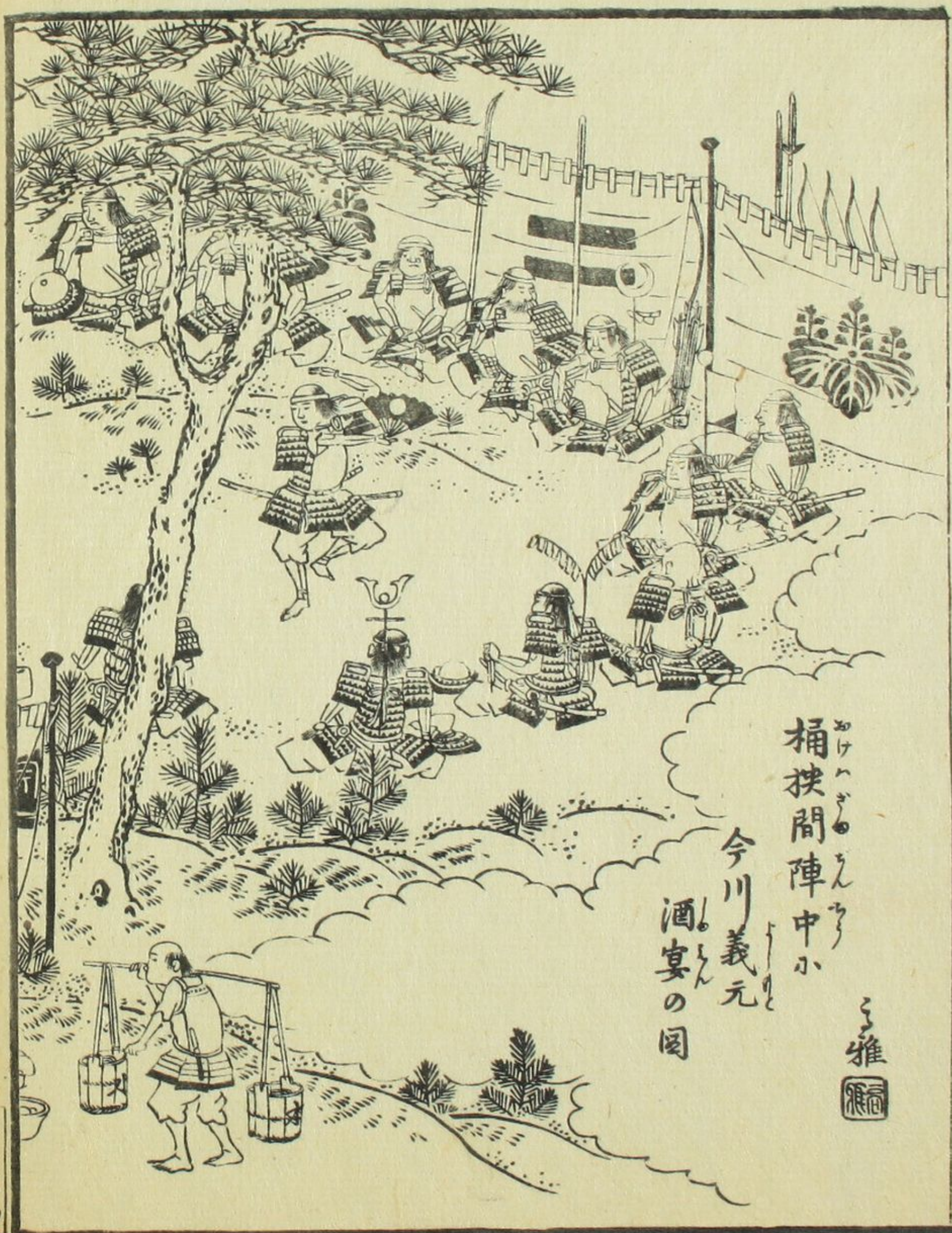
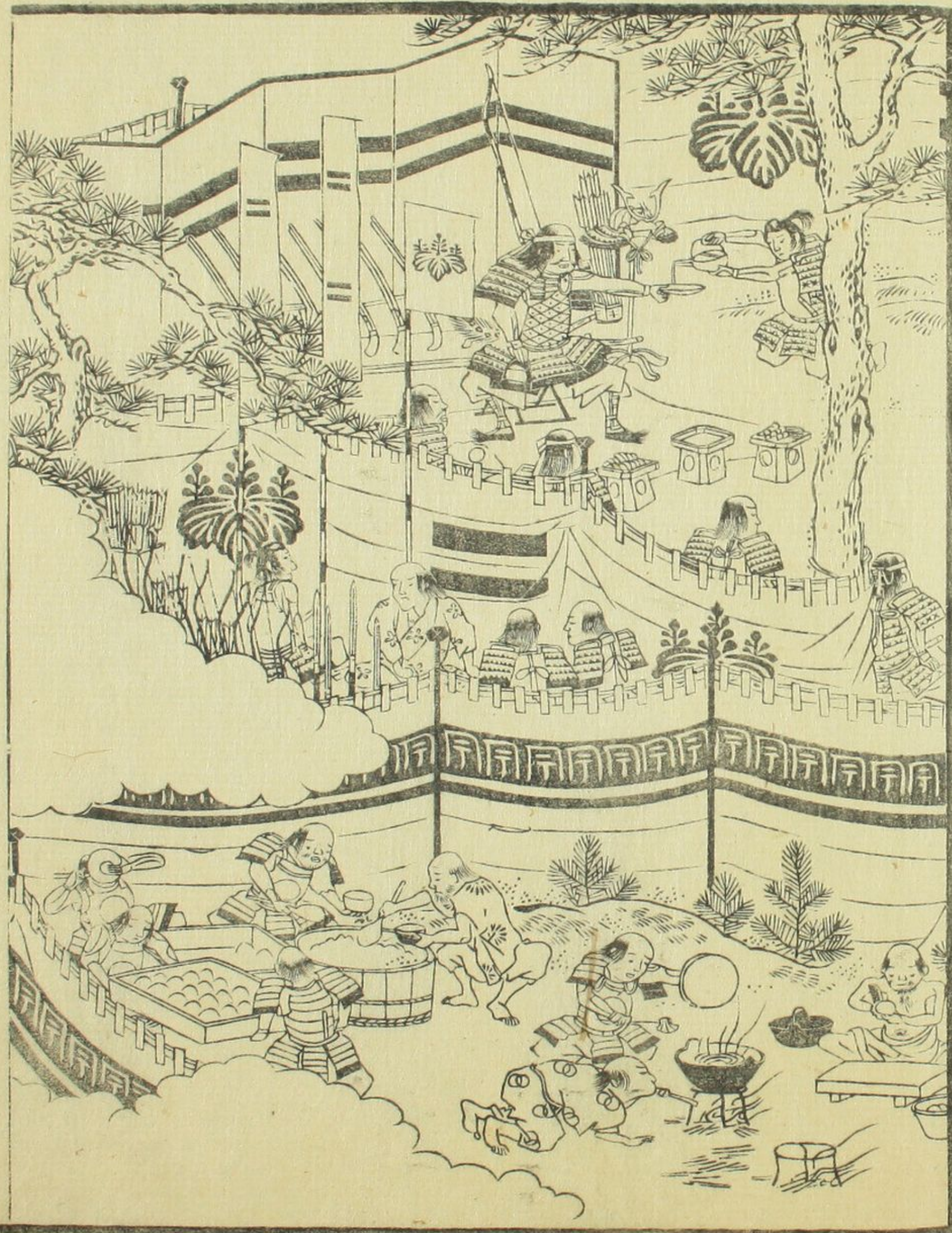
旗と掲げけんといひ義元が先陣の勢山際に行へる
旗と掲げけんといひ義元が先陣の勢山際に行へる

而も振らど懸入る北より南西より東懸破り懸通り切られ
而も振らど懸入る北より南西より東懸破り懸通り切られ

つ散る小我けりて遂小二人なり討とけれは是と知りて岩室長
つ散る小我けりて遂小二人なり討とけれは是と知りて岩室長

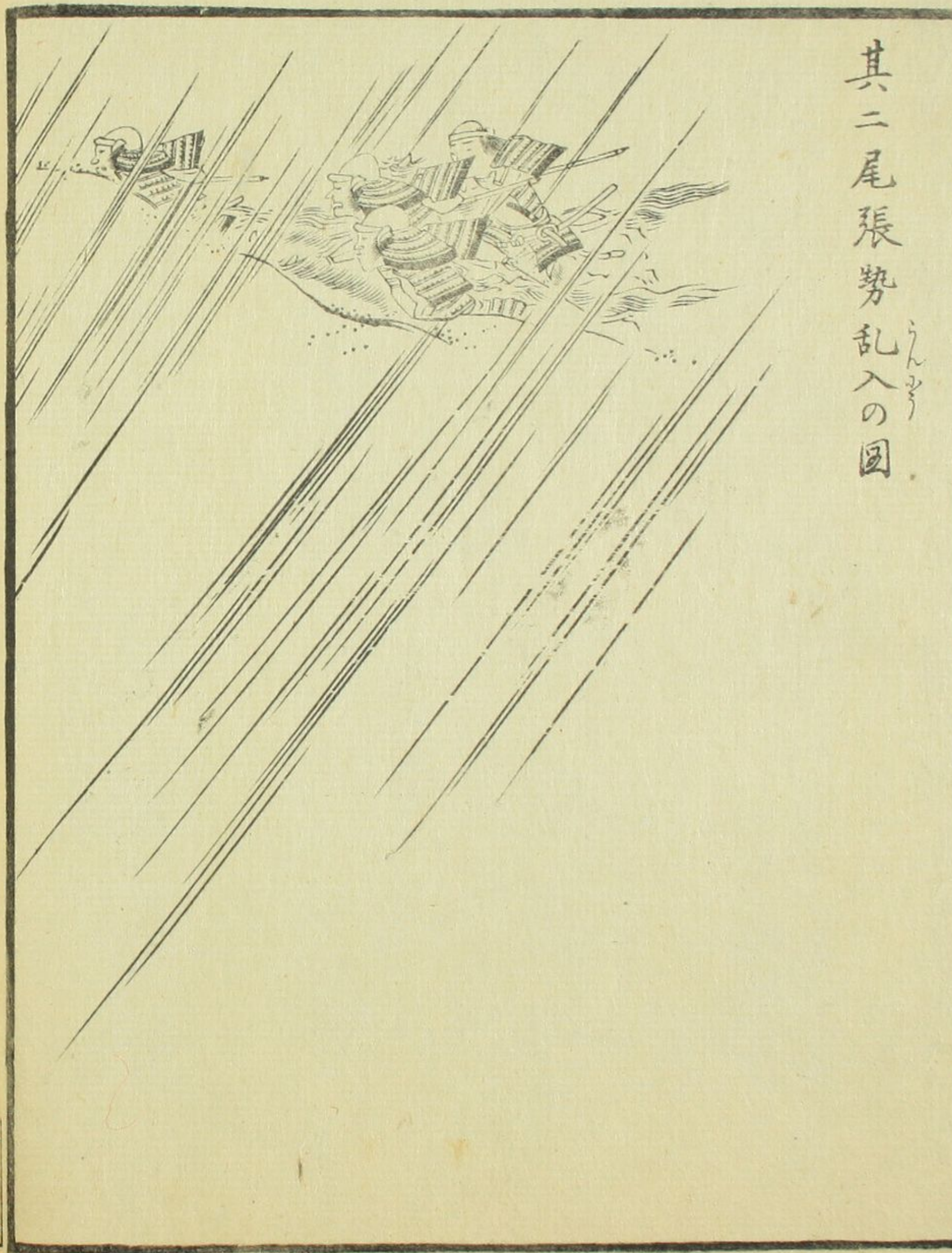
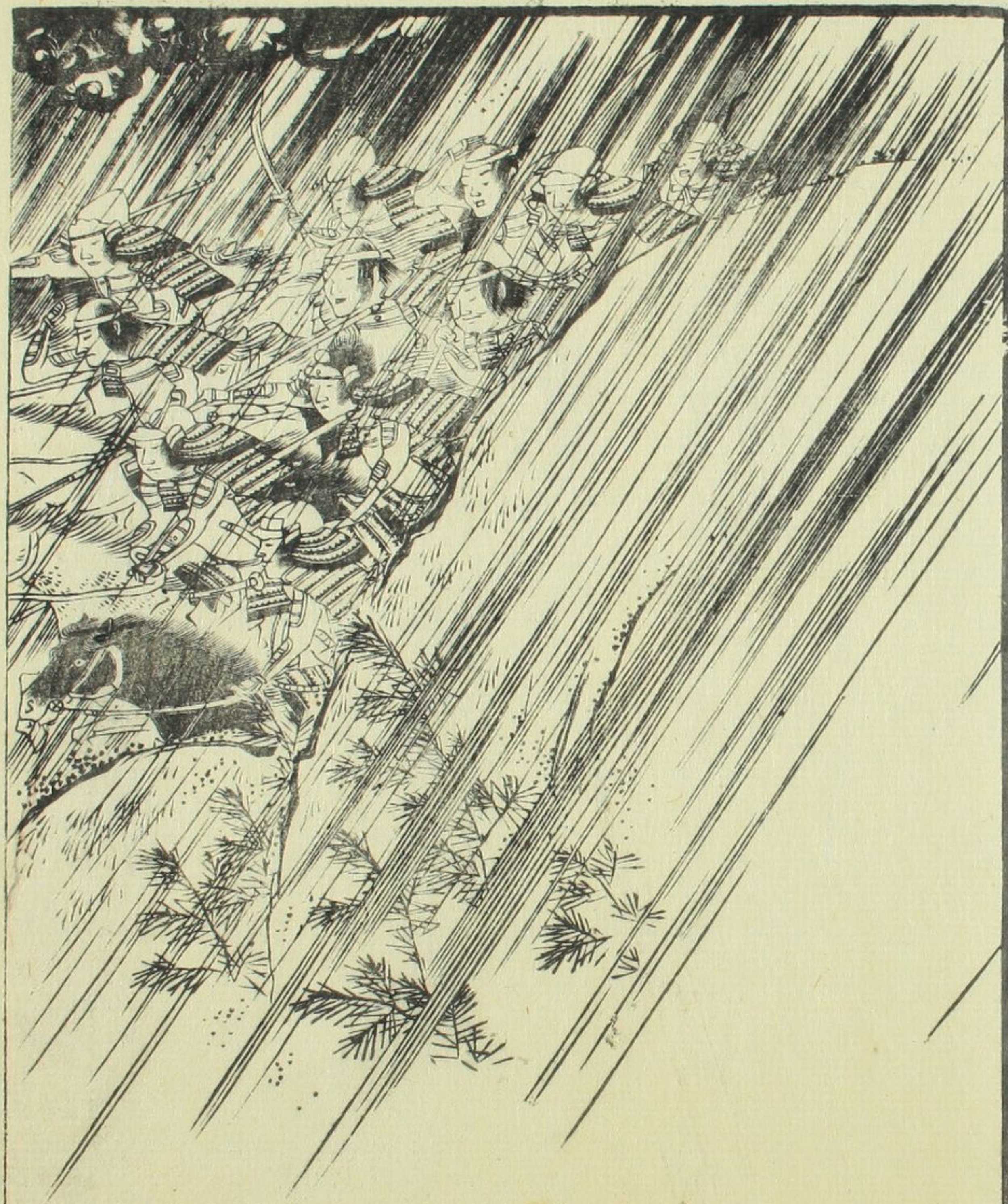
門も究竟の者共枕とて討とぬ敵頭と取て義元の見余
小入りけし物知しと取今朝ハ松平丸根の陣即討
乗取今又多の敵と討捕り危も角も我陣先ハ中野
天魔鬼神とて争たす一軍ハや終ハやとほ飲とど
居りり角て信長卿ハ中邊へ移らせ給んと一軍ハ林佐後
と他田橋之帝毛利新介家田橋六御樂小取討のれきぬ
大勢には小略して然らば給んハ勿辨とて夫ハ小苗をばやり者
少くも之無理然らんと云ハわどどかれ凶徒等終夜大言喋
兵糧入りのとて攻め給物九根の陣も兵も皆芳れり
大物も後にきて帯は解て休らん味方ハ亦城も居れ
機と考い討ハ大軍われハ思海てよ平にわらんと思いと
し角はのりて居ける事と云ハ小部ハ全戦と云ハ
後と云りわん寡と云きたに勝ハ只か後の陣と云り

たり是天のちつふよあどや枕は合戦ハ小捕言名と
り一軍切と云ふとて一軍と取義と廊一側の大音
声とて作しとてこと人々思入られハ夜の照るやうに心も暗
まそと云えりりり初まに早稲田又家利家其阿
そつと大とて生年十八と云り一が首取と云り木下
歌樂助中川合戦討毛利は内吉田新助依久る赤井部
頼て小頭と提へりける信長はとハ首途ハよとて敵勢
の後の山へ押とて一軍と云りハ山際もが旗と云り忌
より義元が本陣へかきとて下知しとて一軍と云り
近にお竹と最も松と云り敵ハ今朝松平丸根と云り
其陣と易べり松と云りハ小かからせと云り敵の陣ハ
先陣は是ハ後陣へかき合ふる必大物と討りといん
が世と云り上と云りといつる者といふと云り

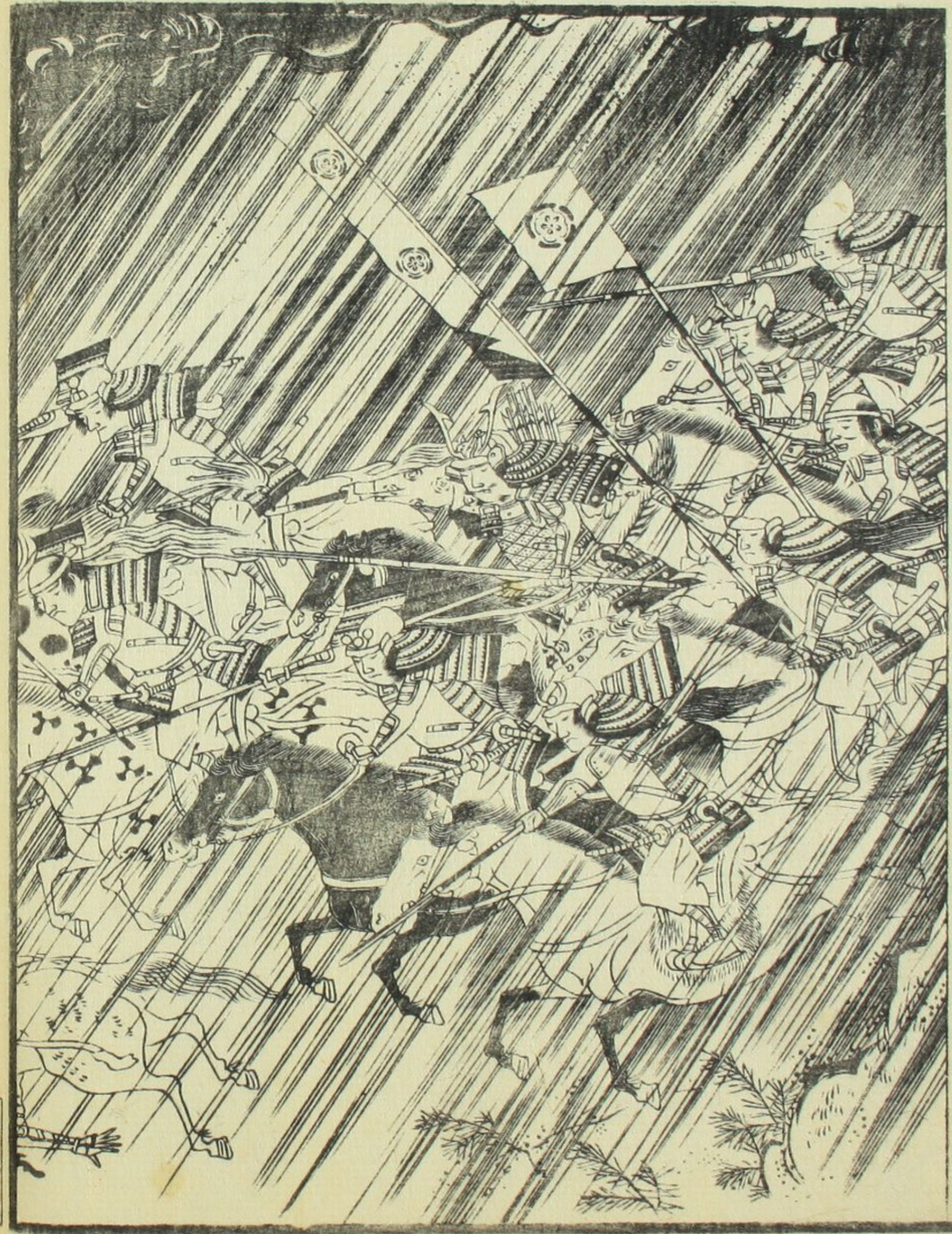


桶狭間陣中小
 今川義元
 酒宴の図

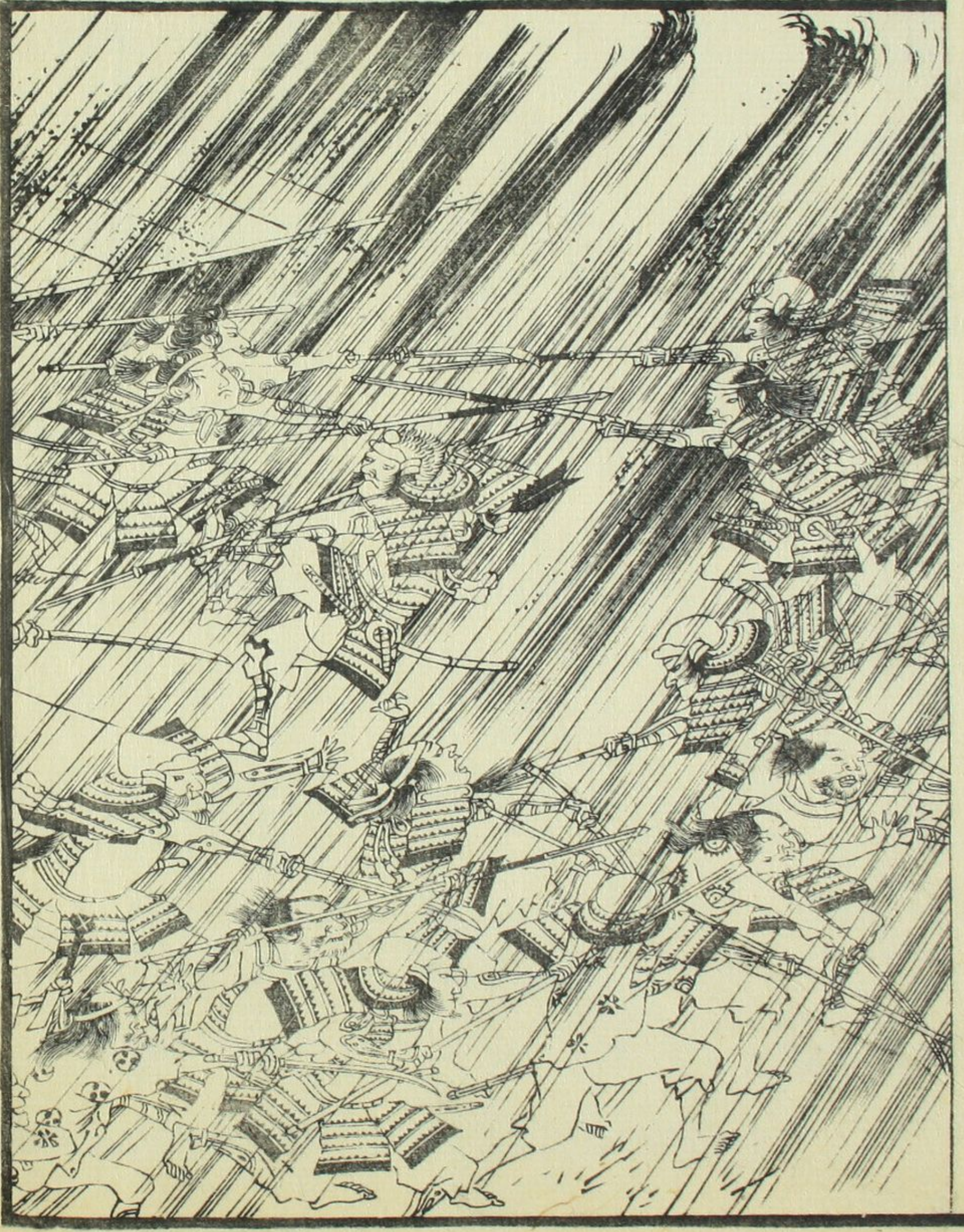
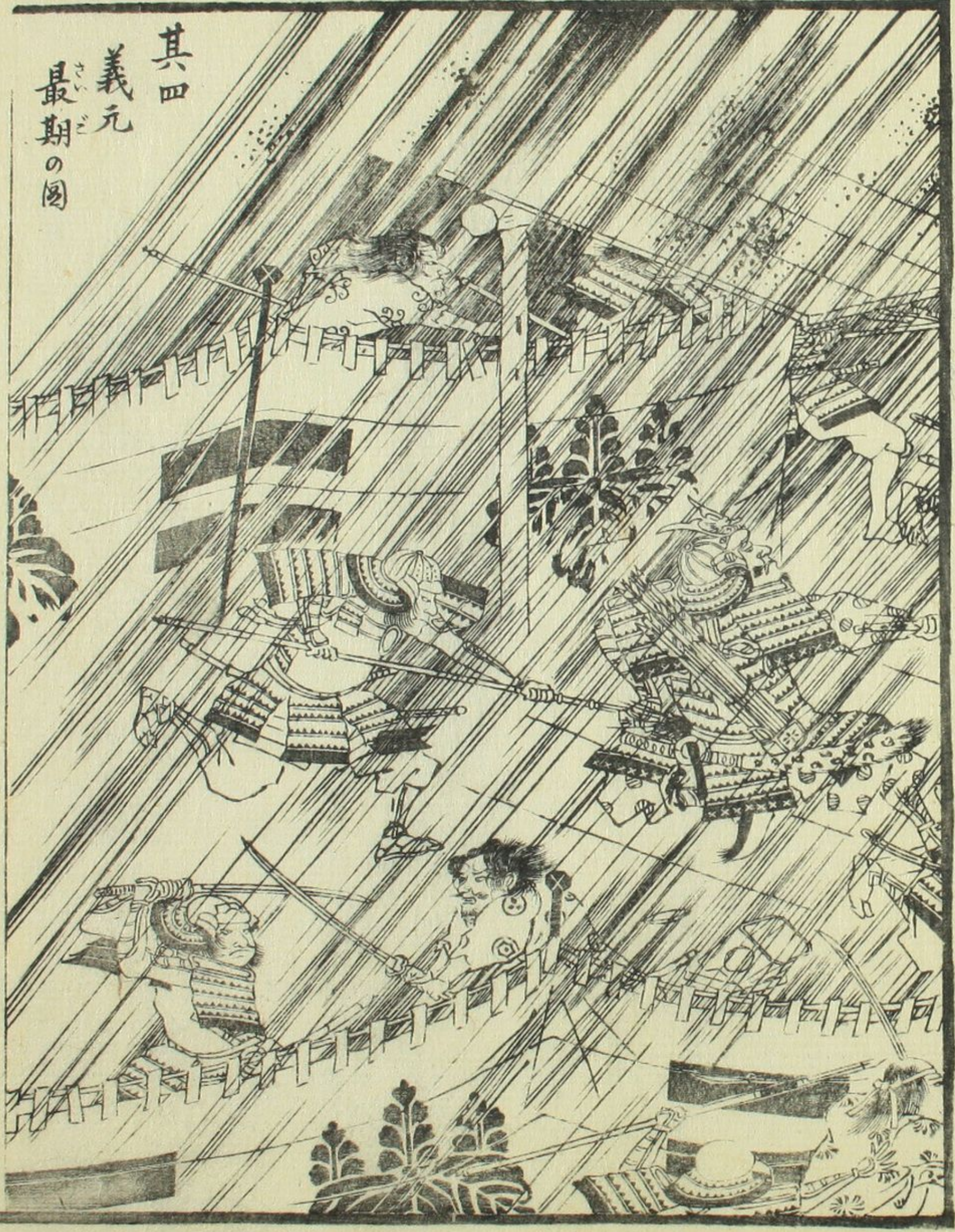
雅



其二尾張勢乱入の圖



其四
義元
最期の図



五ノ七十七

て真にたれりんとて遠軍の機を勵こほりしる所を五重ごじゆう小
村に來り大面頻り小樊田の方より海うみり來り石水と投なりやく
少すく敵陣へ海うみりかくる者海とたへく海うみりけしは海うみり小舟
味方より敵陣小近づくと見來りきりたは敵ハきてあ
ざりりも理こと之波が陣よりし上り山少く旗と居ゐる者あり
まゝ然とて下知しよは織田造は五林依後と毛利新助
去い之海射中糸小市を山基を所因河内古原田出ぬき小
そ近んばる三條射中りハ敵ハ程勢之ありまゝかくらむ
敵陣とまゝけしし足とたらしせこハ叶ふ馬と懸入懸
まゝとて中ハれハ依長はむこまハ我と我とや者共とて上小
海あり取りまゝ先小をまゝ形勢十じゆ百張良が忠と敵也
海いしと直小ハ幸あつて海うみりき敵合あはる近ちかりしハ所と味と上
まゝとて小玉洞と三喚おん叫けいてると入四方八面懸破り然通とおり

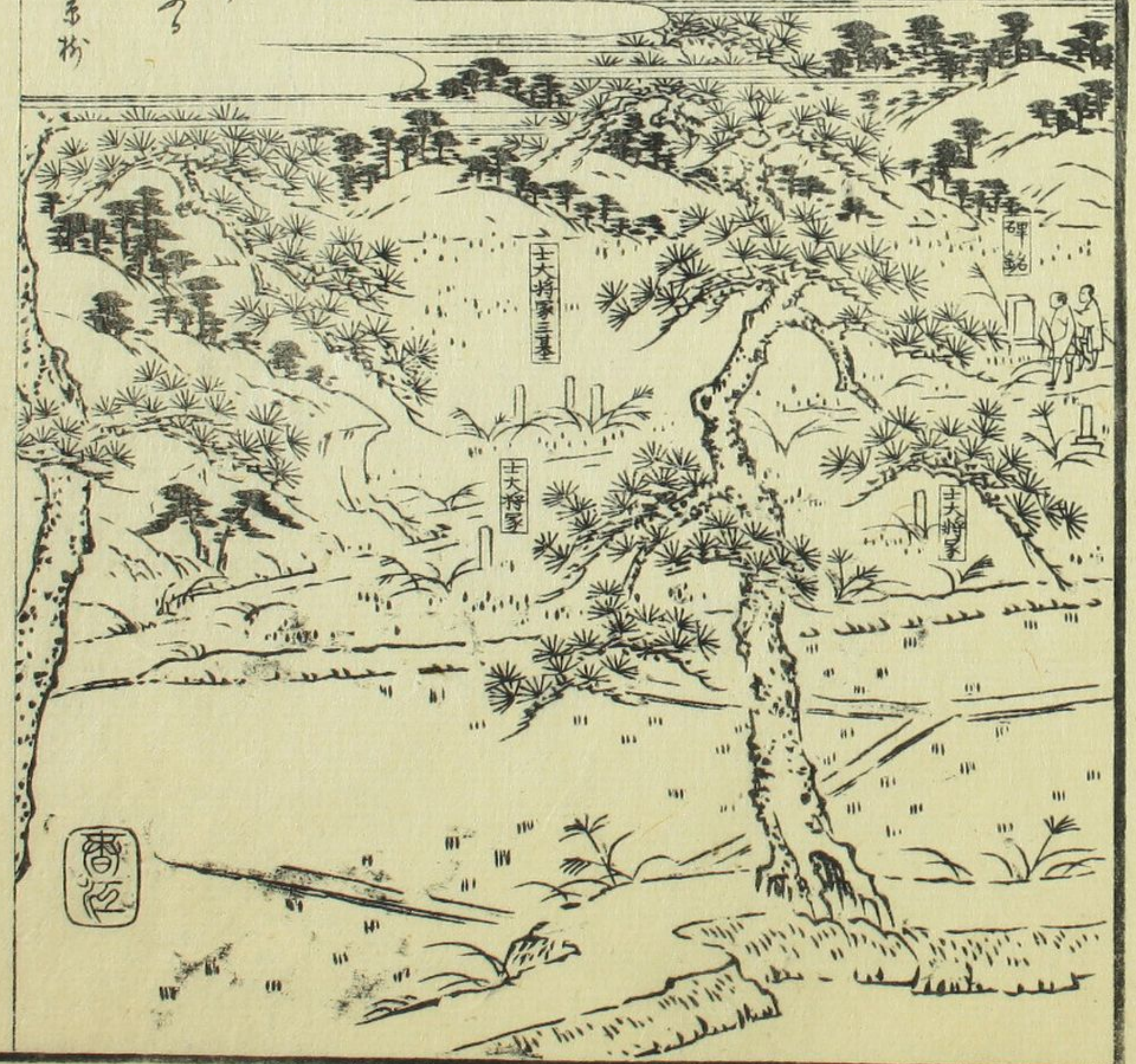
思いの傳小進と撞つ伏せ切きけしは海うみり小敵共ありてさいつど
謀ま叛人はんじんが有ある角やと三者もあつりやく喧けん嘩かとて三者も有ある
目土めつ討うちてつと命いのち者もつり新あらたまに義元ハ麻呂引也
一毛いちもう纏まととて毛け後ごやとて毛け後ごとて後ご小平をさ
かう角とて各系しやうれハ海うみりしとて海うみりしとて最後さいごとて
けるおね板いたり小平を勝かちの四とどまのりたるあつり毛
利新助と名な系しやうあつり戦いくさるがとて海うみりしとて海うみりしとて
かゝりたる角とて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて
具ぐ凍こまて進すすり志しとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて
とて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて
とて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて
首くび共の假かり名な系しやうは海うみりしとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて
とて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて毛け後ごとて

桶狭間古戦場

後元 初を前法印大捕
 我元能居四万に軍と
 在いを三と略し永
 祿三年庚申五月十
 八日平邦 首領の里
 より大軍にあり十九
 日の飯沼西に身い
 びいに平坊おま三子
 にならざる勢とん太
 子が振う二子小か
 ち一子の敵をい先子
 小けしと自し直へ
 まつり来りて田樂が
 空の本陣と改名に
 撃つていしが後を不
 意に流されんとん大
 る疾風の中敵味
 方ともいふ降丹

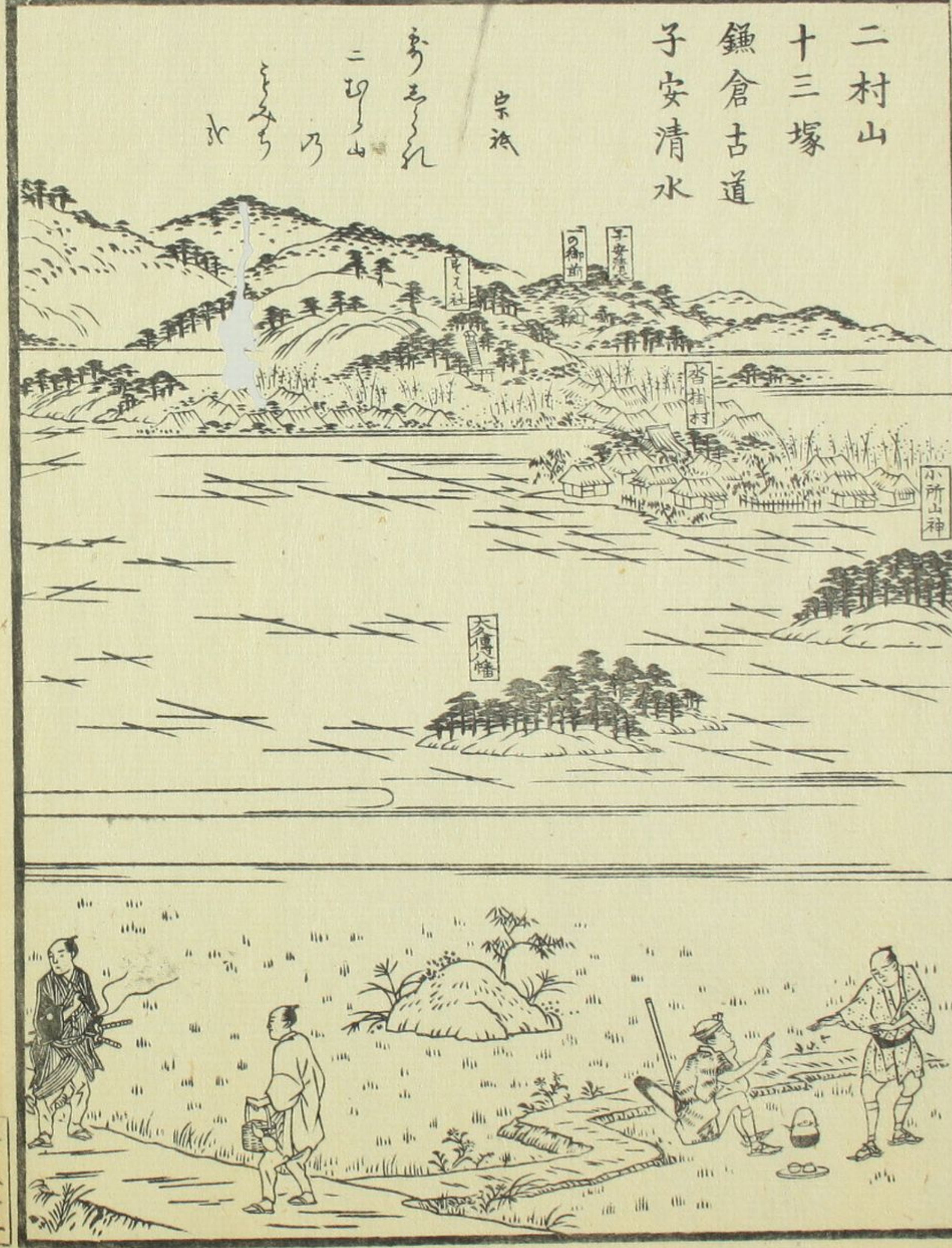
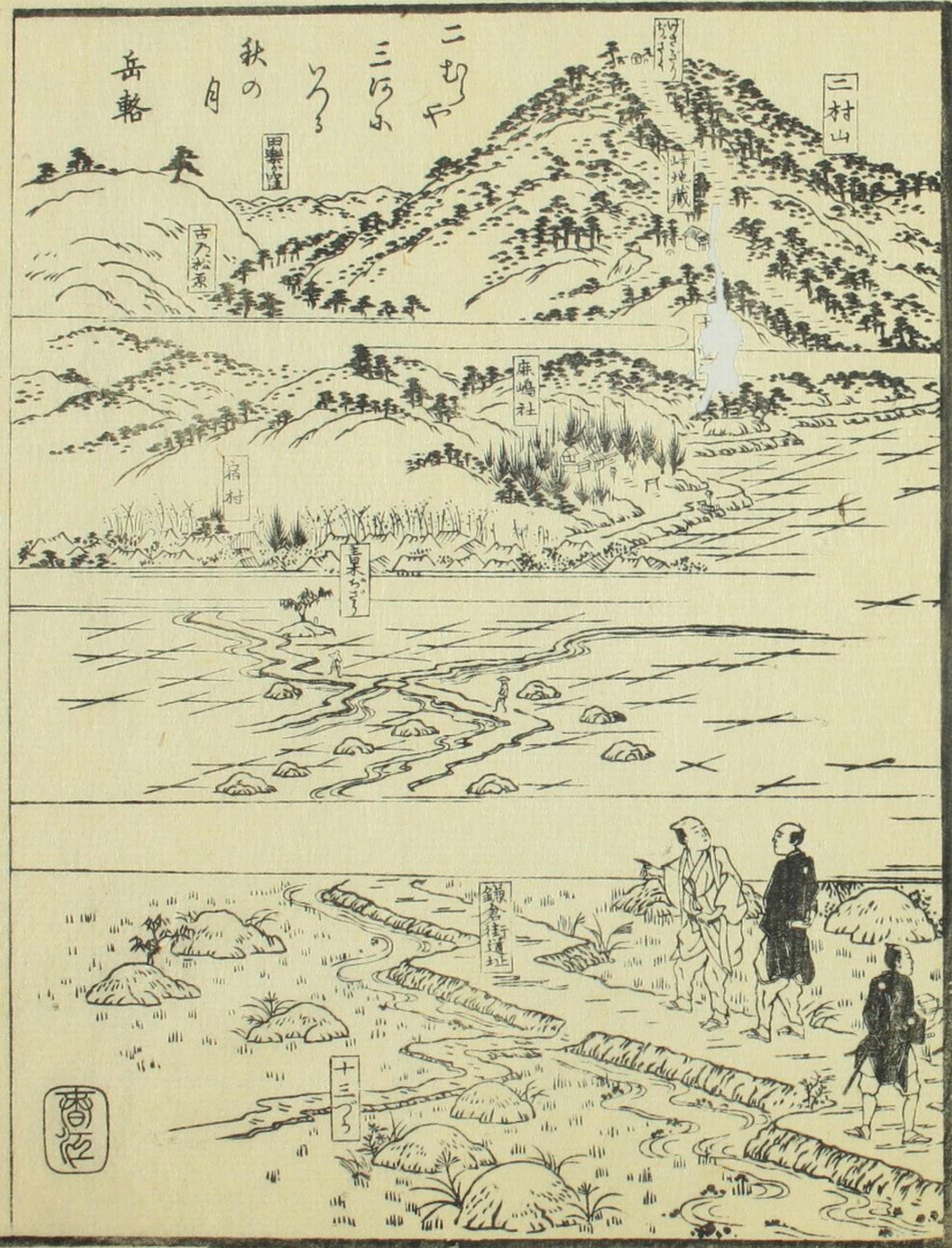


乱是擡けて征馬
 斷せりと名に後
 小平を毛利助
 秀宗を内子とまね
 入我元の津首と承
 りしとを強兵根根
 して東にまら尾兵
 追けて首とらる可
 二子ある余級中
 名を將士六十余人
 とすなり今七塚に
 とどるなりうりれは
 主姓名とるべは呼
 儀年傍くして江山
 あり杜幸たぐり
 てく西非うり野史
 くれと事一口押里に
 修るなり



行く川は若れきなり
 風のなまーさ

系樹



西ハ蒼海洋々として布帆の泅来漢人の扁舟あざやんぬいふ
 多の浦山をくハ伊勢の朝慈嶽もても夏の海に入らまは尾赤
 一の光景とらふべし

あややけはくもあまのこころまじりける花もさうらうておどろ
 侍り女にわくやむくもさうらうれにやうらわらぬまじりぬき
 してやまにたると海に波り定ゆるまじりぬきあうてあまの
 女あやけはくもあまのこころまじりける花もさうらうておど
 ろ侍り女にわくやむくもさうらうれにやうらわらぬまじりぬ
 きしてやまにたると海に波り定ゆるまじりぬきあうてあまの

清永諸賢

目 かつ衣を何と惜しむるも山は雲のまじりぬき

よみ人あ次

目 五りやまの山は雲のまじりぬき

持中納言俊忠

目 ちのつきの山は雲のまじりぬき

平春時朝臣

目 小舟の山は雲のまじりぬき

前右大臣朝臣

目 新千載 秋の山は雲のまじりぬき

堀河院中宮上院

目 秋の山は雲のまじりぬき

友永行朝

家集 玉の山は雲のまじりぬき

兼盛

家集 秋の山は雲のまじりぬき

重之

家集 秋の山は雲のまじりぬき

後醍醐天皇

長秋源草 秋の山は雲のまじりぬき

俊成々

夫木 秋の山は雲のまじりぬき

友永正家朝臣

目 秋の山は雲のまじりぬき

安房門院四條

目 秋の山は雲のまじりぬき

友永経衡

目 秋の山は雲のまじりぬき

安中納言匡房

目 秋の山は雲のまじりぬき

友永為忠朝臣

目 秋の山は雲のまじりぬき

権右仲朝臣

目 秋の山は雲のまじりぬき

兼盛法師

目 秋の山は雲のまじりぬき

俊成法師

